

アヌココロ アイヌ イコロマケナル
国立アイヌ民族博物館
年 報
2023（令和5）年度



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

国立アイヌ民族博物館
年報 2023（令和5）年度
National Ainu Museum Annual Report 2023

国立アイヌ民族博物館

年報 2023（令和 5）年度 名誉館長あいさつ

イランカラプテ

『国立アイヌ民族博物館年報 2023』をお届けします。

アヌココロ アイヌ イコロマ ケンル、国立アイヌ民族博物館は 2020（令和 2）年 4 月に、ウアイヌコロコタン、民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）の中核施設の 1 つとして、文化庁が公益財団法人アイヌ民族文化財団に運営を委託するという形で発足し、ウポポイの他の施設とともに同年 7 月 12 日に一般公開を始めました。その設立理念に「この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」とある通り、当博物館はアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進し、新たな文化の創造・発展に寄与する活動に特化した、我が国初の国立博物館です。

当年報にはこの博物館の 4 年目にあたる 2023（令和 5）年度の事業がすべて紹介されています。4 年目の年報も 2 年越しになってしまいました。今後も当該年度の終了とともに速やかに刊行できるよう、鋭意努力していく所存です。また、2025 年 7 月に館長が交代しました。本来、この挨拶文は館長が書くべきものですが、2023 年度の事業については私、前館長が把握していることから、交代するまでの年報の挨拶は私が執筆いたします。

2023 年度はウポポイ開業 3 周年を迎え、7 月 8 日に記念式典を行いました。それに先立つ 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が、厚生労働省が指定する 5 類（日常生活での対策や陽性患者、濃厚接触者の外出制限がなくなる）に移行したことを受けて、原則それまで維持されてきた感染症対策に基づく施設や設備の利用制限はすべて撤廃されることになりました。それに伴い、博物館展示室で続けられてきた接触を伴う展示物や装置の利用制限が原則撤廃され、タッチパネル式の映像装置などが本来の形で稼働するようになりました。しかし、全国で移動制限が撤廃されたためか、逆に北海道内からの訪問者、特に学校団体が減少し、年間入場者数は 2022 年度の 369,038 人から 2023 年度は 333,097 と 3 万人以上減ってしまいました。

当年度の展示、研究交流、資料収集、教育普及の各業務の概要は以下の通りです。

まず、展示では昨年同様に 2 回の特別展示（「アウタリオピッタ アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市―」会期：2023 年 6 月 24 日～8 月 20 日と「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 ―19 世紀までの軌跡―」会期：2023 年 9 月 16 日～11 月 19 日）と 3 回のテーマ展示（「地域からみたアイヌ文化展 アカント ウン コタン ―阿寒湖畔のアイヌ文化―」会期：2023 年 3 月 14 日～5 月 14 日と「A Night at the National Ainu Museum ―ウポポイナイトミュージアム “Ainu Words, Broadened Horizons” ―」会期：2023 年 12 月 23 日～2024 年 2 月 18 日、「ミナ ミナ『おばけのマ〜ルとすてきなことば』展」会期：2024 年 3 月 16 日～5 月 12 日）を特別展示室で開催しました。特別展示は、両者とも当館の歴史展示の見直しに向けた試行的な展示の意味も込めたもので、テーマ展示では、春の展示は地域の文化の紹介、冬の展示はインバウンドを対象とした初めての試みでした。インバウンド向けのイベントとしてはまた、「すすきのアイスワールド」（会期：2024 年 2 月 4 日～11 日、札幌会場）を実施しました。

研究交流では、前年度の体制を若干改変し、A 基幹研究及び悉皆調査、B 個別研究、C 研究発表支援に加え、K 共同研究（他の研究機関と共同実施する研究）を新たに設けました。今年度は A が 9 件、B が 5 件、C が 10 件、K が 3 件実施されました。他の組織との連携協定では、新たに 10 月 26 日に室蘭工業大学と包括連携協定を締結し、これで博物館独自に協定を結んだ組織は 5 ヶ所になりました。連携協定に基づく研究活動では、北海道大学アイヌ・先住民研究センターと、共催シンポジウム「ウポポイ 3 周年を迎えて～共生の道をいかに歩むのか」（開催日：2023 年 8 月 29 日）を行いました。

刊行物ではニューズレター『アヌアヌ』が 4 冊（12～15 号）刊行され、当館の研究成果公開の柱である

研究紀要2号がネット版、印刷版で刊行されました。ネットワーク事業（「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」）では加盟館等が68になり、前年度に引き続き研修会を対面とオンライン併用で開催しました。この年度に始まった事業としては、ウェブページの開設、会報誌『ブンカラ通信』の刊行（創刊号と2号）、ブンカラ共同研究の募集開始と試行、そしてブンカラ協働展示（「アイヌの建築と工芸の世界 ―チセ、マキリ、アットゥシー―」、国立近代建築資料館、会期：2024年3月1日～24日）の実施をあげることができます。

資料の収集・保存・整備では、166件184点の資料を購入し、16件48点の寄贈、101件110点の寄託を受けました。他館の展示等への貸し出しでは、4件72点の貸し出しを行いました。資料の登録では、旧アイヌ民族博物館の資料と2015（平成27）年度から2023年度第1回購入までの文化庁資料のデータベースシステムへの登録作業が行われました。その結果、2023年度末時点で、資料登録12,243件、画像登録9,597件（1,889件新規登録）、音声登録14件となりました。資料の利用では、列品等の特別観覧が22件205点、資料等の画像利用が23件28点（いずれも職員の利用を除く）でした。

教育普及事業では、教育旅行で来館した児童生徒向け入門コース「はじめてのアイヌ博」に123校、129件、引率含め9,303名が受講しました。教員向けの研修会、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」は当年度も対面とリモートの平行で実施し、対面参加43名、リモート参加16名の計59名の先生が受講しました。また、社会人向けの研修は22団体（社会人、大学、教育委員会、官公庁他）805名に実施しました。

アイヌの文化伝承に資する研修では、当館と協定を結んでいる（公社）北海道アイヌ協会のアイヌ工芸者技術研修事業に2名の参加者があり、当館にて資料熟覧などの研修を実施しました。さらに、今年度から当館主催の研修事業として4月から「展示資料（アイヌ衣服）複製事業」（2か年計画）を実施し、講師1名、技術者2名が参加して1年目の活動として資料の熟覧、原寸図の作成などを行いました。翌年度に製作を行う予定です。

一般来館者向けの普及事業では、特別展示やテーマ展示に関連するイベントを中心とした「ホリデーイベント」を通算40回（工作型3回、講演型10回、対話型10回、ガイド型17回）実施し、延べ参加者数3,290名の方にご参加いただきました。また、基本展示室では「ギャラリートーク」として、探究展示の各キットの使い方を見せる「かわりにテンパテンパ」を実施し、通算5,286組12,341名の来館者の方にご参加いただきました。昨年度まで感染症対策として制限してきました「私たちのことば」展示のタッチパネルは昨年度から自由運用となり、探究展示も新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受けて、2023年12月から無人運用を開始しました。

運営では、アイヌ文化を担う方々やアイヌの歴史と文化を研究されている方々の意見を広く受け止め、それを中長期的な視野を持って博物館の運営に生かしていくために、2020年度に設けました博物館運営会議を2023年度も開催するとともに、その下に設けた展示検討、研究推進、学術交流の3つのワーキング会議を当年度も引き続き開催して、それぞれの課題について助言、提言をいただきました。

このようにアヌココロ アイヌ イコロマ ケンル、国立アイヌ民族博物館は、開館4年目の2023年度にも様々な事業を実施しました。詳細はこの年報に収められていますので、是非ご覧下さい。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2025年8月

アヌココロ アイヌ イコロマ ケンル

アッパケタ アンサパネクル エトゥナンカラ

国立アイヌ民族博物館名誉館長 佐々木史郎

「アッパケタ アンサパネクル」…「初代（最初の）館長」の意。

目 次

名誉館長あいさつ	3
I 概要	9
I -01 理念・目的	9
I -02 沿革	10
I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について	12
I -04 博物館のロゴマークについて	15
I -05 位置と周辺環境	17
II 管理運営	19
II -01 組織	19
II -01-01 組織図	
II -01-02 人員構成	
II -01-03 専門グループ	
II -02 運営組織	24
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議	
II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会	
II -02-03 その他の運営組織	
III 施設	31
III -01 施設概要	31
III -01-01 整備の基本方針	
III -01-02 施設概要	
III -02 建物の整備の基本方針と計画内容	32
III -03 建物の平面図	35
III -04 1階の施設	36
III -04-01 1階来館者ゾーンの施設	
アパサム	エントランスロビー
イノカヌカラ トウンブ	シアター
ウウエネウサラ トウンブ	交流室
カンピソシヌカラ トウンブ	ライブラリ
イコロマケンル イホク ウシ	ミュージアムショップ
チエトウン スウォブ オマ トウンブ	ロッカー室

イカオイキ トウンブ	救護室	
アシンル・セブ アシンル	トイレ・多目的トイレ	
III -04-02 1 階管理・運営ゾーンの施設		
カンピヌイエ トウンブ	調査研究室	
ヤイパカシヌ トウンブ	研修室	
イコロ ウワンテ トウンブ	分析調査室	
CT トウンブ	CT 室	
イパカレ トウンブ	燻蒸室	
イノカ ウク トウンブ	撮影室	
III -05 2 階の施設		48
III -05-01 来館者ゾーンの施設		
インカラ ウシ	パノラミックロビー	
イコロ トウンブ	基本展示室	
イアシケウク	導入展示	
アエキルシ	プラザ展示	
イタク	私たちのことば	
イノミ	私たちの世界	
ウレシパ	私たちの暮らし	
ウパシクマ	私たちの歴史	
ネブキ	私たちのしごと	
ウコアプカシ	私たちの交流	
イケレウシ「テンパテンパ」	探究展示 テンパテンパ	
シサク イコロ トウンブ	特別展示室	
アシンル	トイレ	
ニカラ、トゥシエリキンペ、シモイエニカラ	階段、エレベーター、エスカレーター	
III -05-02 管理・運営ゾーンの施設		
イコロ プ	収蔵庫	
イコロ プ セム	収蔵庫前室	
イコロ プ	一般収蔵庫	
シサク イコロ プ	特別収蔵庫	
サパネクル トウンブ	館長室	
ウエカプ トウンブ	応接室	
IV 2023（令和 5）年度事業		71
IV -01 2023（令和 5）年度主要事項		71
IV -02 入館者数（月別）		74
IV -03 展示		75
IV -03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催		
IV -03-02 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催		
IV -03-03 2024（令和 6）年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備		
IV -03-04 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行		

IV -04 調査研究	86
IV -04-01 調査研究事業	
IV -04-02 ネットワーク事業	
IV -04-03 研究集会の企画・開催	
IV -04-04 研究成果の社会発信	
IV -04-05 レファレンス	
IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備	
IV -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施	
IV -04-08 刊行物	
IV -04-09 国際交流	
IV -05 資料の収集、保管、活用	114
IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出	
IV -05-02 博物館における列品等の整理及び整備	
IV -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理	
IV -05-04 資料の熟覧・画像利用	
IV -05-05 分析機器運用	
IV -05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）	
IV -05-07 博物館ライブラリの運営	
IV -06 教育普及	121
IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施	
IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施	
IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討	
IV -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム	
IV -06-05 学校教育と連携した取り組みの企画立案	
IV -07 一般運営業務	130
IV -07-01 利用サービス	
IV -07-02 広報企画	
IV -07-03 事業予算	

I 概 要

I -01 理念・目的

理 念

この博物館は、先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

（『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より）

目 的

1. アイヌの歴史・文化・精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
2. アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
3. アイヌの歴史・文化に関する調査と研究を行う博物館
4. アイヌの歴史・文化等を展示する博物館等をつなぐ情報ネットワーク拠点となる博物館

（『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』2013年8月より）

I -02 沿 革

- 1965 年 白老町でポロトコタン営業開始
- 1967 年 白老町立白老民俗資料館開業
- 1984 年 北海道ウタリ協会総会で「アイヌ民族に関する法律（案）」が採択される
- 1984 年 アイヌ民族博物館開業
- 1987 年 第 5 回国連人権委員会人権保護小委員会先住民作業部会にアイヌ民族の代表が参加
- 1992 年 国連総会で野村義一北海道ウタリ協会理事長が記念演説
- 1993 年 国連総会が「世界の先住民族の国際年」を宣言（1995 年～ 2004 年を「世界の先住民の国際の 10 年」、2005 年～ 2014 年を「第 2 次世界の先住民の国際の 10 年」に指定）
- 1995 年 3 月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 1996 年 4 月 ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
- 1997 年 5 月 「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（アイヌ文化振興法）公布。この法律の成立に伴い北海道旧土人保護法、並びに旭川市旧土人保護地処分法が廃止される
- 1997 年 11 月 アイヌ文化振興法の指定法人として財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構を指定
- 2007 年 9 月 国連総会「先住民族の権利に関する国際連合宣言」採択
- 2008 年 6 月 衆参両院「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
- 2008 年 7 月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会設置
- 2009 年 7 月 アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会が『報告書』を提出
「民族共生の象徴となる空間」（民族共生象徴空間）の構想が初めて打ち出される
- 2009 年 12 月 アイヌ政策推進会議（座長：内閣官房長官）発足
- 2010 年 3 月 アイヌ政策推進会議に民族共生の象徴となる空間、北海道外アイヌの生活実態調査の両作業部会設置
- 2011 年 6 月 両作業部会が『報告書』を提出（民族共生象徴空間の設置場所を北海道白老郡白老町のポロト湖畔に選定）
- 2011 年 8 月 アイヌ政策推進会議に政策推進作業部会設置
- 2012 年 3 月 「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（以下、博物館調査検討委員会）発足
- 2012 年 7 月 『「民族共生の象徴となる空間」基本構想』（アイヌ政策関係省庁連絡会議）
- 2013 年 8 月 『「民族共生の象徴となる空間」における博物館の基本構想』（博物館調査検討委員会）
- 2013 年 11 月 博物館調査検討委員会の下に「展示・調査研究」、「施設整備」、「組織運営」の 3 つの専門部会を設置
- 2014 年 6 月 「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定
- 2015 年 3 月 『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』（国土交通省北海道開発局）、『「民族共生の象徴となる空間」における博物館基本計画報告書』（博物館調査検討委員会）
- 2015 年 7 月 『国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画』（文化庁）
- 2015 年 11 月 文化庁が「国立のアイヌ文化博物館（仮称）設立準備室」を文化庁内と札幌（北海道大学北キャンパス総合研究棟 3 号館 2 階）に設置

2016 年 4 月	『国立の民族共生公園（仮称）基本計画』（国土交通省北海道開発局）
2016 年 5 月	アイヌ政策推進会議にて民族共生の象徴となる空間を「民族共生象徴空間」、中核施設の名称をそれぞれ「国立アイヌ民族博物館」、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」とすることが決定される。それにともない博物館設立準備室も「国立アイヌ民族博物館設立準備室」となる
2016 年 5 月	『国立アイヌ民族博物館展示計画』（文化庁）
2016 年 7 月	『「民族共生象徴空間」基本構想（改訂版）』（アイヌ総合政策推進会議）
2017 年 3 月	『国立アイヌ民族博物館展示基本設計』、『国立アイヌ民族博物館建物基本設計』公表
2017 年 6 月	『アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針について』の一部変更閣議決定
2017 年 9 月	『国立アイヌ民族博物館展示実施設計』、『国立アイヌ民族博物館建物実施設計』策定
2017 年 12 月	国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会設置
2018 年 1 月	白老町の博物館建設予定地でアイヌ民族博物館主催のチセコテノミ（地鎮祭）実施
2018 年 3 月	アイヌ民族博物館閉館
2018 年 4 月	一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が合併して公益財団法人アイヌ民族文化財団設立
2018 年 5 月	国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議設置
2018 年 12 月	民族共生象徴空間の愛称を「ウポポイ」（UPOPOY）とし、そのロゴと博物館のロゴを定める
2019 年 5 月	「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（アイヌ施策推進法）施行。この法律の成立に伴いアイヌ文化振興法が廃止される
2019 年 9 月	「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」閣議決定（この閣議決定により 2014 年の基本方針は廃止）
2019 年 9 月	国立アイヌ民族博物館建物本体竣工、11 月には博物館内（白老）にも準備室を設置
2020 年 2 月	国立アイヌ民族博物館展示施工完了
2020 年 3 月	国立アイヌ民族博物館設立準備室閉鎖
2020 年 4 月	国立アイヌ民族博物館発足
2020 年 7 月	民族共生象徴空間開業記念式典挙行（11 日） 国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間が開業（12 日） 新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用の義務化、入場入館前の検温と手指消毒の徹底とともに、博物館展示室への入室者を 1 時間当たり 100 人に制限する
2020 年 10 月	展示室への入室制限を 1 時間当たり 200 人に緩和する
2021 年 6 月	新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館（6 月 1 日～ 20 日）
2021 年 7 月	民族共生象徴空間開業 1 周年を迎える
2021 年 9 月	新型コロナウイルス感染症の蔓延により休館（8 月 31 日～ 9 月 30 日）
2022 年 3 月	2021 年度のウポポイの入場者 190,618 名
2022 年 7 月	民族共生象徴空間開業 2 周年を迎える
2022 年 11 月	文化の日（3 日）に無料入場を実施し、1 日で 6,490 名の入場者を迎える
2023 年 3 月	2022 年度のウポポイ入場者数 369,038 名
2023 年 7 月	ウポポイ（民族共生象徴空間）開業 3 周年記念式典挙行（8 日）
2023 年 11 月	文化の日（3 日）に無料入場を実施し、1 日で 6,692 名の入場者を迎える
2024 年 3 月	2023 年度のウポポイ入場者数 333,097 名

I -03 館内におけるアイヌ語の表記・方言について

アイヌ語の復興を目的として、当館をはじめ民族共生象徴空間（ウポポイ）ではアイヌ語を第一言語と定めている。そのために館内及び展示室の解説パネルや案内サインにはアイヌ語が1行目、あるいは最初に表示されている。



博物館の館名板 第1行目がアイヌ語

館名板の1行目にあるアイヌ語の館名は、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議が検討、提案し、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会が決定したものである。「アヌココロ」＝「私たちが共有する」、「イコロマケンル」＝「宝が入った建物」で、直訳すると「私たちが共有するアイヌの宝物が入った建物」となる。「私たちが共有する」が「国立」に対応し、「宝物が入った建物」が「博物館」を意味する。

また、アイヌ語は復興とともにその方言の多様性を守っていくために、当館では基本展示室の中テーマ解説のアイヌ語文の作成を、各地域でことばを受け継ぐ人たちに依頼した。執筆者は自分が学んでいる方言や書きたい方言で記述しているために、解説文ごとに異なる方言が使われている。基本展示の各テーマで使用された方言は以下の通りである。

私たちのことば	沙流方言
私たちの世界	釧路（鶴居）方言、静内（東別）方言、十勝（帯広）方言
私たちの暮らし	静内（東別）方言、三石方言、石狩（旭川）方言
私たちの歴史	沙流方言、千歳方言、十勝（本別、帯広）方言
私たちのしごと	白糠方言、十勝（本別、帯広）方言、樺太方言
私たちの交流	沙流方言、千歳方言
展示室案内板	白老・幌別方言



5 言語で記された中テーマ解説
上から順にアイヌ語、日本語、英語、
中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語
（基本展示「私たちの世界」より）

I -04 博物館のロゴマークについて



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

I -04-01 国立アイヌ民族博物館ロゴマークコンセプト

伝統的なアイヌの家屋における屋根を支える構造のひとつである三脚（ケトゥンニ）をイメージ。アイヌ文化の復興、新たな文化の創造を「支える」イメージ。

メインカラーとして、伝統的なアイヌの服飾に用いられることも多い、紺と赤を採用。

下の縦線の本数は、アイヌ語で「たくさん」を表す表現にも用いられる数「6」とし、多くの人びとが集うことをイメージ。博物館の基本展示を構成するテーマ展示の数「6」とも合致。

（『国立アイヌ民族博物館ロゴマークマニュアル』より）

I -04-02 その他のロゴマークの使い方

■カラー表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

■モノクロ表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

■白抜き表示

Aタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Bタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

Cタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

Dタイプ



NATIONAL AINU MUSEUM

I -05 位置と周辺環境

I -05-01 民族共生象徴空間の候補地選定の経緯

特に自然環境や交通アクセス等の自然的・地理的条件、アイヌ文化振興の活動の基盤となる人材や施設等の集積状況、地元の関係機関等の協力体制等において優れている北海道白老町が候補地としてふさわしいと判断した。

白老町内においては、ポロト湖畔において、アイヌの人々が自ら設立したアイヌ文化に関する施設等を中心に舞踊等の伝承者の育成や体験学習等の活動が展開され、国内外から多くの観光客等が訪れているとともに、同湖の周辺の区域に、アイヌ文化の伝承活動等における利活用の実績のある森林、海洋等の自然環境等の資源がコンパクトにまとまって存在すること等から、同湖周辺の区域が象徴空間の中心的な区域として最もふさわしいと想定される。

（『「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書』アイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会、2011年、pp.9-10より）

I -05-02 民族共生象徴空間設置対象地と周辺の概況

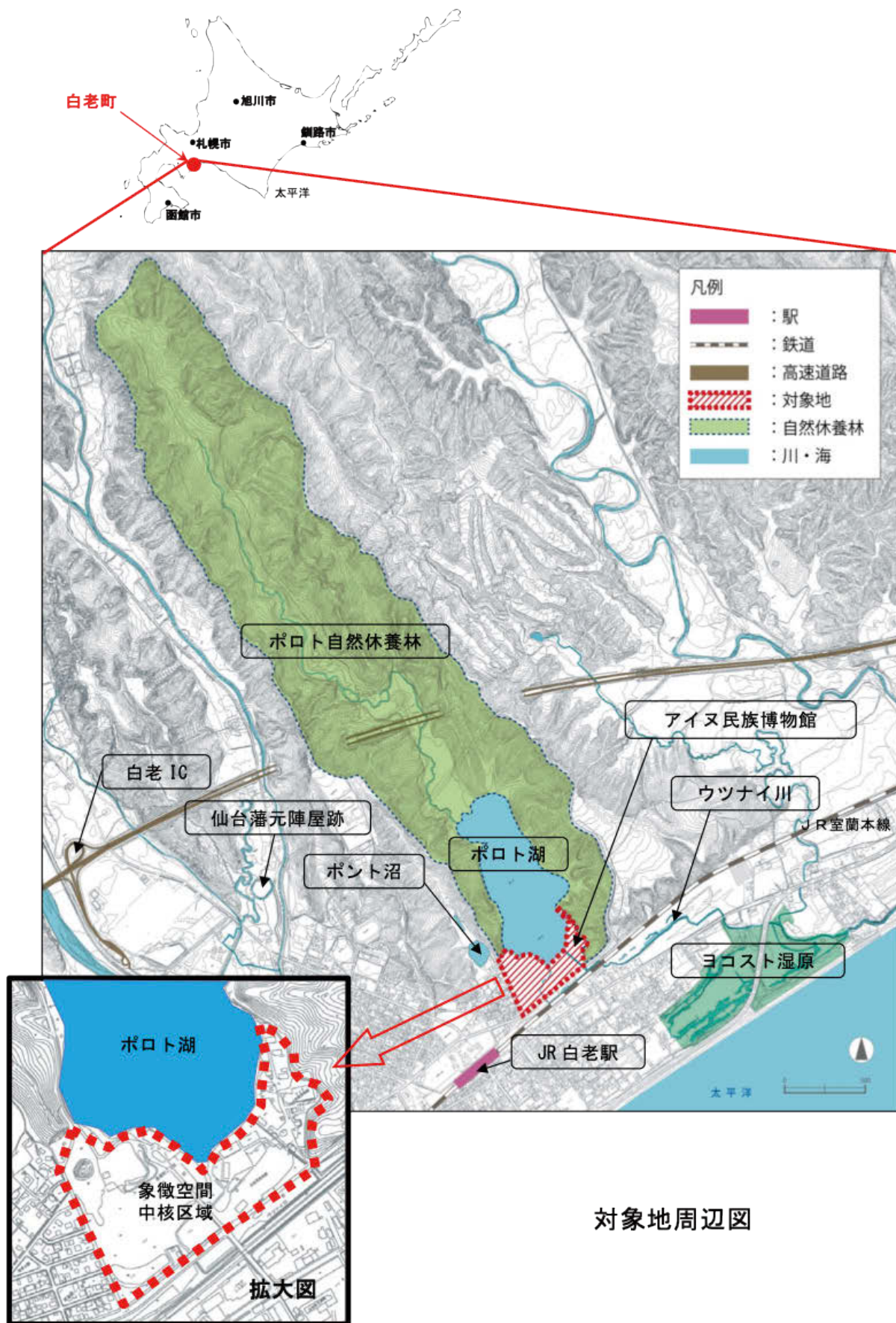
対象地は、社台川水系ウツナイ川の流域にあり、背後の山々から自然休養林、ポロト、ウツナイ川を経て、ヨコスト湿原、太平洋につながる一連の自然環境が形成されており、ポロトの近隣には、アイヌの伝承においてポロトと対をなすポントも位置している。

対象地周辺のポロト遺跡からは縄文中期の土器などが出土しており、その時代にはすでに、この地域に人が居住していたことがうかがえる。また、古くからコタンをつなぐ海に沿ったネットワークを通じて遠距離交易が行われていた。

—中略—

交通の面では、JR 白老駅から北東約 500m に位置するとともに、道央自動車道白老 IC から道道白老大滝線と町道を介して約 3Km で接続しており、道南の函館方面及び道央の札幌方面のいずれから交通条件の至便な場所にある。

（『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.5より）



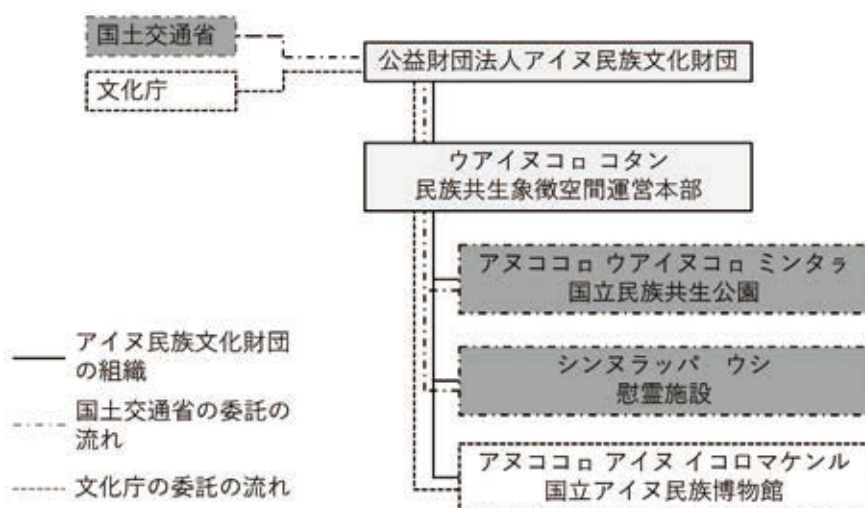
（『「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園（仮称）基本構想』国土交通省北海道開発局、2015年、p.6より）

II 管理運営

II -01 組織

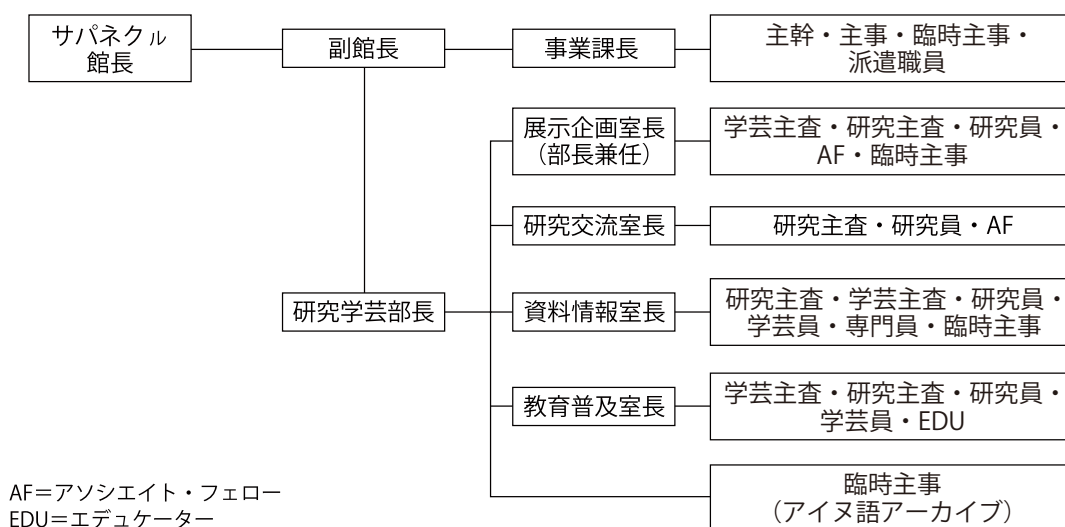
II -01-01 組織図

民族共生象徴空間の組織



国立アイヌ民族博物館組織図

2023（令和5）年度



II -01-02 人員構成

2023（令和5）年度国立アイヌ民族博物館 人員構成（2023年12月時点）

所属室・課	役職名	氏 名
	館長	佐々木 史郎
	副館長	南 健一
	研究学芸部長	戴中 剛司
事業課	課長（副館長兼務）	南 健一
事業課	主任	佐々木 智恵
事業課	主任	山田 琴美
事業課	主任	上林 春奈
事業課	主事	小林 真綾
事業課	主事	澤口 利枝
事業課	主事	赤堀 友里恵
事業課	主事	宮本 ゆか
展示企画室	室長（部長兼務）	戴中 剛司
展示企画室	研究主査	鈴木 建治
展示企画室	研究主査	関口 由彦
展示企画室	学芸主査	立石 信一
展示企画室	研究員	小林 美紀
展示企画室	研究員	劉 高力
展示企画室	アソシエイトフェロー	是澤 櫻子
展示企画室	アソシエイトフェロー	田村 実咲
展示企画室	臨時主事	江副 幹太
展示企画室	臨時主事	上林 大介
研究交流室	室長	霜村 紀子
研究交流室	研究主査	奥山 英登
研究交流室	研究主査	宮地 鼓
研究交流室	研究員	赤田 昌倫
研究交流室	研究員	深澤 美香
研究交流室	アソシエイトフェロー	シン ウォンジ
研究交流室	アソシエイトフェロー	マーク ジョン ウィンチェスター
研究交流室	アソシエイトフェロー	谷地田 未緒
資料情報室	室長	田村 将人
資料情報室	研究主査	古田嶋 智子
資料情報室	学芸主査	八幡 巴絵
資料情報室	研究員	大江 克己
資料情報室	学芸員	竹内 隼人
資料情報室	学芸員	矢崎 春菜
資料情報室	専門員	工藤 綾華

資料情報室	臨時主事（アイヌ語アーカイブ）	安田 千夏
資料情報室	臨時主事	宮谷 初美
資料情報室	臨時主事	中村 孝子
資料情報室	臨時主事	和泉 典子
教育普及室	室長	森岡 健治
教育普及室	研究主査	笹木 一義
教育普及室	研究主査	中井 貴規
教育普及室	学芸主査	北嶋 由紀
教育普及室	研究員	市川 暢子
教育普及室	学芸員	長谷 仁美
教育普及室	エドゥケーター	カサド パルド ケラール
教育普及室	エドゥケーター	永石 理恵
教育普及室	エドゥケーター	両角 佑子
教育普及室	エドゥケーター	荒川 のぞみ
教育普及室	エドゥケーター	三木 暁了

II -01-03 専門グループ

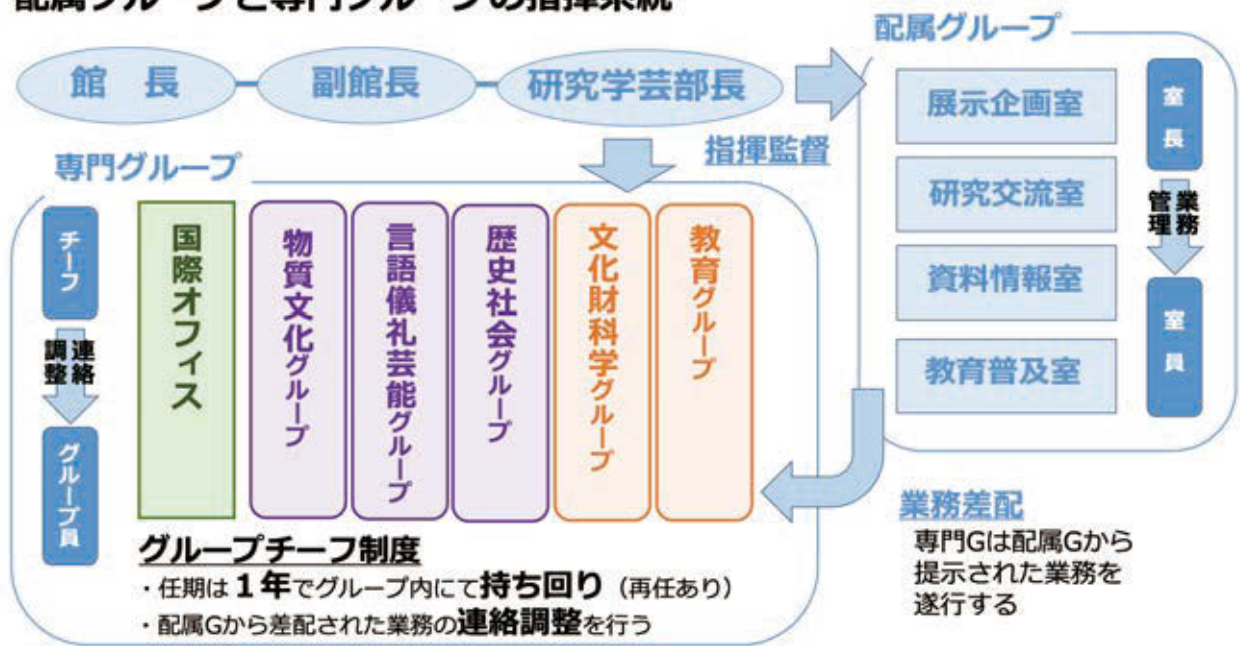
当館では、基本的に展示企画室、研究交流室、資料情報室、教育普及室の4室によって研究学芸業務がなされている。しかし、各研究員・学芸員はそれぞれの専門性をもって採用されているものの、各室の業務と合致していることは少ない。そのため専門が近い者どうしが集まり、室を越えて業務を処理することも多々あり、歪な状況にあった。

そこで、館長裁定による「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」に基づいて、5つの専門グループ（物質文化、言語儀礼芸能、歴史社会、文化財科学、教育）と国際オフィスを設置し、各室長から指示された用務を専門的に処理することとした。そこには、「専門的知見等を研究学芸部の業務に随時反映し処理する体制を整備することにより、博物館の機能強化及び調査研究・学芸業務の充実・深化等を図る」という狙いがある（「国立アイヌ民族博物館における研究・学芸業務の実施体制について」第1条による）。

研究学芸部所属の研究員・学芸員はいずれかの専門グループに所属する。国際オフィスには専門グループと重複して所属することを妨げない。なお、指揮系統としては、各グループとオフィスは研究学芸部長に直属する。また、各グループからチーフを選出し、研究学芸部長あるいは各グループ間の連絡調整を行う。チーフは1年交代として再任を妨げない。

この専門グループ、オフィスの体制は館長裁定により2020年9月1日より実施した。

配属グループと専門グループの指揮系統



2023（令和5）年度専門グループ構成（2023年4月時点）

【物質文化グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に物質文化に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏 名	専門分野
民具資料一般 動植物標本	北嶋 由紀	アイヌ文化（生活技術）
	両角 佑子	美術科教育・博物館教育
	長谷 仁美	アイヌ文化
	宮地 鼓	環境学
	鈴木 建治	考古学
	八幡 巴絵	アイヌ文化（生活文化）
	竹内 隼人	アイヌ文化（物質文化）
【言語儀礼芸能グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に言語儀礼技能に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏 名	専門分野
映像・音声資料 民具資料（儀礼・芸能系）	中井 貴規	アイヌ文化、アイヌ語
	荒川 のぞみ	音楽科教育・民俗音楽学
	市川 暢子	教育学
	小林 美紀	アイヌ語
	劉 高力	文化人類学
	深澤 美香	アイヌ語
	谷地田 未緒	文化政策
	矢崎 春菜	アイヌ語
	竹内 隼人	アイヌ文化（物質文化）

【歴史社会グループ】		
アイヌの歴史・文化の基礎研究 主に歴史社会に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏 名	専門分野
文書・絵図資料 現代資料一般 考古資料	関口 由彦	文化人類学
	鈴木 建治	考古学
	立石 信一	近現代史
	是澤 櫻子	文化人類学
	田村 実咲	文化人類学
	マーク ジョン ウィンチェスター	アイヌ近現代史・歴史社会学
	シン ウォンジ	地質学
	三木 暁了	東洋史
【文化財科学グループ】		
博物館機能強化のための研究 文化財科学に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏 名	専門分野
資料全般の保存環境	赤田 昌倫	保存科学
	大江 克己	保存科学
	古田嶋 智子	保存科学
【教育グループ】		
博物館機能強化のための研究 教育に関する各分野を専門とする		
《担当資料》	氏 名	専門分野
教育普及資料	奥山 英登	博物館教育・科学教育
	笹木 一義	博物館学・博物館教育
	八幡 巴絵	アイヌ文化（生活文化）
	市川 暢子	教育学
	カサド バルド ケラール	博物館教育
	永石 理恵	博物館教育
【国際オフィス】		
博物館の多言語化及び国際交流に関する分野を専門とする		
主担当	氏 名	専門分野
多言語化	シン ウォンジ	地質学
国際交流	谷地田 未緒	文化政策

II -02 運営組織

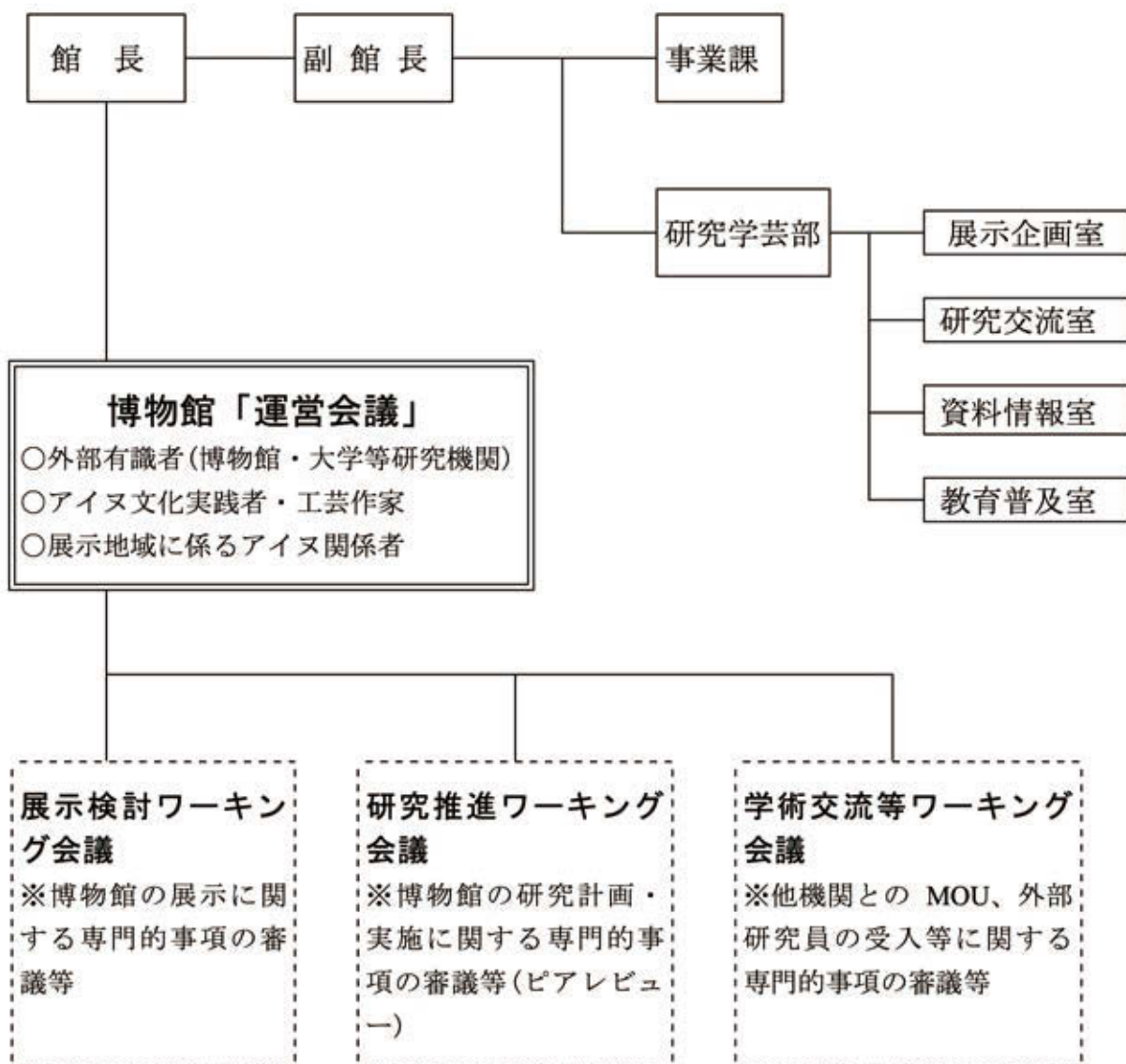
II -02-01 国立アイヌ民族博物館運営会議

当館では、「博物館の展示及び学術研究等に関する専門事項について、外部有識者及びアイヌ文化実践者等アイヌ関係者（以下「外部有識者等」という）の意見を聞くため」（公財ア事業第51号『国立アイヌ民族博物館運営会議設置要領』（2020年10月30日国立アイヌ民族博物館長裁定）第1条より）、運営会議を置いている。

なお、本運営会議は決定機関ではなく、諮問機関である。

1) 組織

当運営会議では、同要領第3条第4項に基づき、下にワーキング会議を設置している。それに必要な事項は運営会議の座長が別に定めるとあり、また、その構成員も座長が委嘱する。



国立アイヌ民族博物館運営会議組織図

2) 2023（令和5）年度運営会議構成員（五十音順）

氏 名	所 属・職
○秋辺 日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合 専務理事
秋山 純子	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 保存科学研究センター 保存環境研究室 室長
宇梶 剛士	俳優
宇治 義之	豊浦アイヌ協会 会長
小川 正人	北海道博物館 学芸副館長
貝澤 和明	北海道アイヌ協会 事務局長
貝澤 守	アイヌ工芸家
萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館 館長
◎佐々木 利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 招へい教員
品川 欣也	東京国立博物館学芸企画部博物館教育課教育普及室 室長
田澤 守	樺太アイヌ協会 会長
谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院 教授
中川 裕	千葉大学 名誉教授

◎：座長、○：副座長

3) 開催状況

2023（令和5）年度には以下の日程と議題で会議を開催した。

日時：2024年3月21日（木）10:15～12:15

会場：国立アイヌ民族博物館 1階 交流室

議題：

1. 審議事項

(1) 議長と副議長の選出

2. 報告事項

(1) 研究推進ワーキングの報告

(2) 展示検討ワーキングの報告

(3) 学術交流等ワーキングの報告

(4) 展示企画室の業務について

(5) 研究交流室の業務について

(6) 資料情報室の業務について

(7) 教育普及室の業務について

(8) その他

4) ワーキング会議開催状況

2022年度の運営会議での諮問に基づき、展示検討、研究推進、学術交流等の3つのワーキング会議を組織し、展示、研究、学術交流等の3つの業務について、意見を求め、それに基づき、各業務の改善を図った。

① 展示検討ワーキング会議

2023（令和5）年度構成員（五十音順）

秋辺 日出男	阿寒アイヌ工芸協同組合専務理事
○大坂 拓	北海道博物館学芸主査
岡田 育子	アイヌ文様刺繍サークルフッチコラチ代表
貝澤 珠美	TAMA kor DESIGN ～タマコロ デザイン代表
佐藤 優香	東京大学大学院情報学環客員研究員
関根 真紀	二風谷民芸組合
百瀬 響	北海道教育大学教育学部札幌校教授
山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授

○：座長

開催状況

日時：2024年2月13日（火） 13:00～15:30

場所：国立アイヌ民族博物館 1階 交流室 オンライン併用

検討事項：

- (1) 基本展示室に関する事項
- (2) テーマ展示、特別展示及びその他展示事業に関する事項
- (3) その他

② 研究推進ワーキング会議

2023（令和5）年度構成員（五十音順）

秋山 純子	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長
五十嵐 聡美	北海道立近代美術館学芸部長
小川 義和	立正大学教授／埼玉県立川の博物館館長
北原 次郎太 モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
鈴木 信	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター常務理事
○谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
中川 裕	千葉大学名誉教授

○：座長

開催状況

◆第1回ワーキング会議

日時：2023年6月28日（水） 10:00～12:00

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン（zoom）併用

検討事項：

- (1) R4年度調査研究プロジェクト課題の報告とR5年度の計画について

(2) R5 年度調査研究プロジェクト新規申請課題について

(3) その他

◆第2回ワーキング会議

日時：2023 年 9 月 30 日（土） 13:30 ～ 15:30

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン（zoom）併用

検討事項：

(1) 第1回研究推進ワーキング会議の議事録の承認について

(2) R5 年度までの調査研究事業とその枠組みについて

(3) R6 年度調査研究プロジェクト（A 課題）新規募集について

(4) その他

◆第3回ワーキング会議

日時：2024 年 2 月 1 日（木） 13:00 ～ 15:30

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン（zoom）併用

検討事項：

(1) R6 年度調査研究プロジェクト新規申請課題について

(2) R5 年度調査研究プロジェクト進捗状況報告

(3) その他

③ 学術交流等ワーキング会議

2023（令和5）年度構成員（五十音順）

小川 正人	北海道博物館学芸副館長
○加藤 博文	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
齋藤 玲子	国立民族学博物館准教授
品川 欣也	東京国立博物館学芸企画部博物館教育課教育普及室 室長
本田 優子	札幌大学アイヌ文化教育研究センター センター長

○：座長

開催状況

日時：2023 年 6 月 8 日（木） 14:30 ～ 16:30

場所：国立アイヌ民族博物館 オンライン併用

検討事項：

(1) 国内外の博物館及び大学等研究・教育機関との学術交流に関する事項

(2) 外部研究者の博物館への受入及び称号付与に関する事項

(3) 学術交流の推進に関する事項

(4) その他

II -02-02 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会

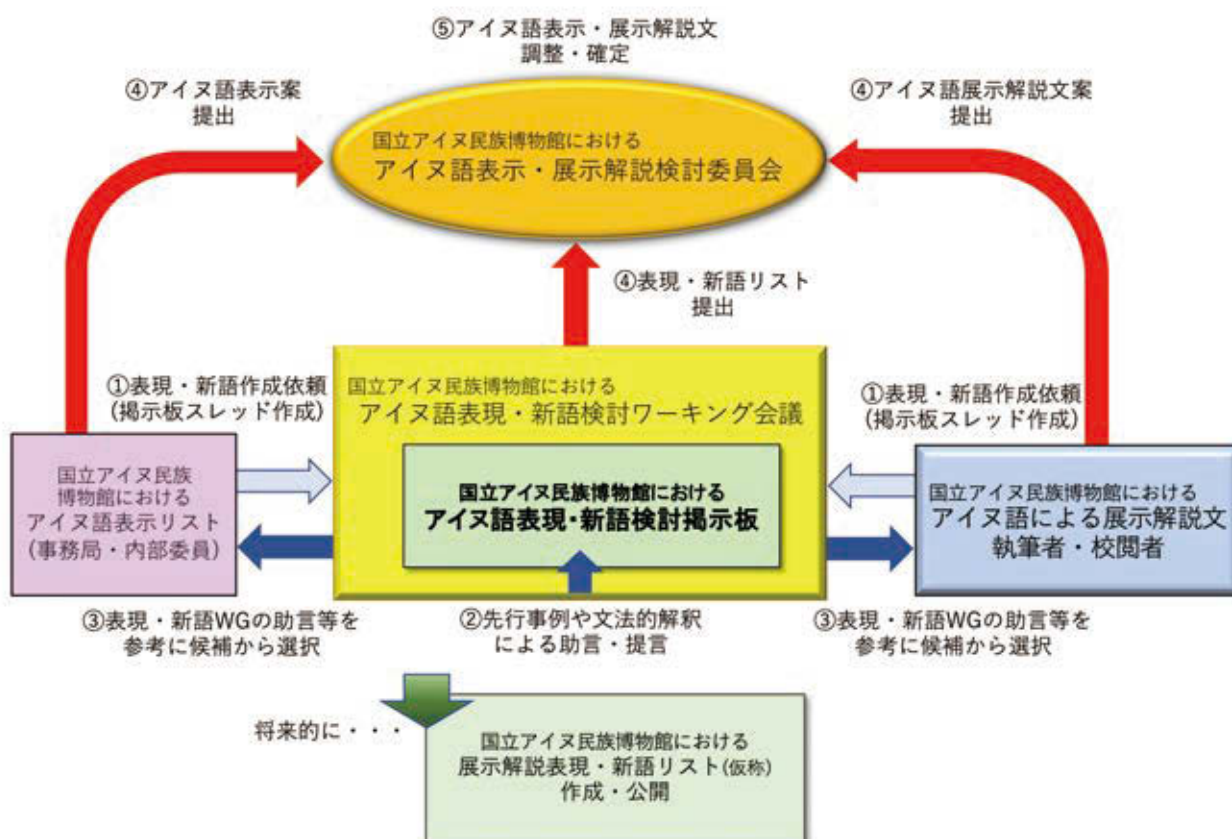
博物館におけるアイヌ語の表示と展示に用いるアイヌ語の表記の方法、方言の選定、新しい言葉の作成に際してのガイドラインなどについて検討するために、2017（平成29）年度に当時の（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構が「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会」を設置した。また、この委員会の設置要綱第3条第3項に基づいて、博物館で使用する数多くの専門用語をアイヌ語で表現するための新しい言葉について議論するために、同財団は2018（平成30）年度に「国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議」を設置した。

この委員会とワーキング会議は、当初は博物館内のアイヌ語の表示について検討することが主目的だった。しかし、ウポポイ（民族共生象徴空間）全体でのアイヌ語のあり方についての議論が必要になったために、事実上ウポポイにおけるアイヌ語表示についての議論をする委員会とワーキング会議となった。

この委員会とワーキング会議は2020（令和2）年度の博物館の正式な発足に伴い、設置母体が博物館に変更された（委員委嘱者が財団理事長から博物館長に変更）。

1) 国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語検討の仕組み

アイヌ語表示・展示解説文作成イメージ



2) 2023（令和5）年度アイヌ語表示・解説検討委員会構成員

氏 名	所 属・職
大須賀 るえ子	白老楽しく・やさしいアイヌ語教室講師
奥田 統己	札幌学院大学人文学部教授
萱野 志朗	萱野茂二風谷アイヌ資料館館長
◎北原 次郎太 モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
○佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院教授
関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課アイヌ文化学習係係長
中川 裕	千葉大学名誉教授
中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長 千歳アイヌ協会会長
村木 美幸	アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部本部長

◎：委員長、○：副委員長

3) 2023（令和5）年度アイヌ語表現・新語検討ワーキング会議構成員

氏 名
奥田 統己
神崎 雅好
◎北原 次郎太 モコットウナシ
○佐藤 知己
関根 健司
八谷 麻衣
浜田 隆史

◎：座長、○：副座長

4) 2023（令和5）年度実施状況

2023（令和5）年度には以下の日程で委員会とワーキング会議を開催した。

◆ 第1回委員会

日時：2024年3月18日（月） 10:00～12:00

会場：国立アイヌ民族博物館 交流室（オンラインシステムを併用）

1. 開会

2. 委員長・副委員長の選出

3. 議事

(1) アイヌ語解説文の作成について

(2) 今年度のアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議で検討した内容について

(3) その他

4. 閉会

◆ 第1回ワーキング会議

日時：2023年10月4日（水） 10:00～12:00

会場：国立アイヌ民族博物館 研修室（オンラインシステムを併用）

1. 開会
2. 座長・副座長の選出
3. 議題
 - (1) 表現・新語検討（「公益社団法人」「アイヌ民族文化財団」「理事長」）
 - (2) その他
4. 閉会

Ⅱ -02-03 その他の運営組織

1) 外部委員を含むもの

アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク運営委員会（詳細はⅣ -04 参照）

国立アイヌ民族博物館鑑査会議（詳細はⅣ -05 参照）

国立アイヌ民族博物館買取協議会（詳細はⅣ -05 参照）

国立アイヌ民族博物館買取評価（詳細はⅣ -05 参照）

国立アイヌ民族博物館寄贈評価（詳細はⅣ -05 参照）

2) 館内の会議、委員会

博物館連絡会議

博物館全体会議

情報セキュリティ委員会

広報委員会

図書委員会

印刷物等編集委員会

Ⅲ 施設

Ⅲ -01 施設概要

Ⅲ -01-01 整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

Ⅲ -01-02 施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約 8,600m²（1 階：3,500 m²、2 階：4,800 m²、3 階：300 m²）

規模：地上 3 階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

設計：久米設計

建築：竹中・田中特定建設企業体





国立アイヌ民族博物館 概要

整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点



※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）
 延べ面積：約8,600㎡
 規模：地上3階
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

III -02 建物の整備の基本方針と計画内容

（文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より）

基本方針① ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

- 自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和
 - ・ポロト湖畔周囲に広がるすり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
 - ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保
- 国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出
 - ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置

基本方針② アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

- 来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画
 - ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画
 - ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意
- 確実な資料保存や研究に必要な空間の確保
 - ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意

基本方針③ 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

○展示替えに対応できる展示室

- ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応

○多言語対応、アイヌ文様の活用

- ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
- ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現

国立アイヌ民族博物館 建物の整備の基本方針と計画内容

【基本方針①】 ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和 ○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和 ・ポロト湖畔周囲に広がる、すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状 ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保 ○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出 ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置	ポロト湖周辺の自然との調和 ポロト湖畔を眺望できる展示室ロビー
【基本方針②】 アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点 ○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画 ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画 ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意 ○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保 ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意	断面構成 来館者動線 職員動線 展示室へ導く動線計画
【基本方針③】 国内外の多様な人々に向けた アイヌの歴史・文化等の発信拠点 ○展示替えに対応できる展示室 ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応 ○多言語対応、アイヌ文様の活用 ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画 ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現	特別展示 テーマ展示 基本展示 特別展示（一体で使用） 展示替えに柔軟に対応できる展示室（例） 伝統的なアイヌ文様（例）

文化庁ホームページ「国立アイヌ民族博物館 建物基本設計」より

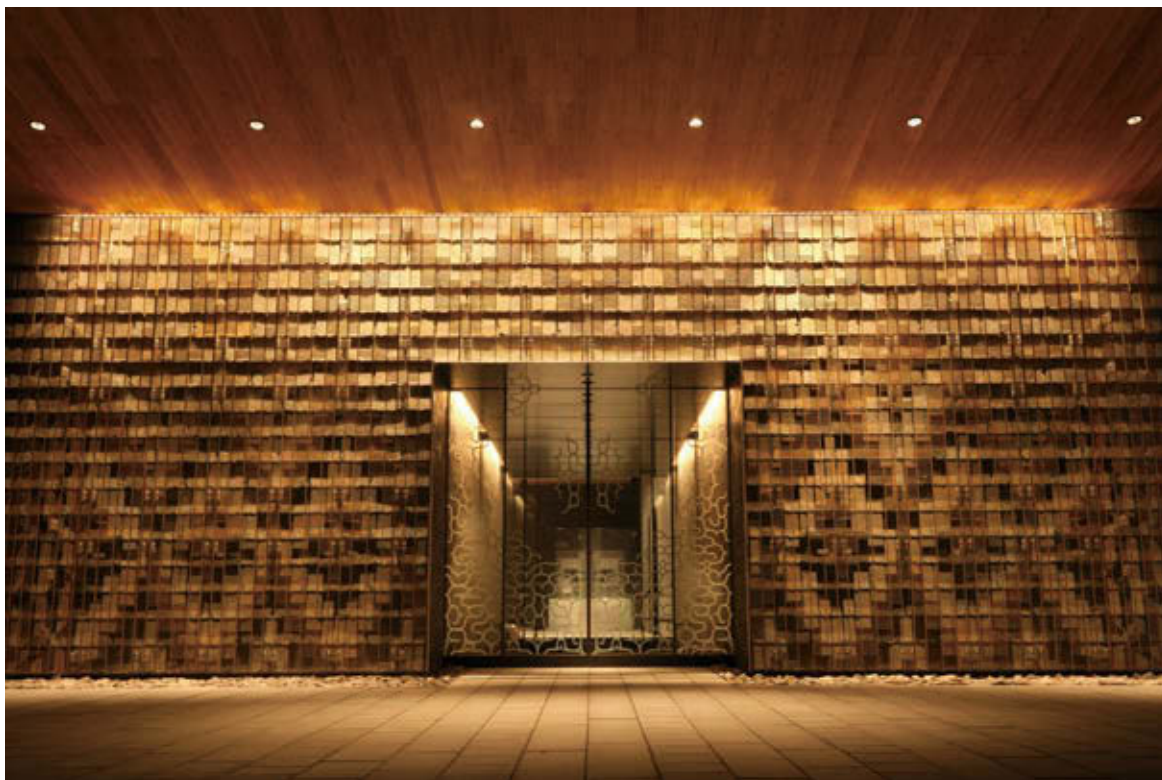
参考：博物館の建物を飾るアイヌの伝統的な文様について

博物館内には要所要所にアイヌ文様を図案化した模様を入れている。

例えば、博物館の正面エントランスの自動ドアの周囲には、アイヌのゴザ文様を図案化した模様を金属板で表現し、自動ドアのガラス面には衣服の文様にヒントを得た模様を入れて、この博物館がアイヌ文化を展示する博物館であることを強調している。また、透明なガラスに貼り付ける衝突防止用シートにも、アイヌ文様を図案化した模様を使用している。

1階ロビーからエレベーターホールに向かう入り口の自動ドアには、アイヌの衣服に使われる切り伏せと刺繍の文様を施し、同じ模様をインフォメーション奥の壁面に投影している。また、1階と2階のトイレの洗面台の鏡にもアイヌ文様を図案化した模様を入れた。

これらの文様、模様はいずれも、文化伝承者でアイヌの服飾や刺繍を数多く手がけてきた津田命子氏がデザインしたものである。

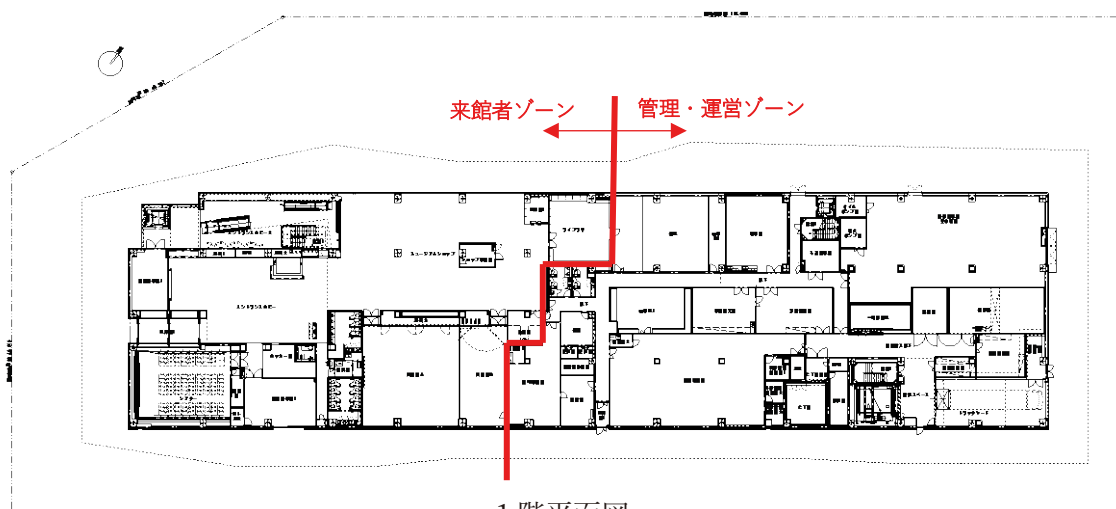


正面エントランスを飾るゴザ文様を図案化した模様

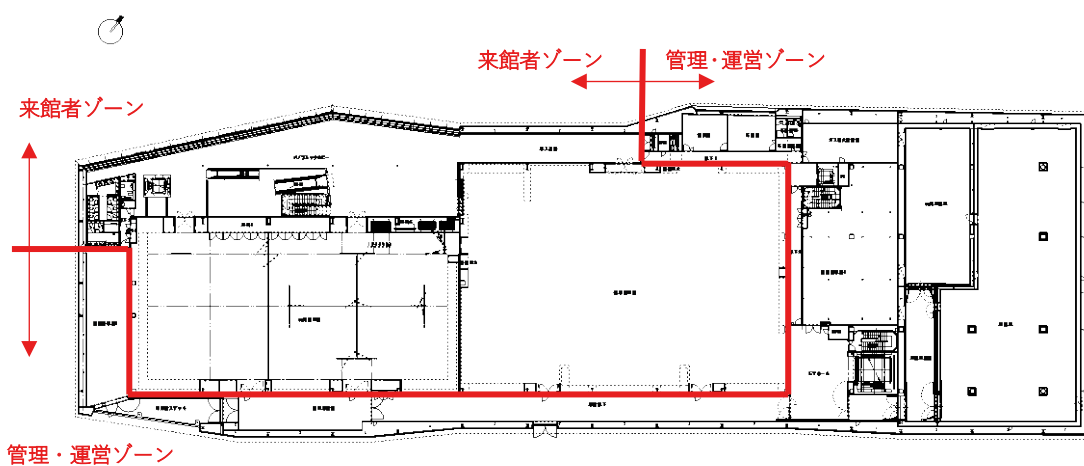


1 階ロビーからエレベータールームへ続くドアのアイヌ文様

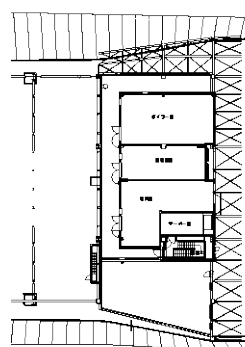
III -03 建物の平面図



1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図

参考図 国立民族共生公園 全体平面図



III -04 1 階の施設

1 階の施設は一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

風除室、エントランスロビー、シアター、交流室、ライブラリ、ミュージアムショップ、ロッカー室、救護室、トイレ

○ 管理・運営ゾーンの施設

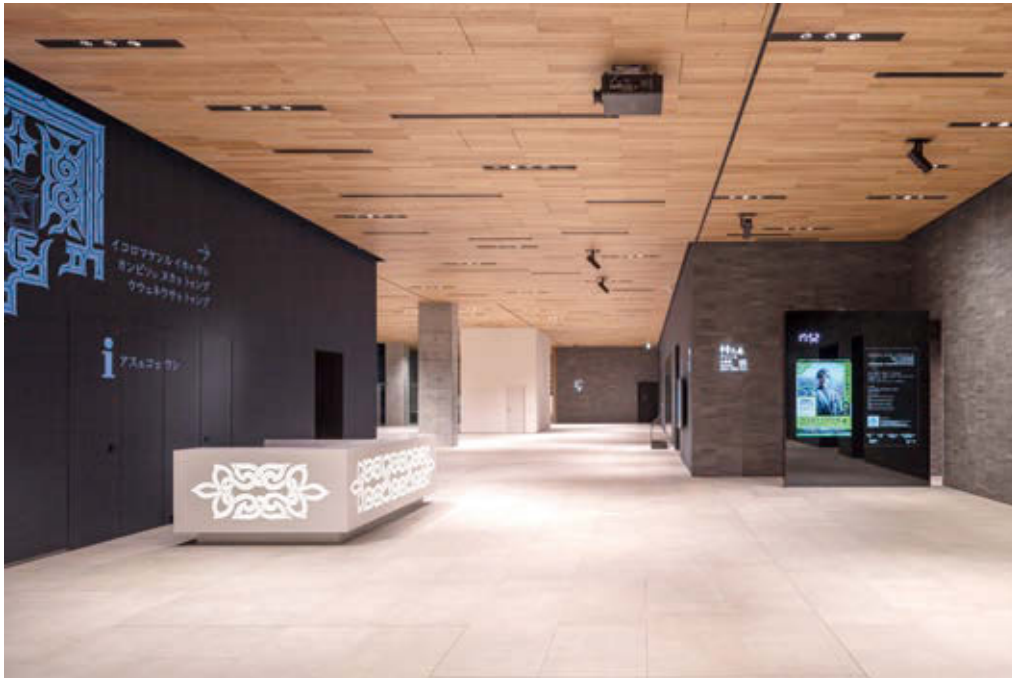
管理事務室、警備員室、休憩室、調査研究室、物品庫 1、書庫、物品庫 2、研修室、修復復元室、分析実験室、CT 室、資料一時保管庫、燻蒸室、撮影室、梱包荷解室、トラックヤード、資料整備室、機械室

ここでは、そのうち主立った施設を紹介する。

III -04-01 1 階来館者ゾーンの施設

アパ サム（エントランスロビー）

大勢の来館者を迎えるため、風除室を 2 重とすることで館内空気環境の安定と防虫対策を行った。また、2 階の展示室に向かうエスカレーター等の交通部分を区画することで、さらなる防虫対策を行った。（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020 年、p.76）



建物完成直後のエントランスロビー（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

エントランスロビーに入ると総合案内がお客様を迎え、壁面にはアイヌ語をはじめとした多言語による館内案内が映像で表示される。ロッカーやデジタルサイネージなどの設備も備えられている。2階の展示室に向かう途中には、6面マルチモニターによる「アイヌ文化ゆかりの地ガイド」があり、アイヌ民族のこれまでの歩みや、現代のアイヌ文化に触れられる場所を紹介する。

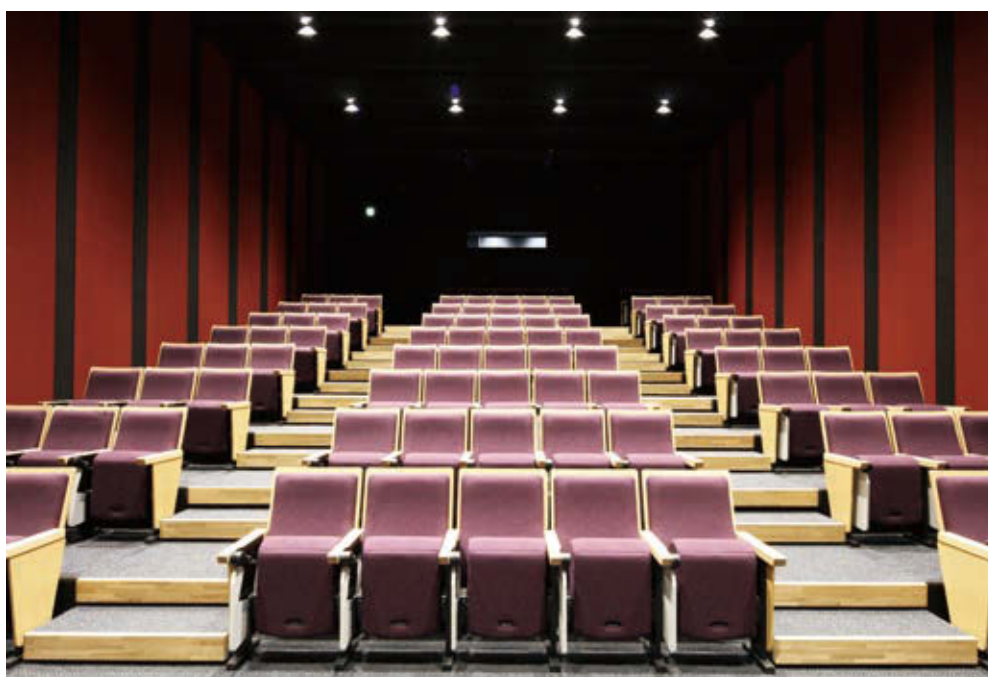


ミュージアムショップから6面マルチ画面方面への眺め

イノカヌカラ トウンプ（シアター）

1階にはアイヌ文化を映像でわかりやすく紹介するシアターがある。

座席数96席、入場無料。アイヌ文化を大画面映像でわかりやすく紹介する。現在用意しているプログラムは2本で、どちらも上映時間は約20分である。映像プログラム「アイヌの歴史と文化」では、人類が日本列島にやってきてから現代までのアイヌ民族の歴史と文化についてわかりやすく解説する。また、映像プログラム「世界が注目したアイヌの技」では、18世紀以降、世界から高い注目を集め、ヨーロッパとアメリカの博物館に約1万点収蔵されているアイヌ民族資料について紹介する。



建物完成直後のシアター（両写真とも提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

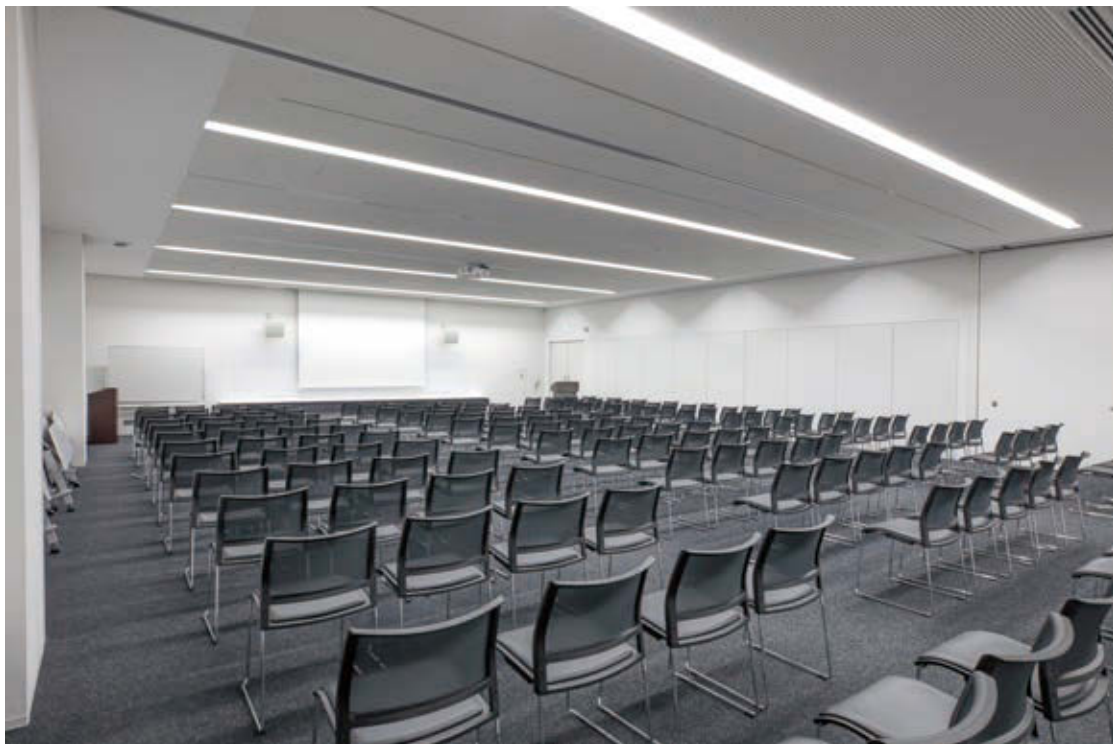
ウウェネウサラ トウンプ（交流室）

館主催の教育普及事業や修学旅行での説明会（「はじめてのアイヌ博」）など来館者対応に利用する他、館の会議や研究集会、研修、ウポボイ全体での集会や会議など多目的に利用するためのスペース。スクリーン、プロジェクター、ホワイトボード、演台、マイク・スピーカーシステム、ビデオカメラなどプレゼンや会議に必要な装置を備える。

間仕切りによってAとBの区画に区切ることができる。

広さ：約 274 m²（交流室A：約 186 m²、交流室B：約 88 m²）

最大収容人数 A・B合わせて 169 名



交流室

カンピソシ ヌカラ トウンプ（ライブラリ）

アイヌに関する書籍を閲覧できるライブラリは、立ち寄りやすいようにガラスの間仕切りとし、室内の壁面には CLT で制作した棚を配置した（国土交通省北海道開発局営繕部編『国立アイヌ民族博物館事業記録』2020 年、p.76）。開館後は開架式図書室として、2023 年 5 月からの新型コロナウイルス感染症第 5 類移行に対応しながら運用している。



ライブラリ外観（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



ライブラリ内部

イコロマケシル イホク ウシ（ミュージアムショップ）

1階北側の湖に面した空間にミュージアムショップが設置されている。ここでは木彫、刺繍などのアイヌ工芸品の他、アイヌ文様をデザイン化した商品、アイヌ料理の缶詰・レトルト食品、アイヌの歴史と文化についての書籍などを販売している。また、コーヒー他の飲料も販売され、湖に面した席で軽い飲食も可能。



ミュージアムショップ

チエトゥン スウォプ オマ トウンプ（ロッカー室）

博物館内を快適に観覧できるよう、荷物を一時的に保管するコインロッカーを180基設置した（解錠時にコインは返還）。



ロッカー室

イカオイキ トウンプ（救護室）

来館者の急な体調不良などに備え、来館者ゾーン内に救護室を設けた。2基のベッドと洗面台を備えており、体調不良の来館者が一時的に休憩できるようにしている。

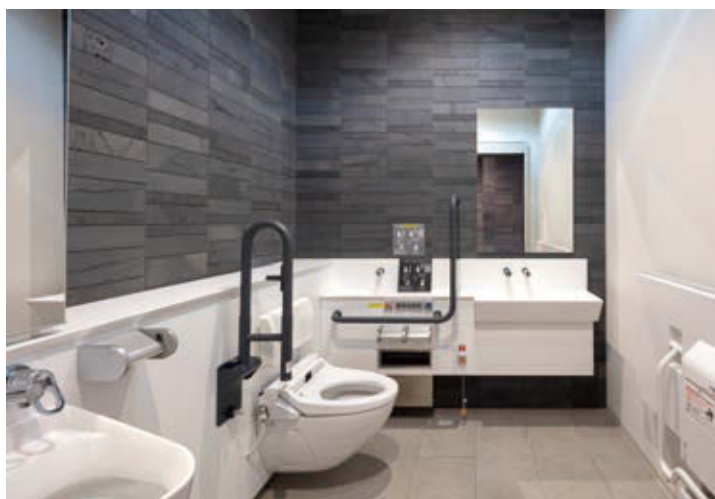


救護室

アシシル・セブ アシシル （トイレ・多目的トイレ）

来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。

また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



多目的トイレ（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



手洗い場の鏡のアイヌ文様（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

III -04-02 1 階管理・運営ゾーンの施設

キャンパスイェ トウンプ（調査研究室）

研究学芸部の研究員、学芸員が研究業務に従事する部屋である。広大な一間だが、中をブースで仕切り、研究に集中できる環境を整えている。打合せ用のブースとテーブル、研究員、学芸員がすぐに必要なとする図書、資料等を収納する書棚、コピー・印刷機なども設置されている。

調査研究室に隣接して映像音響室が3室並び、また、各課、室の必要な書類等を収納するための物品庫も設けられている。



建物完成直後の調査研究室（写真提供：北海道開発局営繕部）

ヤイパカシス トウンプ（研修室）

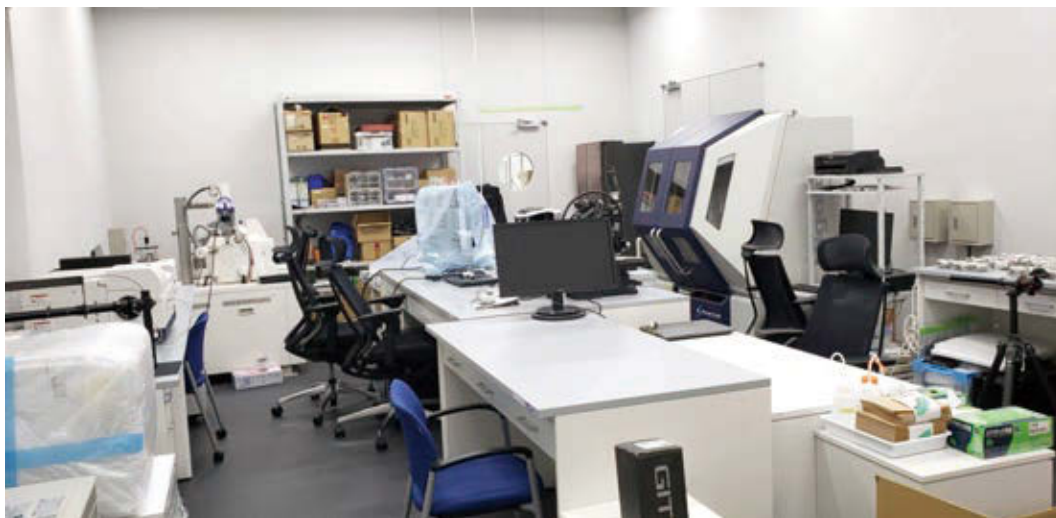
研修室は会議、打合せ、研究会、研修、資料熟覧など多目的に使える部屋である。食文化に関する研修もできるように水道、流し台、給湯設備も設けられている。また、ホワイトボードの他、モニター、マイクروفオン、スピーカーなどペーパーレスの会議やリモート会議、各種プレゼンにも対応できる設備も備えた。普段は机をロの字型に並べた会議形式の調度配置をしているが、用途に応じて机、椅子の並びは自由に変更できる。



研修室（左：窓方面、右：出入口方面）

イコロ ウワンテ トウンブ（分析調査室）

当館では収蔵資料の科学分析も調査研究の一環として重視しており、またその成果を展示に活用している。当館で使用する分析機器には、蛍光X線分析装置、携帯型蛍光X線分析装置、X線回折装置、走査電子顕微鏡、X線CT装置、レントゲン装置、デジタルマイクロ스코プ、三次元蛍光分光分析装置、ハイパースペクトルカメラ、キセノン型耐候試験機、純水製造装置、恒温恒湿装置、恒温装置、真空凍結乾燥機、3Dプリンタ、3Dスキャナがある。



分析調査室

蛍光X線分析装置



資料表面の元素分析を行う装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品や絵画資料の調査に利用。鉄(Fe)や銅(Cu)の様に、資料を構成する元素分析から、利用された材料の調査を行う。

X線回折装置



資料表面の化合物を調べる装置。アイヌ民族資料の中で、特に金属製品の調査に利用。例えば、鉄を調査した場合、酸化鉄(Fe_3O_4)か塩化鉄(FeCl_2)など、化合物の情報が得られる。この情報を基に、劣化具合の判断や修復方法の検討を行う。

走査電子顕微鏡



資料表面を数万倍まで拡大し観察する装置。拡大面の元素分析も可能。アイヌ民族資料の脱落片（繊維片、漆片、金属片等）の調査から、素材の加工法等を観察する。

三次元蛍光分光分析



資料表面の光学情報を捉える装置。アイヌ民族資料中で、特に染色製品（衣類等）の調査に利用。退色や繊維の劣化の様子などを調査し、劣化診断やコンディション向上に関する検討を行う。

分析調査室・CT室の利用について

★導入した分析装置一覧

・内部構造調査装置

調達機器
X線CT装置
レントゲン装置

・材質調査装置

調達機器
蛍光X線分析装置
携帯型蛍光X線分析装置
X線回折装置
三次元蛍光分光分析装置
ハイパースペクトルカメラ

・表面等観察装置

調達機器
走査電子顕微鏡
電動型ズーム顕微鏡、実体顕微鏡
デジタルマイクロスコープ
3Dスキャナ（広域用・高精細用）
3Dプリンタ

・処置装置類

調達機器
恒温恒湿装置
恒温装置
真空凍結乾燥機
生物処理装置（二酸化炭素殺虫処理装置）
キセノン型耐候試験機

CT トランプ（CT 室）

当館には最新のコンピュータ断層撮影装置（X 線 CT）を備えた分析室がある。X 線の漏洩を防ぐため、壁、天井、床は鉛張りとなっている。



X 線断層撮影装置（CT）

X 線断層撮影装置（CT）の概要

資料内部を三次元的に観察できる装置。アイヌ民族資料の中でも立体物の調査に利用。非破壊で安全に資料構造の把握や内面加工の観察ができる。（2023 年度 /46 件調査）

機器寸法 左右幅：約 3,760mm 総高：約 2,900mm 奥行：約 980mm

撮影範囲 高さ：1,400mm 程度 直径：600mm 程度

特 徴 ・アイヌ民族資料に合わせ装置性能を設計。

- ・金属製品等の資料を調査する高出力管球と、木製品等の細部を調査する管球を有する。
- ・画像検出器は、フラットパネルを使用。

イパカレ トランプ（燻蒸室）

博物館に搬入した直後の展示・収蔵資料には、文化財を劣化させる害虫が付着していたり内蔵していたりする場合がある。この部屋は、害虫や蛹、卵等の生物処理（二酸化炭素処理）を行うための部屋である。害虫の付着が見られない場合の経過観察でも使用する。ただし、カビの除去はこの装置ではできないため、アウトソーシングしている。



二酸化炭素処理装置

イノカ ウクトウンプ（撮影室）

展示図録や調査研究、資料管理等に使用するための写真を撮影する部屋。大型照明装置、資料の背景となるスクリーン、資料を置く机などが装備されている。また天井近くにはキャットウォークが設置されており、そこから床面に向かって真下に撮影することができる。



撮影室

III -05 2 階の施設

2 階の施設も 1 階と同様に一般来館者を迎え入れる「来館者ゾーン」と博物館のバックヤードである「管理・運営ゾーン」とに大別できる。

○ 来館者ゾーンの施設

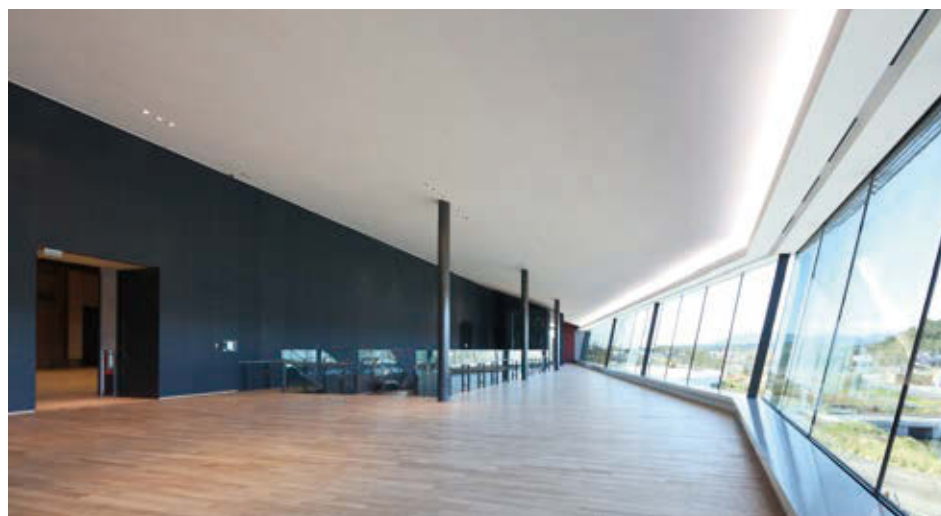
パノラミックロビー、基本展示室（導入展示、プラザ展示、6 テーマの展示、探究展示 テンパテンパ）、特別展示室、トイレ、エレベーター、エスカレーター

○ 管理・運営ゾーンの施設

展示準備室、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫、館長室、応接室、機械室

III -05-01 来館者ゾーンの施設

インカラ ウシ（パノラミックロビー）



建物完成直後のパノラミックロビー（上：冬景色、下：基本展示室入口からの眺め）
（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

1 階のエントランスロビーからエスカレーターで2 階に上がると、まず目に飛び込むのはポロト湖の眺望とウポポイの全景である。それらを見渡すことができるこの大空間をパノラミックロビーと呼ぶことにしている。ここでは四季を通じてポロトの様々な姿を楽しむことができる。

イコロ トウンブ（基本展示室）

約 1,250 m²ある基本展示室に設置されている基本展示は導入展示、プラザ展示、アイヌの視点で描く 6 つのテーマ（ことば、世界、暮らし、歴史、しごと、交流）、探究展示 テンパテンパから構成されている。

イアッケウク（導入展示）

ポロト湖を望むパノラミックロビーを抜けると、導入展示が始まる。そこでは、明かりを落としたトンネル状の空間にアイヌ民族を含む世界の諸民族が自分たちのことばであいさつする。その中からアイヌの人々が抜け出して、自分たちの活動を紹介する。世界の民族と出会い、そのひとつの民族であるアイヌの人々が来館者を展示室へ誘う。



導入展示（上：展示場入り口方向、下：待機画面）

アエキルシ（プラザ展示）

この博物館の展示の魅力のひとつは、プラザ方式という中心から周辺へと自由に展示室を回れる構成である。基本展示室の中央に設置したプラザにはアイヌ文化の粋を集めた、芸術品としても高いレベルにある作品を展示して、それを見るだけでもアイヌ文化の概略とすぐれた芸術性を理解できるようにしている。そして、より詳しく知りたい人には周辺の個別の展示を見て理解を深めてもらう構成となっている。



プラザ展示全景



プラザ展示（イナウ）



ブラザ展示（女性の装い）

イタク（私たちのことば）

アイヌ語や口承文芸、地名やアイヌ語復興のための現在の取り組みを紹介する。資料の展示だけではなく、アイヌ語に親しめる空間にもなっている。いろいろ端に座っているような気分でアイヌ語の語りを聞くことができるコーナーの他、アイヌ語の仕組みや発音を、ゲームを通して知ることができるコンテンツや、地名や会話についての映像もある。



私たちのことば全景



私たちのことば（囲炉裏）

イノミ（私たちの世界）

アイヌ文化の中で重要な位置を占める精神文化を紹介する展示。ありとあらゆるものにラマツ（靈魂）が宿るという世界観、その中で特に人間（アイヌ）と深い関わりを持つカムイという存在などアイヌの精神世界についてグラフィックを交えて解説する。樺太のクマの霊送り儀礼でクマを繋ぐ高さ6m余りの木の杭は当館で最大の展示物である。その周囲ではさまざまな儀礼に関わる諸道具を、使い方を含めて紹介する。



私たちの世界全景



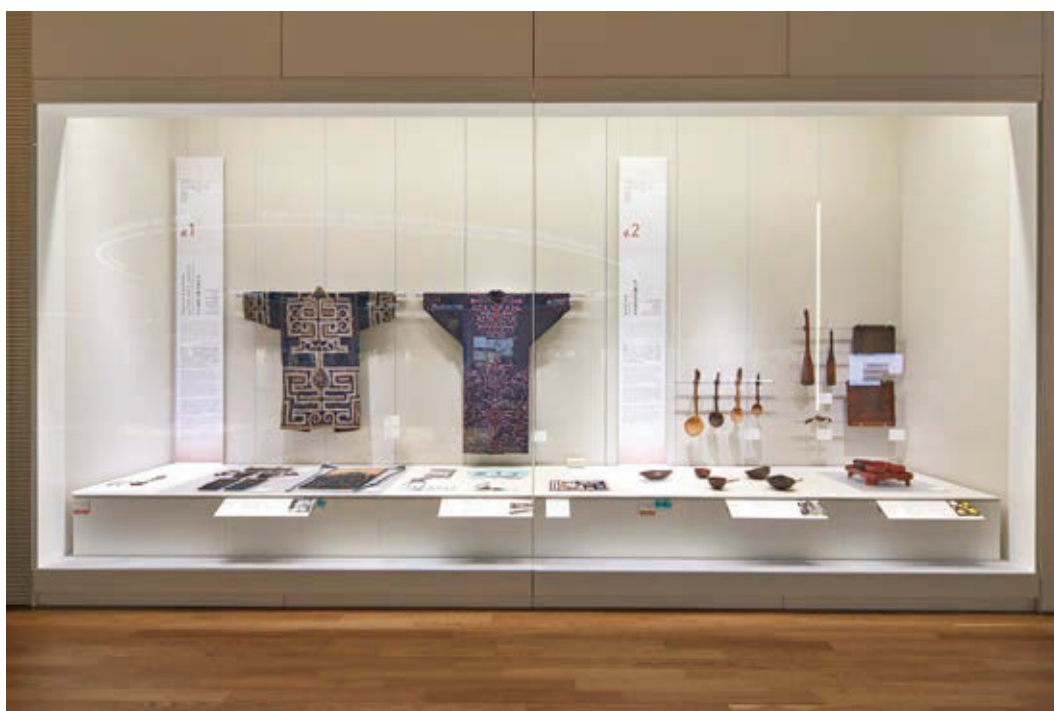
私たちの世界（樺太アイヌのクマつなぎ杭）

ウレシバ（私たちの暮らし）

装い・食・住まいをはじめ音楽や舞踊、子どもたちの遊びにも触れながら、暮らしの文化について、道具や映像を通じて紹介する。衣服については、樹皮衣に使うオヒョウ樹皮の皮剥ぎから糸づくり、機織りまでを映像と織機類の実物で紹介する他、江戸時代以降に導入された木綿素材の衣服と刺繍についても展示する。また様々な食材と料理、伝統的な住居の構造、人の一生、伝統芸能、さらには伝承に携わる人々の取り組みなども映像や実物資料を交えて紹介する。



私たちの暮らし全景



私たちの暮らし（d.1 今に受け継ぐ衣服と心、d.2 受け継がれる食文化）



私たちの暮らし (d.3 住まう)

ウパシクマ（私たちの歴史）

アイヌ民族が語り継ぎ、残してきた歴史と、周辺の民族が残したアイヌ民族の足跡を取り上げる。当館では北海道に人が移住してきた約3万年前から当館が開館する2020年までをアイヌ民族の歴史として、その視点で紹介する。上部壁面に事柄とそれに対応する年代や地図が連動する年表が表示され、アイヌ民族の出来事を次々に紹介するとともに、展示ケースでは各時代をよく表す考古遺物や文書類、さらには実物資料を展示する。



私たちの歴史全景



私たちの歴史（e.1 遺跡から見た私たちの歴史）



私たちの歴史（e.3 私たちの生活が大きく変わる）

ネヅキ（私たちのしごと）

アイヌ民族が過去から現在にわたって携わってきたしごとを取り上げる。前半は、狩猟・漁撈・農耕・採集など「伝統的」とされてきたしごとで使用された道具やその仕組みを紹介する。一年を通して行うしごとを検索するタッチパネルもある。後半では、明治以降に従事してきたしごとや工芸品を取り上げる。使う道具や作品などを通じて、現代のアイヌ民族の活動などを伝えるとともに、アイヌ民族が来館者と同じ時代を生きる人々であることを理解してもらう。



私たちのしごと全景



私たちのしごと（f.1 先祖のしごと）



私たちのしごと（f.3 現代のしごと）

ウコアブカシ（私たちの交流）

アイヌ民族を取り巻く周辺諸民族との過去から現在にいたるまでの交流を紹介する。展示のシンボルの一つとして北海道厚岸湖出土の板綴舟（厚岸町所蔵）を展示する。そのために厚岸町でクリーニング作業を行い、白老町に輸送後、展示に向けて微細クリーニング・補強処理作業を実施した。また、「北海道」という名称の名付け親である松浦武四郎の事績を紹介するコーナーも設けている。



私たちの交流全景



私たちの交流（g.1 生活圏と海を越える交流）



私たちの交流（g.2 外からみたアイヌ文化、g.3 伝統を魅せる）

イケレウシ「テンパテンパ」（探究展示 テンパテンパ）

体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナー。ジオラマ・住居模型・タマサイ（首飾）作りキット、サケとシカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめる。来館者には探究展示とまわりの6テーマ展示を行き来しながら、アイヌ文化への理解をさらに深めてもらうことをねらっている。（※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語。）



探究展示 テンパテンパ t.1



探究展示 テンパテンパ t.2

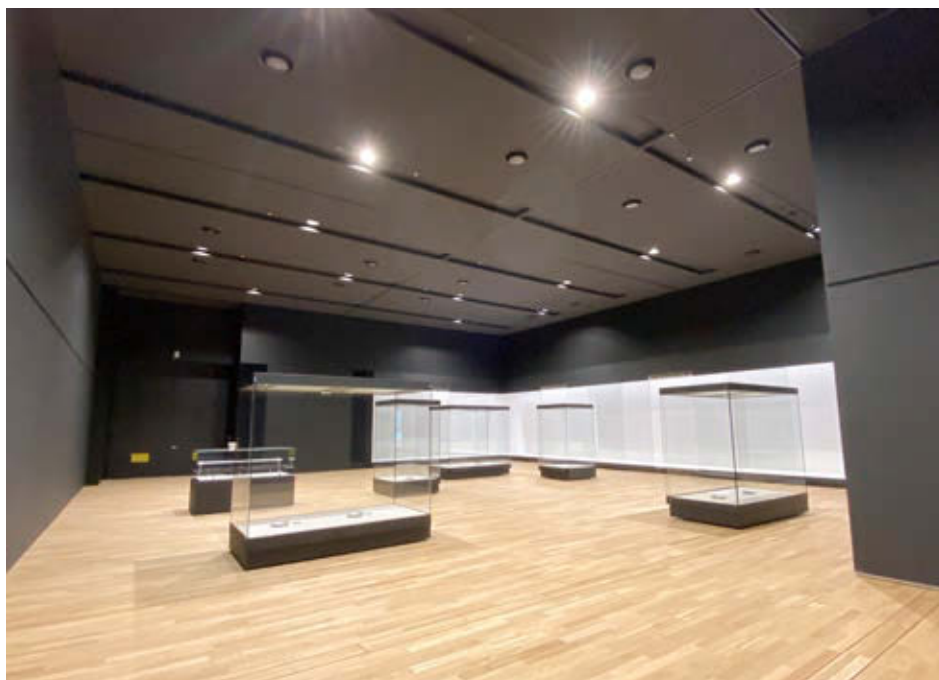


探究展示 テンパテンパ t.3

シサク イコロ トウンブ（特別展示室）

約 1,000 m²ある特別展示室は、規模の異なる特別展示とテーマ展示を実施するために、可動壁によって複数の部屋に仕切ることができる。

2023 年度は開催順に、第 6 回特別展示：「“アウタリオピッタ” アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市―」、第 7 回特別展示：「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 ―19 世紀までの軌跡―」、第 5 回テーマ展示：「ウポポイナイトミュージアム」、第 6 回テーマ展示：「ミナ ミナ 『おばけのマヘルとすてきなことば』展」を実施した。



特別展示室



特別展示室

アシシル（トイレ）

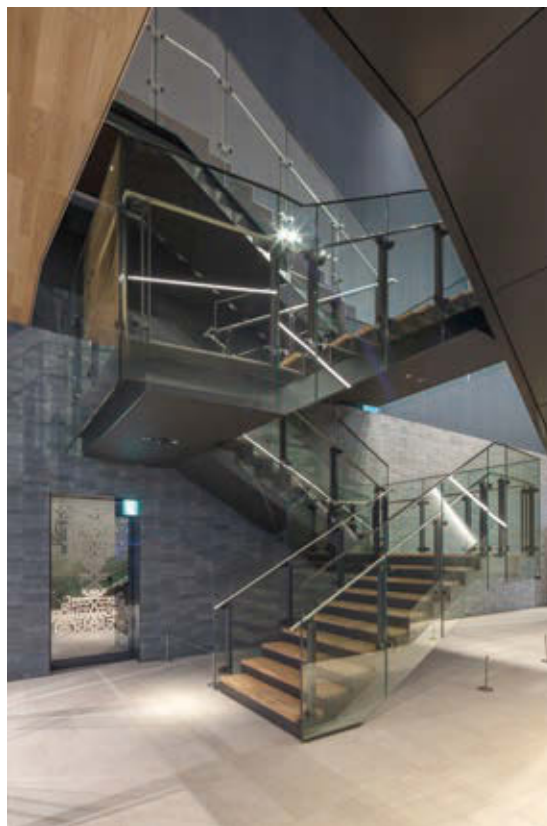
来館者ゾーンの1階と2階のトイレには必ず多目的トイレを設置し、障がいを持つ人だけでなく、様々なニーズを持つ人が利用できるようにした。また、男女のトイレの手洗い場の鏡に津田命子氏デザインのアイヌ文様を図案化した模様を施し、トイレ空間に華やぎを持たせた。



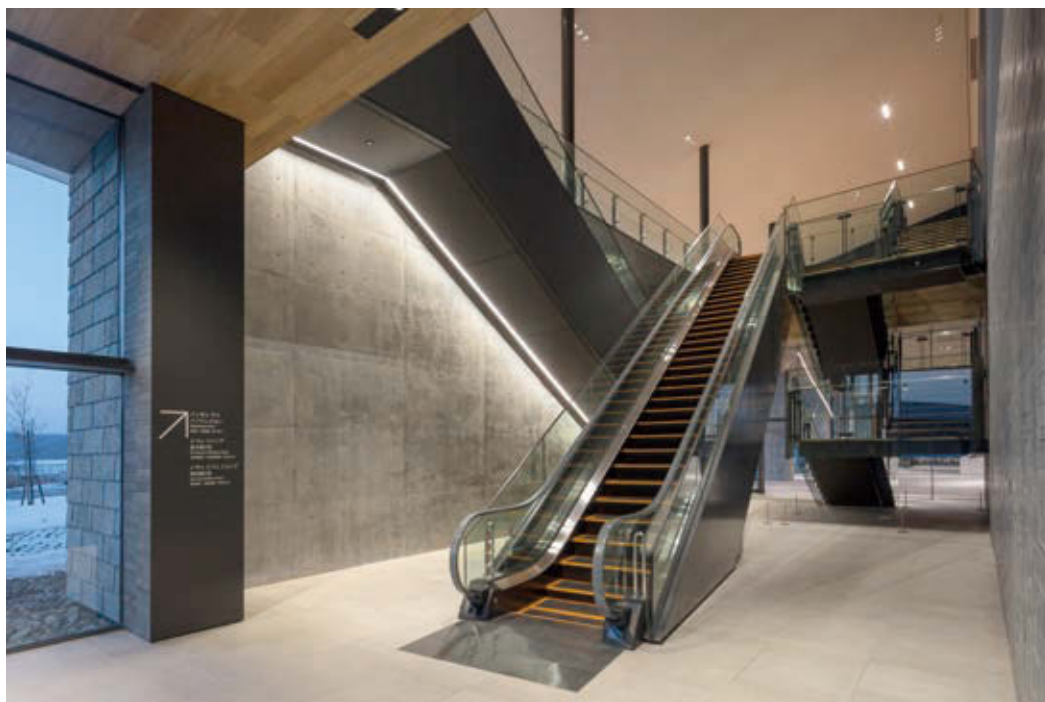
2階トイレ洗面台（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

ニカラ、トゥシエリキンベ、シモイエニカラ（階段、エレベーター、エスカレーター）

1階ロビーから展示室へと向かう扉の向こうに広がる吹き抜けに、エレベーター、エスカレーター、階段が設置され、1階と2階とをつないでいる。エレベーターには内部に手すりが設けられ、日英のアナウンスが流れ、点字表示がなされている。



階段（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エスカレーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）



エレベーター（写真提供：国土交通省北海道開発局営繕部）

III -05-02 管理・運営ゾーンの施設

イコロ プ（収蔵庫）

当館の収蔵庫は、収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫からなる。

収蔵品は、着物、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、漆器類など多種多様である。そうした資料たちは、民具等の立体の資料から絵画等の平面の資料というように、多岐にわたる形状を有している。そこで、効率よく安全に収蔵して保管するために特注寸法の収蔵棚を設置した。

また、東北地方太平洋沖地震や北海道胆振東部地震等の災害例を踏まえ、収蔵棚の本体構造は地震等による縦横の揺れが発生した場合でも容易に倒れないものとなっている。

収蔵庫前室、一般収蔵庫、特別収蔵庫ともに、24 時間空調で温度 20 ～ 22℃、湿度 55%を維持することを目標としている。ただし、特別収蔵庫は漆器類を保管しているため、55%よりも若干高めに設定している。

将来的な収蔵資料の増加に備え、メザニン増設も可能な作りになっている。

イコロ プ セム（収蔵庫前室）

一般収蔵庫や特別収蔵庫が直接バックヤードに面しないための緩衝の役割を果たすとともに、計測器具、薄葉紙、マット等を収納しておくための部屋。資料情報の入力作業や簡易な資料調査も行うことが可能。



収蔵庫前室

イコロプ（一般収蔵庫）

衣類、木製品、植物を利用した民具、動物の皮類、金属・石、絵画類、はく製、舟といった大型資料を収蔵している。



一般収蔵庫全景（右側に舟を収納する棚）



イナウのような民具を立てて収納するための移動集密棚



棚上部には、資料落下防止対策として引き戸を備えている

シサク イコロ プ（特別収蔵庫）

素材により最適な温湿度条件が異なるため、特別収蔵庫にはシントコやトゥキといった漆器類を収蔵している。



特別収蔵庫（棚設置前、写真提供：久米設計）



特別収蔵庫全景

サパネクル トウンプ（館長室）

館長の執務用のデスクと椅子、書類棚、給湯施設、少人数での打合せのためのテーブルと椅子が設置されている。ここでは4人までの打合せが可能。



館長室

ウエカフ トゥンプ（応接室）

内外の賓客等を迎え入れることが可能な応接室。テーブル2脚と椅子8脚が設置され、最大8人での会合が可能。専用のトイレも完備されている。



応接室



応接室

IV 2023（令和5）年度事業

IV -01 2023（令和5）年度主要事項

2023 年

(3月14日)

第4回テーマ展示：「地域からみたアイヌ文化展 アカント ウン コタン ―阿寒湖畔のアイヌ文化―」
開幕（会期：2023年3月14日～5月14日）

4月1日

第4回テーマ展示関連イベント 「阿寒湖アイヌコタンの“今”と“昔”を語る」

4月2日

第4回テーマ展示関連イベント 「アイヌ語のおはなしを聴いてみよう！」

4月14日

カナダ 環境・気候変動省 スティーブン・ギルボー (Steven Guilbeault) 大臣来訪
米国 環境保護庁 ジャネット・マッケイブ (Janet McCabe) 副長官来訪

4月17日

G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合参加者来訪

4月20日

竹原勇一アイヌ関連施策管理官視察

4月29日

ホリデーイベント 展示を見る前のアイヌ博ガイド「イコロ トゥンプをまわろう！」

5月3日

第4回テーマ展示 ギャラリートーク 第5章 「ことば」

5月7日

第4回テーマ展示 ギャラリートーク 第6章 「観光」

5月13、14日

第4回テーマ展示 スペシャルトークイベント 協力：阿寒口琴の会

5月16日

中村誠札幌法務局長視察

5月25日

カナダ ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島北部クワクワカワク (Kwakwaka'wakw) チーフ・ウェドリディ・スペック (Chief Wedlidi Speck) 世襲首長来訪

5月27日、28日

ホリデーイベント 動物の毛皮に触ってみよう ―アイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触る―

ホリデーイベント 国立アイヌ民族博物館 館長のお話を聞こう！『毛皮とお金にまつわるお話』

6月17日

ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」

6月24日

第6回特別展示：「アウタリオピッタ アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市―」開幕（会期：2023年6月24日～8月20日）

6月24日、7月1日、7月16日、7月29日、8月5日、8月12日、8月20日

第6回特別展示 ギャラリートーク（全7回）

6月29日

春名茂法務省訟務局長視察

6月30日

駐日欧州連合（EU）代表部 ジャン＝エリック・パケ（Jean-Eric Paquet）大使来訪

7月7日

齊藤雄一法務省人権擁護局調査救済課長（内閣官房アイヌ総合政策室参事官）視察

7月12日

斉藤鉄夫国土交通大臣視察

7月15日

第6回特別展示講演会 「『コタン』を編む人―遼星北斗27年の生涯」

7月20日

鎌田隆志法務省人権擁護局長視察

8月29日

シンポジウム「ウポポイ3周年を迎えて～共生の道をいかに歩むのか」開催（北海道大学アイヌ・先住民研究センター共催）

8月31日

大久保誠北海道財務局長視察

9月1日

国立アイヌ民族博物館客員研究員として佐々木利和氏を招聘

9月9日

ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」

9月13日

蒲生篤実 JNTO 理事長視察

新田正樹内閣官房アイヌ総合政策室参事官視察

9月16日

第7回特別展示：「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 ―19世紀までの軌跡―」開幕（会期：2023年9月16日～11月19日）

開会記念講演会 「「アイヌ史の時代」をどう捉えるか：その広がりや連なりから考える」

9月23日、10月14日、11月3日（2回）、11月4日、11月18日

第7回特別展示 ギャラリートーク（全6回）

9月23日

カムイチェブー受け継がれたサケ漁―特別講演「サケ―謎に満ちた生命の旅」

10月5日

自見英子国際博覧会担当大臣、内閣府特命担当大臣（アイヌ施策）視察

10月7日

第7回特別展示 トークイベント「アイヌ史にみる動物の話」

10月26日

室蘭工業大学と国立アイヌ民族博物館が包括連携協定を締結

10月29日

ホリデーイベント ワークショップ「ウポポイのアイヌ語表示を探してみよう！」

11月3日

ウポポイ無料開放 DAY

11月15日

カナダ スタン・クッチャー上院議員（Senator Stan Kutcher）、テリー・シーアン下院議員（Terry Sheehan, MP）（両者とも：カナダ日本国會議員連盟共同議長）来訪

12月13日

台湾の原住民族委員会原住民族文化発展中心と公益財団法人アイヌ民族文化財団が連結協定を締結

12月14日

カナダ ブリティッシュ・コロンビア州政府 Ulkatcho ファースト・ネーション チーフ・リンダ・プライス（Chief Lynda Price）首長来訪

12月16日

ホリデーイベント 展示体験「テンパテンパしてみよう！」

12月23日

第5回テーマ展示：「ウポポイナイトミュージアム」開幕（2023年12月23日～2024年2月18日）

関連イベント 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』読み聞かせ

2024年

1月6日、2月10日

第5回テーマ展示関連イベント 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』読み聞かせ

1月27日

ホリデーイベント バックヤードツアー

1月31日

英国 駐日英国大使館 ウェールズ政府 リチャード小泉（Richard Koizumi）日本代表来訪

2月3日、2月4日

ホリデーイベント 動物の毛皮に触ってみよう ―アイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触る―

3月2日

小鍵隆史国土交通大臣政務官視察

3月16日

第6回テーマ展示：「ミナ ミナ 『おばけのマ〜ルとすてきなことば』展」開幕（2024年3月16日～5月12日）

関連イベント すてきなことばアルバム

3月23日

第6回テーマ展示関連イベント すてきなことばアルバム

3月25日

白老町と公益財団法人アイヌ民族文化財団が連結協定を締結

IV-02 入館者数（月別）

新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、博物館入館者数の制限を2022年9月24日に撤廃したことから、博物館入館者数はウポポイ入園者数とほぼ同数となる状況が続いていた。このため、2023年10月末で博物館入口での入館者数カウントを停止し、2023年度よりウポポイ入場者数を博物館入館者数と同等とみなすこととした。

ウポポイ入場者数（カッコ内は前年同月）

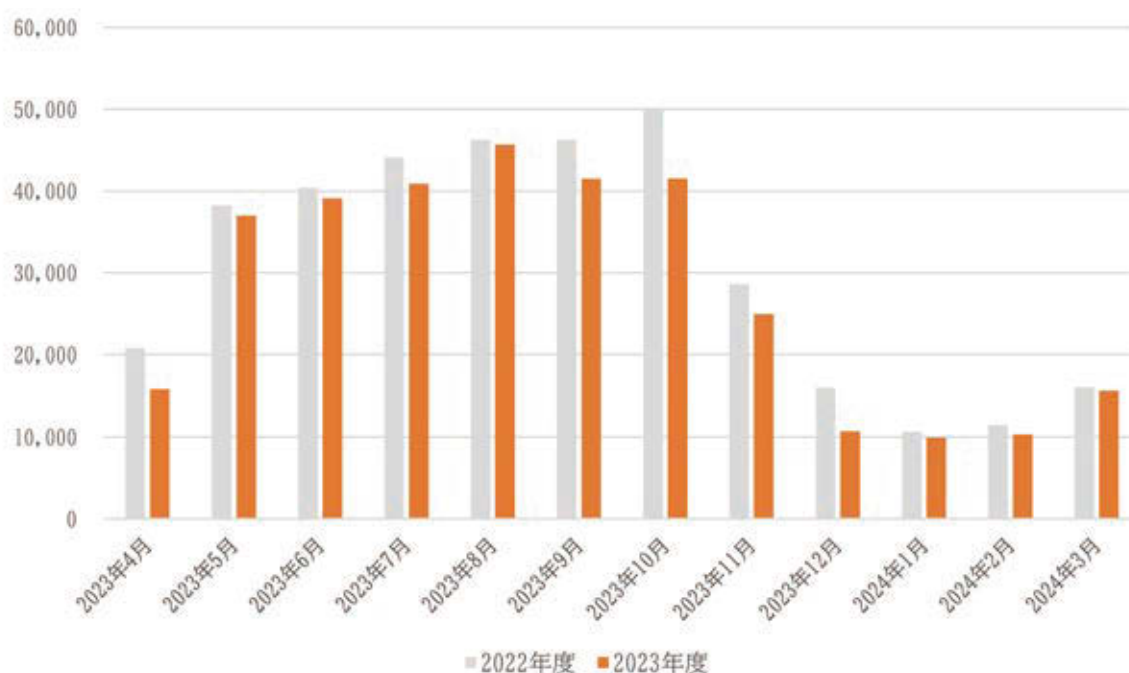
2023年

	ウポポイ月別	ウポポイ累計
4月	15,881 (20,795)	15,881 (20,795)
5月	36,999 (38,241)	52,880 (59,036)
6月	39,101 (40,405)	91,981 (99,441)
7月	40,897 (44,150)	132,878 (143,591)
8月	45,670 (46,289)	178,548 (189,880)
9月	41,514 (46,265)	220,062 (236,145)
10月	41,529 (50,061)	261,591 (286,206)
11月	24,882 (28,551)	286,473 (314,757)
12月	10,705 (16,057)	297,178 (330,814)

2024年

1月	9,915 (10,684)	307,093 (341,498)
2月	10,312 (11,435)	317,405 (352,933)
3月	15,692 (16,105)	333,097 (369,038)

2023（令和5）年度ウポポイ入場者数



IV-03 展示

IV-03-01 特別展示の企画立案・計画策定、開催

- 1) 第6回特別展示 「“アウタリオピッタ”アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市―」
下記のとおり実施した。

後援者名	公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2023年6月24日（土）～2023年8月20日（日）[58日間]
入場者数	7,669名
入場料金	大人300円 高校生200円 中学生以下無料（ウポポイ入園料は別途）

概要

知里幸恵の『アイヌ神謡集』（1923年刊）が発行された当時のアイヌ民族を取り巻く社会状況を、当時のアイヌ民族による歌や詩などから明らかにする展示を行った。展示は、以下の6つのテーマで構成した。

プロローグ 1. バチラー八重子 2. 遼星北斗 3. 森竹竹市 コラム：掛川源一郎 エピローグ

事業内容	出品協力及び展示数：旭川市博物館、NHK 室蘭放送局、沖縄県立博物館・美術館、帯広市図書館、掛川源一郎写真委員会、釧路市中央図書館、市立小樽文学館、仙台藩白老元陣屋資料館、だて歴史文化ミュージアム、知里幸恵 銀のしずく記念館、日本聖公会北海道教区 有珠聖公会、北海道大学附属図書館北方資料室、北海道大学植物園・博物館、北海道立図書館、北海道立文学館、余市町図書館、よいち水産博物館、立教小学校、立教大学図書館、及び本館収蔵資料 約200点
	関連事業： 外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計8回 ・講演会「『コタン』を編む人―遼星北斗27年の生涯」 2023年7月15日（土） 山科清春 ・ギャラリートーク 第1回 2023年6月24日（土） 第2回 2023年7月1日（土） 第3回 2023年7月16日（日） 第4回 2023年7月29日（土） 第5回 2023年8月5日（土） 第6回 2023年8月12日（土） 第7回 2023年8月20日（日）
事業成果	今から約100年前に知里幸恵の『アイヌ神謡集』（1923年刊）が発行され、その序文は、当時のアイヌ民族が置かれた状況を物語っていた。その社会状況を、バチラー八重子（『若きウタリに』1931年刊）、遼星北斗（『コタン 遼星北斗遺稿』1930年刊）、森竹竹市（『若きアイヌの詩集 原始林』1937年刊）の作品等から読み取る展示を行うことで、アイヌ民族が生きた近代という時代についての来館者の理解を促進した。
担当者	田村将人、森岡健治、関口由彦、立石信一、小林美紀、八幡巴絵、竹内隼人、是澤櫻子、マーク・ウィンチェスター、永石理恵、内田祐一（文化庁：アドバイザー）



第6回特別展示：「アウタリオピッタ」 アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市―



第6回特別展示：「アウタリオピッタ」 アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市―



第6回特別展示：「“アウタリオピッタ” アイヌ文学の近代 ―パチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市―」



第6回特別展示：「“アウタリオピッタ” アイヌ文学の近代 ―パチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市―」

2) 第7回特別展示 「考古学と歴史学からみるアイヌ史展－19世紀までの軌跡－」

下記のとおり実施した。

後援者名	公益社団法人北海道アイヌ協会
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2023年9月16日（土）～2023年11月19日（日）[65日間]
入場者数	10,209名
入場料金	大人 300円 高校生 200円 中学生以下無料（ウポポイ入園料は別途）

概要

周辺文化との接触を重ねながらその特色を際立たせてきたアイヌ文化は、時代とともに変化を繰り返してきた。その歴史を、考古学と歴史学の研究成果を踏まえて紹介した。展示は、プロローグとエピローグを含め8つのテーマで構成した。

プロローグ アイヌ史についてのQ&A 1章 東と西の伝統、北と南からの交流

2章 地域を超える交流－イコロの系譜－ 3章 アイヌ文化にみられる「13世紀」の画期とはなにか

4章 チャンの構築 5章 アイヌ社会に引かれる境界 6章 生活の中ではぐくまれたアイヌ文化－
今に息づく文化の系譜－ エピローグ 現代につづくアイヌ民族の歴史へ

事業内容	出品協力及び展示数：秋田市教育委員会、旭川市博物館、芦別市教育委員会、厚真町教育委員会、石狩市教育委員会、岩手県立博物館、恵庭市教育委員会、江別市教育委員会、小樽市総合博物館、上ノ国町教育委員会、北九州市立自然史・歴史博物館、九州国立博物館、釧路市教育委員会、釧路町教育委員会、斜里町教育委員会、證道寺、千歳市教育委員会、東京国立博物館、東京大学史料編纂所、南部町教育委員会、根室市教育委員会、函館市教育委員会、八戸市博物館、弘前市教育委員会、深川市教育委員会、北斗市教育委員会、北海道大学附属図書館、北海道伊達市教育委員会、北海道博物館、北海道埋蔵文化財センター、北海道立図書館、北海道立文書館、宮古市教育委員会、余市町教育委員会、及び本館収蔵資料 約160点
	関連事業： - 外部講師による講演会、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計8回 - 開会記念講演会「「アイヌ史の時代」をどう捉えるか：その広がりや連なりから考える」 2023年9月16日（土） 谷本晃久 - トークイベント「アイヌ史にみる動物の話」 2023年10月7日（土） - ギャラリートーク - 第1回 2023年9月23日（土・祝） - 第2回 2023年10月14日（土） - 第3回、第4回 2023年11月3日（金・祝） - 第5回 2023年11月4日（土） - 第6回 2023年11月18日（土）
事業成果	当展覧会では、現代にみられる伝統性が形成されたであろう18～19世紀のアイヌ文化を軸に、その成り立ちを概観した。それによって、「13世紀のアイヌ文化成立」という考え方を再考するとともに、現代のアイヌ民族につながる歴史観をどのように構築していくのかという課題について、来館者の興味関心を喚起した。
担当者	藪中剛司、鈴木建治、森岡健治、大江克己、シン・ウォンジ、両角佑子、八幡巴絵、古田嶋智子、永野正宏（文化庁：アドバイザー）



第7回特別展示：「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 —19世紀までの軌跡—」



第7回特別展示：「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 —19世紀までの軌跡—」



第7回特別展示：「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 —19世紀までの軌跡—」



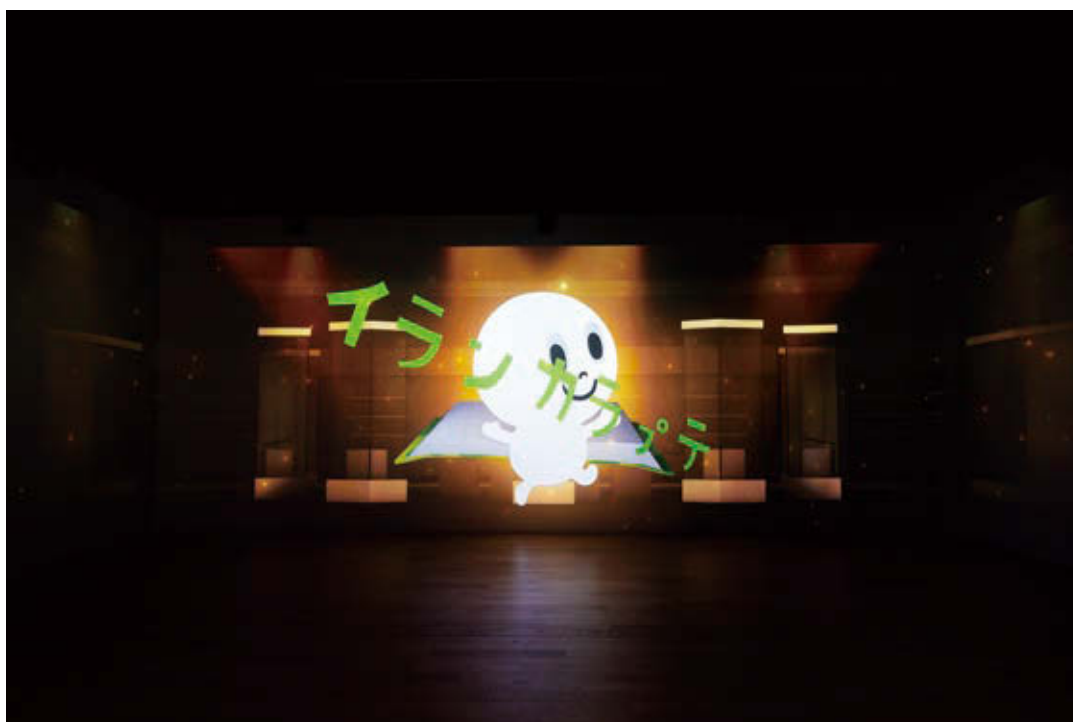
第7回特別展示：「考古学と歴史学からみるアイヌ史展 —19世紀までの軌跡—」

IV -03-02 交流展示及びテーマ展示の立案・計画策定、開催

1) 第5回テーマ展示 「A Night at the National Ainu Museum —ウポポイナイトミュージアム “Ainu Words, Broadened Horizons” —」

下記のとおり実施した。

後援者名	公益社団法人北海道アイヌ協会
特別協力	株式会社エイチ・アイ・エス、株式会社ネイキッド、中西出版株式会社
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2023年12月23日（土）～2024年2月18日（日）[58日間]
入場者数	16,618名
入場料金	無料
事業内容	展示資料：中西出版株式会社、及び本館収蔵資料 約60点 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』の原画（またはイラストパネル）を展示するとともに、絵本に書かれたアイヌ語を実際に耳で聞くことができる音声や映像コンテンツを展示した。以下の内容で構成した。 ①「おばけのマ〜ル」と夜の世界 ② 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』について ③ 映像コンテンツ ④ 体験型・参加型コーナー ⑤ 絵本閲覧コーナー 関連事業： 当館学芸員による絵本読み聞かせ計3回 ・絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』読み聞かせ 第1回 2023年12月23日（土） 第2回 2024年1月6日（土） 第3回 2024年2月10日（土）
事業成果	当展示会は、国土交通省・観光庁の「観光再始動事業」の一環として行い、インバウンド向けの展示とした。展示室で夜の雰囲気 연출し、インタラクティブなデジタル映像コンテンツを使用するといった、インバウンドに向けた展示経験の蓄積につながった。
担当者	矢崎春菜、深澤美香、赤田昌倫、カサド・バルド・ケラール、工藤綾華、古田嶋智子、中井貴規、長谷仁美、森岡健治



第5回テーマ展示 「A Night at the National Ainu Museum
—ウポポイナイトミュージアム “Ainu Words, Broadened Horizons” —」



第5回テーマ展示 「A Night at the National Ainu Museum
—ウポポイナイトミュージアム “Ainu Words, Broadened Horizons” —」

2) 第6回テーマ展示「ミナ ミナ 『おばけのマ〜ルとすてきなことば』展」

下記のとおり実施した。

後援者名	公益社団法人北海道アイヌ協会
特別協力	中西出版株式会社
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2024年3月16日（土）～2024年5月12日（日）[58日間]
入場者数	29,391名
入場料金	無料
事業内容	出品協力及び展示数：中西出版株式会社、一宮市三岸節子記念美術館、一般財団法人札幌市交通事業振興公社、株式会社エイチ・アイ・エス、公益財団法人札幌交響楽団、札幌芸術の森美術館、札幌市青少年科学館、札幌市時計台、札幌市円山動物園、北海道立三岸好太郎美術館、NAKED, INC. 及び本館収蔵資料 約100点 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』の原画（またはイラストパネル）を展示するとともに、絵本に書かれたアイヌ語を実際に耳で聞くことができる音声や映像コンテンツを展示した。以下の内容で構成した。 ① 絵本「おばけのマ〜ル」シリーズについて ② 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』について ③ 絵本閲覧コーナー ④ 体験型・参加型コーナー 関連事業： 当館研究員・学芸員によるワークショップなど計2回 ・すてきなことばアルバム [1] 2024年3月16日（土） ・すてきなことばアルバム [2] 2024年3月23日（土）
事業成果	当展覧会では、アイヌ語を実際に耳で聞くことができる音声や映像コンテンツ、アイヌ文化に関するクイズやハンズオン展示を実施し、それらと連携したワークシートブック（もしくはクイズブック）を配布することで、参加型の展示とした。それによって、絵本の読者である子供たちや保護者の誘客につながった。
担当者	矢崎春菜、深澤美香、赤田昌倫、カサド・パルド・ケラール、工藤綾華、古田嶋智子、小林美紀、中井貴規、長谷仁美、森岡健治



第6回テーマ展示 「ミナ ミナ 『おばけのマ〜ルとすてきなことば』展」



第6回テーマ展示 「ミナ ミナ 『おばけのマ〜ルとすてきなことば』展」

IV-03-03 2024（令和6）年度の特別展示及びテーマ展示の立案・計画策定、準備

- ・第8回特別展示：「生誕90年記念 藤戸竹喜の世界」を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2024年6月29日（土）～2024年8月25日（日）[58日間]

- ・第9回特別展示：「驚異と怪異 ー想像界の生きものたち」を下記のとおり実施する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2024年9月14日（土）～2024年11月17日（日）[65日間]

- ・第7回テーマ展示：「インバウンドを含む誘客に向けて観光再始動事業と連動した展示」（仮称）
を下記のとおり開催する。

実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2024年12月14日（土）～2025年2月16日（日）[65日間]

- ・第8回テーマ展示：「蝦夷錦展」（仮称）を下記のとおり開催する。

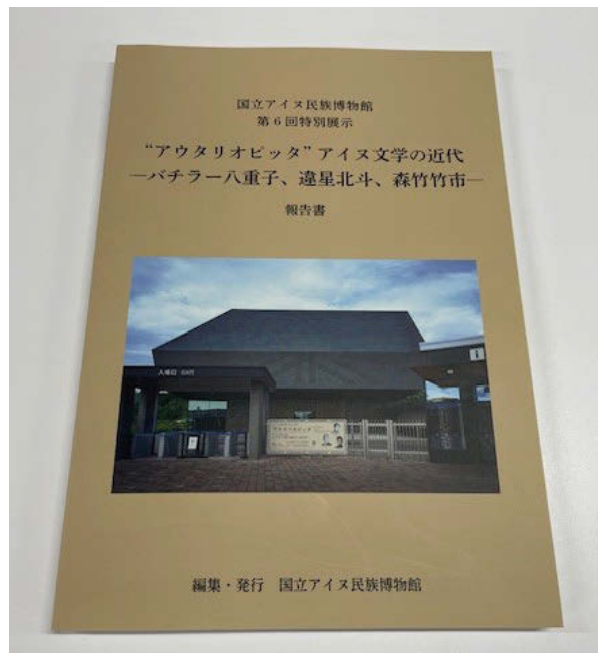
実施会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
実施期間	2025年3月15日（土）～2025年5月18日（日）[65日間]

IV-03-04 展示関連の解説書・図録等の企画及び編集、発行

第6回および第7回特別展、第6回テーマ展のパンフレットを作成し、特別展示室にて無料配布した。
また、これらのパンフレットを、国内の博物館、図書館等の関係諸機関、さらに展示協力者等に発送した。第6回特別展については、報告書も作成した。



パンフレット3種



“アウタリオピッタ” アイヌ文学の近代—バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市— 報告書

IV -04 調査研究

IV -04-01 調査研究事業

1. 調査研究プロジェクト

アイヌの歴史と文化に関する調査研究及び博物館機能強化を目的とした調査研究として、A 基幹研究及び悉皆調査（継続9件）、B 個別研究（新規5件）、C 成果発表支援（継続2件、新規8件）を実施した。また、他の研究機関等と共同研究を行う K 共同研究（新規3件）の枠組みが追加され、新規3件を実施した。プロジェクトは下記の一覧の通りである。

2023（令和5）年度調査研究プロジェクト課題一覧

課題番号	調査研究課題名	専門G	代表者	メンバー	研究協力者
A 基幹研究					
2021A01	博物館利用者ならびに、国立アイヌ民族博物館基本展示の展示観覧行動と展示評価に関する研究	教育	笹木一義	奥山英登、シン ウォンジ、三木暁了	佐藤優香（東京大学）
2021A02	芸能の持続的な継承と発展に関する研究：保存会の実態調査と担い手の人材育成	言語儀礼 芸能	押野朱美、谷地田未緒	野本正博、山道ヒビキ	甲地利恵（北海道博物館）
2021A03	アイヌ語資料等のアーカイブ化とその活用に関する基礎研究	言語儀礼 芸能	小林美紀	深澤美香、矢崎春菜、中井貴規、荒田このみ、山丸賢雄、山道ヒビキ	

2021A04	アイヌ民具と技術伝承に関する研究	物質文化	北嶋由紀	八幡巴絵、宮地鼓、 竹内隼人、長谷仁美、 両角佑子	
2021A05	アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究	文化財科学	大江克己	赤田昌倫、古田嶋智子、 霜村紀子、中井貴規、 八幡巴絵	
2021A06	近現代アイヌ民族史（誌）と博物館展示をめぐる実証的研究	歴史社会	田村将人	立石信一、関口由彦、 マーク ウィンチェスター、 是澤櫻子	内田順子（国立歴史民俗博物館）、 山崎幸治（北海道大学）
2021A07	チャシの形成に関する考古学的研究	歴史社会	藪中剛司	鈴木建治、大江克己、 森岡健治、赤堀祐斗	小田島賢（厚岸町教育委員会）、 熊崎農夫博（前厚岸町教育委員会・学芸員）
2022A01	17～19世紀の蝦夷地像に係る図像史料等の基礎的調査	歴史社会	霜村紀子	劉高力、シン ウォンジ	中村和之（函館工業専門学校）
2021 悉 皆 調 査	アイヌ資料コレクションの悉皆調査（令和3-5年度調査）	歴史社会・物質文化	鈴木建治	赤田昌倫、藪中剛司、 八幡巴絵、竹内隼人、 田村実咲	
B 個別研究					
2023B01	スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料の調査	教育	カサド・バルド・ケラール	八幡巴絵	
2023B02	民族学系の博物館におけるマルチメディアコミュニケーションの可能性	言語儀礼芸能	劉高力		
2023B03	日露のアイヌ資料収集者の日記・書簡資料を中心とした20世紀初頭の樺太先住民族のコレクション形成史に関する研究	歴史社会	是澤櫻子	田村将人	
2023B04	考古遺跡から出土した二枚貝貝殻を用いた北海道周辺海域における高時間解像度環境復元	物質文化	宮地鼓		
2023B05	文化多様性と生物多様性の両輪で推進される多様性保全教育のための基礎的研究	教育	奥山英登	矢崎春菜、永石理恵、 シン ウォンジ	
K 共同研究					
2023K01	蝦夷生計図説の研究／東京大学総合研究博物館所蔵「蝦夷生計図説」	言語儀礼芸能	深澤美香	田村将人	谷本晃久（北海道大学）、 海部陽介（東京大学総合研究博物館）、 佐々木利和（北海道大学）
2023K02	石巻市博物館所蔵毛利総七郎コレクションの総合的研究／毛利総七郎コレクション（うちアイヌ資料を中心に）	物質文化／教育	八幡巴絵	赤田昌倫、藪中剛司、 鈴木建治、竹内隼人、 田村実咲	泉田邦彦（石巻市博物館）、 佐藤美子（石巻市博物館）
2023K03	苫小牧市美術博物館所蔵の舟に関する文理融合型の共同研究／舟	歴史社会／物質文化	鈴木建治	藪中剛司、大江克己	岩波連（苫小牧市美術博物館）、 佐藤麻莉（苫小牧市美術博物館）
C 成果発表支援					
2022C08	日本の科学教育における Indigenous knowledge としてのアイヌ文化（2022C01）／日本科学教育学会機関誌「科学教育研究」	教育	奥山英登		

2022C09	教育普及事業ホリデーイベント「伝承から自然災害を記憶する一津波」／日本地球惑星科学連合 2023 年大会	教育	シン ウォンジ		
2023C01	アイヌ語の基礎語彙に関する研究／The 5th International Conference on Asian Geolinguistics	言語儀礼 芸能	深澤美香		
2023C02	20 世紀前半の樺太先住民族のコレクション形成史における石田収蔵資料の位置づけについて／北海道民族学会 2023 年第 1 回研究会	歴史社会	是澤櫻子		
2023C03	テーマ展 2020 展の展示手法について／ICOM CECA Annual Conference 2023 Singapore	教育	笹木一義		
2023C04	Exploring the Advantages and Challenges of Virtual Museums: A Case Study of the National Ainu Museum／視聴覚および新技術国際委員会 AVICOM2023 総会	言語儀礼 芸能	劉高力		
2023C05	持続可能な開発のための伝統的知識と教育／日本科学教育学会第 47 回年会	教育	奥山英登		
2023C06	博物館と地域創生——日本の「民族共生象徴空間」を例に／中国博物館人類学第四回大会	言語儀礼 芸能	劉高力		
2023C07	アイヌ語方言に関する言語学・統計学的研究／北方言語学会第 6 回大会	言語儀礼 芸能	深澤美香		
2023C09	持続可能な開発のための生物多様性と文化多様性／第 64 回日本動物園水族館教育研究会室戸大会	教育	奥山英登		

※ 2023C08, 2023C10, 2023C11 の 3 件は翌年度に採択・実施したため、本リストには含まれない。

2. 連携協定の締結等

a) 新規締結

① 室蘭工業大学（博物館）

締結日：2023 年 10 月 26 日

締結内容：国立大学法人室蘭工業大学と「包括連携協定」を締結。北海道という地域の特色を活かした教育研究等について包括的な連携のもと相互に協力。2024 年 6 月に当館職員を対象にした科研費説明会や、9 月に室工大祭イベント・アイヌ語 WS などを実施予定。

② 原住民族委員会原住民族文化発展中心（財団）

締結日：2023 年 12 月 13 日

締結内容：ポルトコタン時代の協定を再締結するもの。職員の研修、伝承者の相互訪問、出版物交換等。2022 年度に財団海外研修で現地を訪問。本協定を基に 2024 年 3 月に先方の文化事業担当職員（舞踊・工芸など）が来日し、調印式と交流事業を実施。

③ 白老町（財団）

締結日：2024 年 3 月 25 日

締結内容：アイヌ民族文化財団と白老町は、相互に連携・協力し、アイヌ文化の振興及びアイヌの伝統等に関する知識の普及、啓発及び民族共生象徴空間への誘客、利活用の促進等を通して、地域社会の発展に資するため協定を締結。

b) 既存の協定に関する事業報告

④ 北海道大学アイヌ・先住民研究センター（博物館）

締結日：2020年11月13日

内容及び報告：学術研究と教育活動の推進が目的。共同研究、博物館活動の推進、研究者の相互交流、国際シンポジウム・ワークショップの共同開催、施設・機器の相互活用など。2022年度内部勉強会、2023年度共同シンポジウムを開催。2024年度は内部勉強会を2度開催予定。

⑤ 苫小牧市教育委員会（博物館）

締結日：2021年8月27日

内容及び報告：苫小牧市弁天地区海岸で発見された丸木舟について、「苫小牧市が所有するアイヌ資料を対象とした共同研究の実施及び成果物の管理と利用に関する覚書」を締結。2021年10月20日に丸木舟2隻を勇武津資料館から当館へ移送し、脱塩処理の1回目を実施し、2022年度に脱塩処理の2回目を実施した。2023年度から保存修復業務を実施している。関連調査として、取得した三次元データのデータ作成を行い、厚岸町出土板綴舟との形状解析を行った（7件/34回実施）。

⑥ 札幌大学（財団）

締結日：2022年1月13日

内容及び報告：両法人がそれぞれの強みを生かし、連携および協力することによって、アイヌ文化の一層の復興と発展を図り、アイヌ民族の誇りが尊重される社会の実現に寄与することを目的とする。札幌大学では2022年度より、教育プログラムとして「アイヌ文化スペシャリスト養成プログラム asir（アシリ）」を開設。木彫りや刺繍などアイヌ民族の伝統工芸の実技を学ぶ正規授業を新設。当館から北嶋由紀室長補佐を講師として派遣している。

⑦ 東京国立博物館（博物館）

締結期間：2023年3月14日～2025年3月31日

内容及び報告：「東京国立博物館が所蔵する文化財を対象とした共同研究の実施及び成果物の管理と利用に関する覚書」を締結。東京国立博物館と当館が共同して、東京国立博物館が管理する文化財に関する共同研究を実施する。

⑧ 北海道アイヌ協会（博物館）

締結日：2021年12月22日

内容及び報告：アイヌ工芸者の技術向上と新たなアイディアや新商品の開発、アイヌ工芸品の振興発展と後継者育成を目的として、アイヌ工芸家を対象とした「技術研修」を実施する。当館は道内研修先の一つとして、資料の熟覧・調査などを目的とした研修生を受け入れている。

IV -04-02 ネットワーク事業

1) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会及びネットワーク運営

a) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会の開催

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会の会議を2023年7月、11月と2024年3月に3回開催し、ネットワーク運営に関する協議を行った。当運営委員会の委員名簿は以下の通りである。

参加組織	氏 名	地 域
旭川市博物館	飯岡 郁穂	旭川
北海道博物館	小川 正人	札幌
市立函館博物館	大矢 京右	函館
北海道大学植物園	加藤 克	札幌
新ひだか町博物館	斉藤 大朋	新ひだか
北海道立北方民族博物館	笹倉 いる美	網走
北海道博物館協会学芸職員部会	志賀 健司	石狩
釧路市立博物館	城石 梨奈	釧路
(公財)北海道埋蔵文化財センター	田口 尚	札幌
平取町立二風谷アイヌ文化博物館	長田 佳宏	平取
帯広百年記念館	池田 亨嘉	帯広
松浦武四郎記念館	山本 命	松阪

- ・第1回会議：2023年7月25日
- ・第2回会議：2023年11月11日
- ・第3回会議：2024年3月22日

b) アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）の運営

当館を中心にした、アイヌの歴史、文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進や様々な事業を行う独自のネットワークを通じて、各種事業を実施した。

11月には会員機関の所属職員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及び各機関の実践事例等に関する研修会を対面、オンライン配信により実施し、96名の参加があった。会員機関向け会報「ブンカラ通信」創刊号（9月）および2号（3月）を発行した。

会員機関向け Web ページ「ブンカラ会員機関限定サイト」を開設し、運用を開始した。

ブンカラ共同研究について、ブンカラ重点課題研究（課題設定型）とブンカラ共同利用研究（公募型）の実施要項と作成募集に係る項目を整理し、募集を開始した。重点課題「科学分析装置を用いたアイヌのマキリとイタの製作に係る基礎的研究」を試行的に開始し、さらに各研究課題の募集準備を行った。

ブンカラ協働展示「アイヌの建築と工芸の世界ー チセ、マキリ、アットゥシ ー」を開催した（共催：浦幌町立博物館、新ひだか町博物館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、会場：国立近現代建築資料館（東京都湯島）、会期：2024年3月1日（金）～3月24日（日）、観覧者数：4,197人）。新たに6機関より入会申込があり、会員は68機関となった。



Punkar通信 創刊号・第2号



Punkar協働展示 展示の様子

2023（令和5）年度の会員機関一覧は以下の通りである（番号は入会申込み順による会員機関番号）。

2023（令和5）年度アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク会員機関一覧

No.	会員機関番号	施設・機関名
1	namnet001	富良野市博物館
2	namnet002	だて歴史文化ミュージアム
3	namnet003	湧別町ふるさと館 JRY
4	namnet004	浦幌町立博物館
5	namnet005	厚真町軽舞遺跡調査整理事務所
6	namnet006	天理大学附属天理参考館
7	namnet007	恵庭市郷土資料館
8	namnet008	厚岸町海事記念館
9	namnet009	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
10	namnet010	沙流川歴史館
11	namnet011	根室市歴史と自然の資料館
12	namnet012	苫前町郷土資料館

13	namnet013	様似郷土館
14	namnet014	しらおいイオル事務所チキサニ
15	namnet015	登別市教育委員会（登別市郷土資料館）
16	namnet016	北海道立埋蔵文化財センター
17	namnet017	旭川市博物館
18	namnet018	美幌博物館
19	namnet019	弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館
20	namnet020	オホーツクミュージアムえさし
21	namnet021	松浦武四郎記念館
22	namnet022	北海道立北方四島交流センター
23	namnet023	下川町ふるさと交流館
24	namnet024	勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅
25	namnet025	標茶町博物館ニタイ・ト
26	namnet026	仙台藩白老元陣屋資料館
27	namnet027	標津町ポー川史跡自然公園
28	namnet028	浜頓別町郷土資料館
29	namnet029	知内町郷土資料館
30	namnet030	新冠町郷土資料館
31	namnet031	北海道立北方民族博物館
32	namnet032	札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）
33	namnet033	北海道博物館
34	namnet034	市立函館博物館
35	namnet035	函館市北方民族資料館（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団）
36	namnet036	大黒屋光太夫記念館
37	namnet037	北海道立文学館（公益財団法人北海道文学館）
38	namnet038	アボイ岳ジオパークビジターセンター
39	namnet039	釧路市立博物館
40	namnet040	北海道立近代美術館
41	namnet041	帯広百年記念館
42	namnet042	國學院大學博物館
43	namnet043	新ひだか町博物館
44	namnet044	大阪府立近つ飛鳥博物館
45	namnet045	新潟県立歴史博物館
46	namnet046	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
47	namnet047	知里幸恵 銀のしずく記念館
48	namnet048	余市水産博物館
49	namnet049	九州国立博物館
50	namnet050	最上徳内記念館
51	namnet051	室蘭市民俗資料館
52	namnet052	苫小牧市美術博物館
53	namnet053	美唄市郷土史料館
54	namnet054	幕別町蝦夷文化考古館
55	namnet055	日本民藝館

56	namnet056	阿寒アイヌ民族文化保存会
57	namnet057	三石民族文化保存会
58	namnet058	市立小樽美術館・市立小樽文学館
59	namnet059	別海町郷土資料館 附属施設加賀家文書館
60	namnet060	音更町郷土資料室
61	namnet061	石巻市博物館
62	namnet062	岩手県立博物館
63	namnet063	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
64	namnet064	名寄市北国博物館
65	namnet065	斜里町立知床博物館
66	namnet066	いしかり砂丘の風資料館（石狩市教育委員会 社会教育部 文化財課）
67	namnet067	ノカピライウォロ・ビジターセンター
68	namnet068	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

IV -04-03 研究集会の企画・開催

国内の研究集会（シンポジウム）の企画・開催（4件）

- ・東アジア文化遺産保存国際シンポジウムへの後援・エクスカージョンへの協力

開催日時・場所：2023年8月13日、国立アイヌ民族博物館

参加人数：201人

- ・北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの共催シンポジウム「ウポポイ3周年を迎えて～共生の道をいかに歩むのか」を行った。

開催日時・場所：2023年8月29日、民族共生象徴空間ウポポイ 体験学習館3 オンライン併用

参加人数：会場50人、オンライン230人

進行：

〔第1部〕講演「先住民族展示に関わる事例紹介——海外の博物館を中心に」

北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授 山崎幸治

〔第2部〕対談「世間のアイヌ・イメージを気持ちよく裏切る」

北海道大学アイヌ・先住民研究センター センター長 加藤博文

国立アイヌ民族博物館 館長 佐々木史郎

〔第3部〕パネルディスカッション「文化振興と自律性～進化系文化事業」

モデレーター：北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授 北原 モコットウナシ

パネリスト：

民族共生象徴空間運営本部 主事 ラリウ（杉本リウ）

民族共生象徴空間運営本部 主任 ムカラ（山道陽輪）

国立アイヌ民族博物館 学芸主査 イサイカ（北嶋由紀）

国立アイヌ民族博物館 研究主査 ナアカイ（中井貴規）

※なお議論や発表の内容を、国立アイヌ民族博物館研究紀要第2号に掲載した。



シンポジウムチラシ

- ・ArCS II 沿岸環境課題および北海道立北方民族博物館、斜里町立知床博物館と当館の主催で「「暖かい」だけじゃない！毛皮と北方民族の多彩な関係」の展示およびギャラリートークを行った。

開催日時・場所：2023年4月19日から5月21日、斜里町立知床博物館・交流記念館

※ギャラリートークは5月6日に開催。

- ・ArCS II 沿岸環境課題および北海道立北方民族博物館と当館主催のコラボイベントとして「動物の毛皮に触ってみようーアイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触るー」を開催し、交流室展示、ギャラリートーク、講演会、体験型イベントを行った。

開催日時・場所：2023年5月27、28日、民族共生象徴空間ウボイ

企画・運営（敬称略、順不同）：山道陽輪（民族共生象徴空間運営本部）、是澤櫻子（国立アイヌ民族博物館）、日下稜（北海道大学 低温科学研究所）、中田篤（北海道立北方民族博物館）

IV -04-04 研究成果の社会発信

研究成果の社会発信として、論文（査読有）13件、論文（査読無）12件、寄稿・解説等51件のほか、学会発表（国外）14件、学会発表（国内）19件、講演会・講義63件を実施した。

1) 2023年度研究業績

2023年度の研究業績として、1. 論文（査読有）、2. 論文（査読無）※学術雑誌、研究報告書等、3. 学会発表＜国際学会＞＜国内学会＞、4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等、5. 寄稿・解説※一般誌、新聞、6. 図書として区分した。

1. 論文（査読有）

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）、論文標題、雑誌名、巻（号）、発行年、最初と最後の頁、掲載論文の DOI

- 1) 是澤櫻子、投書という文化：ポスト・ソビエト期の情報ネットワークとロシアの先住民族

- の社会運動の歴史的関係,『アイヌ・先住民研究』/Aynu teetawanoankur kanpinuye, 4, 2024, 1-31, DOI 10.14943/Jais.4.001
- 2) 奥山英登, 日本の科学教育における‘Indigenous knowledge’と「先住民族の知識」, 科学教育研究, 47, 3, 2023, 290-301, <https://doi.org/10.14935/jssej.47.290>
 - 3) 劉高力, 博物館のデジタル化に直面する課題, 博物館研究, 令和6年2月号, 2024, 15-21
 - 4) 劉高力, デジタルトランスフォーメーション時代における博物館展示のデジタル化: 博物館の受賞事例から, 北海道大学大学院文学院研究論集, 23, 2024, 339-360, <https://doi.org/10.14943/rjgshhs.23.1339>
 - 5) SASAKI, Kazuyoshi; OKUYAMA, Hideto; OSHINO, Akemi and SATO, Yuka, Developing and implementing the colouring worksheet for learning about Ainu garments (coats) and Ainu patterns by the National Ainu Museum, Best Practice 11: A tool to improve museum education internationally, 11, 2023, 64-73
 - 6) 小林美紀, アイヌ語動詞にあらわれる ta と充当接頭辞について, 北方言語研究, 14, 2024, 219-231
 - 7) 大江克己, 八幡巴絵, 国立アイヌ民族博物館における収蔵品の修理について, 博物館研究, vol.58, No.11, 2023, 15-18
 - 8) シン・ウォンジ, 『松前家記附録外国部』の朝鮮漂客李先達関係資料について, 北海道民族学, 20, 2024/3/31
 - 9) SASAKI, Shiro, Economics of the Santan Trade: Profit of the Nivkh and Ul'chi traders in Northeast Asia in the 18th and 19th centuries., Ziker, J. P., J. Ferguson, and V. Davydov (eds.) The Siberian World, 2023, 531-548, DOI:10.4324/9780429354663-44
 - 10) 小野洋平, 深澤美香, 比較不可能だったアイヌ語方言分類: 統計的方言分類を類似判断の点から再考する, アイヌ・先住民研究 /Aynu teetawanoankur kanpinuye, 4, 2024, 93-126, 10.14943/Jais.4.093
 - 11) 深澤美香, 小野洋平, 方言境界再考: アイヌ語の方言境界を例として, 北方言語研究, 14, 2024, 155-176, 10.14943/110533
 - 12) Mikael Fauvelle, Shiro Sasaki, and Peter Jordan, Maritime Technologies and Coastal Identities: Seafaring and Social Complexity in Indigenous California and Hokkaido., Indigenous Studies and Cultural Diversity, Vol.1(2), 2024, 30-52, <https://doi.org/10.57519/iscd.00008>
 - 13) 安田千夏, 北海道アイヌ口承文芸にみるクマ神の処罰と救済, 口承文芸研究, 47, 2024, 1-15
2. 論文（査読無）※学術雑誌, 研究報告書等
- ※著者名（館スタッフにはアンダーライン）, 論文標題, 雑誌名, 巻（号）, 発行年, 最初と最後の頁
- 14) 笹木一義, 工藤綾華, カンピソシヌカラトンプ国立アイヌ民族博物館ライブラリ: アイヌ民族の歴史や文化の理解を深める「開かれた専門図書室」として, 専門図書館, 313, 2023, 26-32
 - 15) 田村将人, 先住民族アイヌの歴史と文化を展示する, 博物館研究, 59-1, 2024, 26-30
 - 16) Fukazawa, Mika, Tracking basic Ainu vocabulary: Updates and changes of geographical

- distributions, Proceedings of the fifth International Conference on Asian Geolinguistics (Studies in Geolinguistics, Monograph series, No. 6), 2023, 34-48, 10.5281/zenodo.8382130
- 17) Fukazawa, Mika, System of 'sibling' terms in Ainu, Linguistic Atlas of Asia and Africa, 3, 2023, 11-12, 10.5281/zenodo.10223731
- 18) Fukazawa, Mika, Alignment in Ainu, Linguistic Atlas of Asia and Africa, 3, 2023, 69-70, 10.5281/zenodo.10223731
- 19) Fukazawa, Mika, Numeral systems in Asian and African languages, Linguistic Atlas of Asia and Africa, 3, 2023, 143-145, 10.5281/zenodo.10223731
- 20) Fukazawa, Mika, Numeral systems in Ainu, Linguistic Atlas of Asia and Africa, 3, 2023, 148-149, 10.5281/zenodo.10223731
- 21) 小林美紀, 矢崎春菜, ウポボイ オッタ アイヌイタク アエイワンケ ヒ チェイソイタク〔ウポボイでのアイヌ語の取り組みを語る〕, ことばと社会, 25号, 2023, 211-227
- 22) 宮地鼓, アイヌ文化の編むと織る, 北海道立北方民族博物館第38回特別展図録「北方民族の編むと織る」, 2023, 25-32
- 23) Gaoli Liu, 민족문화 전파에 '가상' 의 가능성을 개척하다 Pioneering "Virtual" Possibilities for the Dissemination of Ethnic Culture, Museum Connection (ICOM 韓国会員誌), 58号, 2024
- 24) Liu Gaoli, When a City Becomes an Immersive Museum for Biodiversity: Experiences at the COP15 in Montreal; Lorsqu'une ville devient un musée immersif en faveur de la biodiversité : expériences à la COP15 de Montréal; Cuando una ciudad se convierte en un museo inmersivo en favor de la biodiversidad: experiencias en la COP15 de Montreal, ICOM Voice (ICOM 電子誌), 2023
- 25) 安田千夏, 新刊紹介『ツレが「ひと」ではなかった 異類婚姻譚案内』, 口承文芸研究, 第47号, 2024年3月31日, 185

3. 学会発表

<国際学会>

※発表者名, 発表表題, 学会等名, 発表年月日, 発表場所

- 26) Liu Gaoli, Exploring the Advantages and Challenges of Virtual Museums: A Case Study of the National Ainu Museum, 視聴覚および新技術国際委員会 AVICOM2023 総会, 2023年9月22日, イギリス・セント・アンドルーズ
- 27) 刘高力, 博物館与地域创生——日本“民族共生象征空间”之例, 中国博物館人類学第四回大会, 2023年10月28日, 中国・雲南
- 28) Gaoli Liu, National Ainu Museum Virtual Tour, The Best in Heritage IMAGINUS TBIH2023 至高の遺産大会, 2023年7月1日, online, Best in Heritage 委員会から招待
- 29) SASAKI, Kazuyoshi; OKUYAMA, Hideto; OSHINO, Akemi and SATO, Yuka, Developing and implementing the colouring worksheet for learning about Ainu garments (coats) and Ainu patterns by the National Ainu Museum, Regional Symposium of the Southern

- African National Liberation: Movements Heritage: Museums and Cultural Centres as Places of Learning, UNESCO-South Africa, Pretoria, South Africa, 2023 年 12 月 1 日, online, UNESCO-South Africa から招待
- 30) SASAKI, Kazuyoshi, OKUYAMA, Hideto and Rie NAGAISHI, Methods for communicating “how our museum and exhibition were created”: A case study of “Chapter 3” of the exhibition “*uaynu kor kotan a=kar* - Ainu language and history of the National Ainu Museum and Park”, Market of ideas, ICOM CECA (International Councils of Museums International Committee for Education and Cultural Action) Conference, Singapore, 2023 年 11 月 21 日, Asian Civilization Museum, Singapore
 - 31) Tomoko Kotajima, Katsuki Oe, Toshitami Ro, Visualization of environment in the National Ainu Museum storage room using CFD analysis, 2023 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Sapporo, 2023 年 8 月 11–12 日, 北海道大学
 - 32) Katsuki Oe, Tomoko Kotajima, Tomoe Yahata, Yuki Kitajima, Takanori Nakai, Application of X-ray CT and other non-destructive inspection techniques to Ainu ethnic materials., 2023 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Sapporo, 2023 年 8 月 11–12 日, 北海道大学
 - 33) シン・ウォンジ, 17 世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人関連記録『漂舟録』と『李志恒漂海録』の序文の成立時期, The Association of North-east Asian Cultures 2023 Joint International Conference, 2023 年 7 月 29 日, 日本函館大学
 - 34) SHIN, Wonji, A Reconstruction of Lee Ji-Hang’s Route Through Hokkaido from the “Pyojurok” Record, 東アジア日本学会 2023 年秋季国際学術大会, 2023 年 10 月 28 日, 韓国仁川大学校
 - 35) SASAKI, Shiro, Opening Lecture: The Role of Indigenous Peoples in International Relations in Northeast Asia During the Early Modern Period, CEEJA-HIJAS International Symposium “Japan’s Septentrional Regions in Early Modern Times”, 2023 年 12 月 15 日, CEEJA, 招待講演
 - 36) SASAKI, Shiro, Ainu history told through their clothing materials: two cotton garments from Kuril Islands, CEEJA-HIJAS International Symposium “Japan’s Septentrional Regions in Early Modern Times”, 2023 年 12 月 16 日, CEEJA
 - 37) SASAKI, Shiro, Representation of the Ainu culture in National Ainu Museum, The International Symposium “Museums in the Era of Post-Nationalism: Methods of Exhibiting Minority/Indigenous Cultures”, 2024 年 2 月 25 日, 国立民族学博物館
 - 38) Fukazawa, Mika, Tracking basic Ainu vocabulary: Updates and changes of geographical distributions, The Fifth International Conference on Asian Geolinguistics, 2023 年 5 月 4 日, University of Social Sciences and Humanities, VNU
 - 39) Masanori Akada, Identification of bark fibers used in Ainu culture, 2023 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Sapporo, 2023 年 8 月 11–12 日, 北海道大学

<国内学会>

※発表者名，発表表題，学会等名，発表年月日，発表場所

- 40) 是澤櫻子，「20世紀初頭の樺太先住民族のコレクション形成史における石田収蔵資料の位置づけについて」，北海道民族学会，2023年6月11日，北海道科学大学
- 41) 是澤櫻子，「投書資料の可能性－現代ロシアの先住民族の社会運動研究の方法を考える」，人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業 東ユーラシア研究プロジェクト（EES）2023年度若手研究者集会，2024年1月21日，神戸大学
- 42) 奥山英登，持続可能な開発のための伝統的知識と教育－持続可能な開発目標（SDGs）、生物多様性、文化多様性から，日本科学教育学会 第47回年会 愛媛大会，2023年9月20日，愛媛大学
- 43) 奥山英登，永石理恵，矢崎春菜，シン・ウォンジ，持続可能な開発のための生物多様性と文化多様性から動物園、水族館、博物館を見る，第64回日本動物園水族館教育研究会室戸大会，2024年2月18日，室戸市保健福祉センターやすらぎ きらきらひろば
- 44) 笹木一義，奥山英登，シン・ウォンジ，博物館来館者の、来館前後の意識変容・行動変容分析の試行－国立アイヌ民族博物館の来館者アンケートの回答分析試行より，全日本博物館学会第49回研究大会，2023年7月2日，國學院大學
- 45) 笹木一義，ミュージアムの定義のリニューアルの流れと、国立アイヌ民族博物館の理念と活動，日本ミュージアム・マネジメント学会第28回大会シンポジウム「ミュージアムの定義のリニューアルから見る、これからのミュージアムの役割」，2023年6月3日，乃村工藝社本社ビル，招待登壇
- 46) 古田嶋智子，大江克己，赤田昌倫，霜村紀子，アイヌ絵に用いられた彩色材料の調査，文化財保存修復学会 第45回大会，2023年6月24日，国立民族学博物館
- 47) 古田嶋智子，大江克己，呂俊民，国立アイヌ民族博物館収蔵庫 空調設備に関する研究－CFD解析による空調設備の効果に関する検証，2023年度日本建築学会大会（近畿），2023年9月13日，京都大学
- 48) 大江克己，竹内隼人，八幡巴絵，科学分析による金属製アイヌ民族資料「宝刀（イコロ）」の材質及び構造調査，日本文化財科学会 第40回記念大会，2023年10月21日，なら歴史芸術文化村
- 49) 大江克己，竹内隼人，八幡巴絵，中井貴規，X線CTを用いた博物館資料の保管用支持具の設計－アイヌ民族資料「イナウ」を対象として－，文化財保存修復学会 第45回大会，2023年6月24日，国立民族学博物館
- 50) シン・ウォンジ，奥山英登，八幡巴絵，アイヌ民族の伝承を活用した災害教育の実践：北海道白老における津波に関する口承を例に，日本地球惑星科学連合2023年大会，2023年5月24日，幕張メッセ
- 51) シン・ウォンジ，17世紀蝦夷地に漂着した朝鮮人関連記録の成立－松前藩の記録を中心に－，2023年度北海道民族学会第2回研究会，2023年10月7日，名寄市立大学
- 52) 深澤美香，小野洋平，方言境界再考：アイヌ語の方言境界を事例として，日本北方言語学会 第6回大会，2023年11月18日，新潟大学
- 53) 立石信一，1950年代から60年代中頃にかけてアイヌ民族をめぐる同化から共生への転換について，日本大学史学会第3回例会，2023年12月9日，日本大学文理学部

- 54) 宮地鼓・ブンカラ運営委員会・事務局,「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」の取り組み,第61回北海道博物館大会,2023年7月13日-14日,恵庭市民会館
- 55) 宮地鼓・ブンカラ運営委員会,「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称ブンカラ）」の取り組み,令和5年度北海道博物館協会学芸職員部会総会,2023年10月5日-6日,余市町中央公民館
- 56) 宮地鼓,国立アイヌ民族博物館からの報告-「国立アイヌ文化博物館（仮称）への意見・要望など（H27年度）」への対応について-,令和5年度北海道博物館協会学芸職員部会総会,2023年10月5日-6日,余市町中央公民館
- 57) 安田千夏,アイヌ語アーカイブ散文説話にみるクマ神の処罰と救済,日本口承文芸学会第47回大会,2023年6月4日,学習院大学（zoom）
- 58) 小林美紀,AA研所蔵アイヌ語資料の整理に向けて:沙流方言調査を中心に(7),AA研共同利用・共同研究課題「アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究(2)」2023年度第2回研究会,2023年12月9日,東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

4. 生涯学習・学校教育に関わる活動等

<講演会・講義>

※講演・講義者名,題目,主催者,実施年月日

- 59) 長谷仁美,アイヌの物語をよみとくことで見えてくること,令和5年度第23回浦幌町立図書館まつり,2023年10月15日,浦幌町立図書館,講師依頼あり
- 60) 森岡健治,「民族共生象徴空間（ウポポイ）の概要と活用方法について」,令和5年度講座「アイヌの歴史・文化に関する授業実践のために」,2023年8月4日,北海道立北方民族博物館,招待講演
- 61) 是澤櫻子,「衣服から考える、アイヌ文化と毛皮の関係」,「「暖かい」だけじゃない!毛皮と北方民族の多彩な関係」展示関連イベント,2023年5月6日,斜里町立知床博物館,招待講演
- 62) Sakurako Koresawa, National Ainu Museum and the permanent exhibition of the Ainu occupations today,第18回オンライン観光創造フォーラム「グローバル社会におけるサミ民族とアイヌ民族文化ー北方圏、観光、教育、国際協力の視点からー」,2023年6月7日,北海道大学観光学高等研究センター,招待講演
- 63) 田村実咲,「協働」とは何だろうか?ー多文化共生の現場から,北海道教育大学函館校 地域プロジェクト「道南地域におけるアイヌの人たちのための地域支援」,2023年6月16日,北海道教育大学函館校,講師依頼あり
- 64) 谷地田未緒,「博物館と代表性（レプリゼンテーション）:米国視察と国立アイヌ民族博物館の事例から」,北海道文化政策ラボ,2023年7月21日,オンライン,招待講演
- 65) 谷地田未緒,「アイヌ文化について知ることが、なぜ「私たち」にとって大切なのか」,奈良県立大学地域創造学部「ミュージアム論」ゲスト講義,2023年12月19日,奈良県立大学地域創造学部（オンライン）,講師依頼あり
- 66) Mio Yachita, Table Networking: Newly Recognised Indigenous People of Japan, Ainu, and its new National Museum, Mekong Cultural Hub “Meeting Point 2024”, 2024年3

月23日, ベトナム・ハノイ (Space282)

- 67) Mio Yachita and others, Currents of Concern: Field reports from Local Gatherings, Mekong Cultural Hub “Meeting Point 2024”, 2024年3月23日, ベトナム・ハノイ (Space282)
- 68) 北嶋由紀, 「アイヌの衣服（素材、織り）」, 「アイヌの衣服文化（仕立てと装飾）」, 「浦河町のアイヌ文化」, 札幌大谷大学 講義「アイヌ文化論」(3コマ), ①2023年6月29日, ②2023年7月6日, ③2022年7月13日, 3回ともオンデマンド方式（札幌大谷大学の授業用ページに掲載）
- 69) 北嶋由紀, アイヌ文様の刺繍について座学を交えた実技講習 全15回, 札幌大学 講義「アイヌ工芸A1」(15コマ), 4月7日～8月4日の金曜日の内15回, 札幌大学
- 70) 北嶋由紀, アイヌの編みについて座学を交えた実技講習 全15回, 札幌大学 講義「アイヌ工芸A2」(15コマ), 4月7日～8月4日の金曜日の内15回, 札幌大学
- 71) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会, 北海道アイヌ協会 初級1(4回), ①6月8日、②6月15日、③6月22日、④6月29日※いずれも2023年, 北海道アイヌ協会
- 72) 北嶋由紀, アイヌ刺しゅう講習会, 北海道アイヌ協会 初級2(4回), ①9月7日、②9月14日、③9月21日、④9月28日※いずれも2023年, 北海道アイヌ協会
- 73) 笹木一義, 『博物館教育論』, 札幌大学 非常勤講師, 2023年9月-2024年3月, 札幌大学, 講師依頼あり
- 74) 笹木一義, 谷地田未緒, Co-creation between the National Ainu Museum and source communities in developing the educational role of museums focusing on indigenous culture, 慶應大学 EBA プログラム, 『EBA Hokkaido Fieldwork 2023』, 2023年10月17日-18日, 国立アイヌ民族博物館, 講師依頼あり
- 75) 北嶋由紀, 笹木一義, 永石理恵, 長谷仁美, 国立アイヌ民族博物館がやってきた!! , 令和5年度こども霞が関見学デー, 2023年8月2日-3日, 文部科学省東館
- 76) 小林美紀, ウポポイで学ぶアイヌ文化 第5回アイヌ語とアイヌの口承文芸, 放送大学非常勤講師, 2023年6月25日, 放送大学北海道学習センター, 講師依頼あり
- 77) 小林美紀, 物語を通してみるアイヌ語の特徴, 北海道立図書館 アイヌ文化講演会, 2023年7月22日, 北海道立図書館, 講師依頼あり
- 78) 小林美紀, アイヌの口承文芸～アイヌの物語・世界観・言語～ 第2回アイヌ語の文法, 茨城県 県北生涯学習センター 後期講座, 2023年10月28日, 茨城県県北生涯学習センター(オンライン), 講師依頼あり
- 79) 小林美紀, アーカイブの活用と文法研究について, 2023年度 アイヌ語研究会 in 二風谷, 2024年1月21日, イオル文化交流センター
- 80) 小林美紀, アイヌ語, 北洋大学 非常勤講師(15回), ①2024年1月30日 ②2024年1月31日 ③2024年2月6日 ④2024年2月7日, 北洋大学, 講師依頼あり
- 81) 小林美紀, 博物館職員として, DDDLing 若手研究者交流ワークショップ:「ライフイベント, キャリア構築と研究」, 2024年3月26日, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 講師依頼あり
- 82) 森岡健治, 国立アイヌ民族博物館における学校向け動画教材の紹介, 令和5年度アイヌに関する教科書編集セミナー, 2023年12月1日, 内閣官房アイヌ政策室(三田共用会議所), 講師依頼あり
- 83) 長谷仁美, 日本歴史文化論/日本文化概論, 北洋大学 非常勤講師(15回), ①2023年8月

- 7日, ② 2023年8月8日, ③ 2023年8月21日, ④ 2023年8月23日, ⑤ 2023年8月24日, 北洋大学, 講師依頼あり
- 84) 中井貴規, あいさつ言葉について, アイヌ語指導者育成事業フォローアップ講座, 2023年6月23日, 苫小牧市市民会館
- 85) 中井貴規, 疑問詞, アイヌ語指導者育成事業スクーリング, 2023年10月28日, 北農健保会館
- 86) 中井貴規, 人称接辞（主格・目的格）実践編, アイヌ語指導者育成事業スクーリング, 2023年11月24日, 北農健保会館
- 87) 中井貴規, a, an について（不定人称）, アイヌ語指導者育成事業スクーリング, 2023年11月25日, 北農健保会館
- 88) 中井貴規, 「ruwe」「siri」「hawe」「humi」の使い方, アイヌ語指導者育成事業スクーリング, 2023年12月8日, 北農健保会館
- 89) 中井貴規, アイヌ文化における川漁 マレクという漁具～伝承者育成事業の経験より, 2023年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」, 2023年6月1日, オンデマンド方式による講義
- 90) 中井貴規, アイヌ文化におけるオオウバユリ トゥレブとその利用～伝承者育成事業の経験より②, 2023年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」, 2023年6月8日, オンデマンド方式による講義
- 91) 中井貴規, 国立アイヌ民族博物館の役割と展示, 2023年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」, 2023年6月14日, オンデマンド方式による講義
- 92) 中井貴規, 旭川地方のアイヌ語と文学, 2023年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」, 2023年6月21日, オンデマンド方式による講義
- 93) 中井貴規, アイヌの世界観 ～カムイとは何か, 茨城県県北生涯学習センター令和5年度自主事業後期講座「アイヌの口承文芸～アイヌの物語・世界観・言語～」, 2023年11月18日, Zoomによる講義
- 94) 中井貴規, アイヌ民族である学生・教職員が安心して教育研究に専念できる環境の整備, 北海道大学アイヌ施策検討委員会委員との対話, 2023年10月29日, Zoomによる対話
- 95) 中井貴規, アイヌ民族との共生に向けた研修, 北海道大学教職員向け研修動画（鼎談）, 2024年1月12日, 北海道大学総合博物館大会議室
- 96) ナアカイ（中井貴規）, 私がうけたマイクロアグレッションと今後への提案, 「ウアイヌコロコタン（ウポボイ）アカラワレパオカケタ ～ネコン アンクニ プ「共生」ネヤ（ウポボイ3周年を迎えて ～共生の道をいかに歩むのか～）」, 2023年8月29日, 民族共生象徴空間ウポボイ体験学習館別館3
- 97) 北嶋イサイカ, アイヌ民族に対するマイクロアグレッションについて, 「ウアイヌコロコタン（ウポボイ）アカラワレパオカケタ ～ネコン アンクニ プ「共生」ネヤ（ウポボイ3周年を迎えて ～共生の道をいかに歩むのか～）」, 2023年8月29日, 民族共生象徴空間ウポボイ体験学習館別館3
- 98) 加藤博文, 佐々木史郎, 対談 世間のアイヌ・イメージを気持ちよく裏切る, 「ウアイヌコロコタン（ウポボイ）アカラワレパオカケタ ～ネコン アンクニ プ「共生」ネヤ（ウポボイ3周年を迎えて ～共生の道をいかに歩むのか～）」, 2023年8月29日, 民族共生象徴空間ウポボイ体験学習館別館3
- 99) 大江克己, 国立アイヌ民族博物館における民族資料の虫菌害対策, 第45回文化財の虫菌

- 害・保存対策研修会，2023年6月12日，国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 小ホール，依頼あり
- 100) 大江克己，アイヌ民族資料と保存科学 - 科学分析と保管環境 -，令和5年度（2023年度）アイヌ文化財専門職員等研修会，2024年2月2日，北海道庁別館，依頼あり
- 101) 大江克己，X線CTによるアイヌ民族資料の調査，2023 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Sapporo, Application of CT Imaging Technology for Cultural Heritage WG，2023年8月11-12日，北海道大学
- 102) 大江克己，国立アイヌ民族博物館が導入した空調設備の特徴と運用方法，文化財保存修復学会第45回大会特別行事 公開シンポジウム 博物館・美術館における保存環境管理の現在－脱炭素化に向けた資料保存を考える－，2023年6月23日，国立民族学博物館，依頼あり
- 103) 佐々木史郎，国立アイヌ民族博物館でこれからやるべきこと，国際ロータリー第2510地区第12地区インターシティミーティング，2023年5月14日，国立アイヌ民族博物館交流室，招待講演
- 104) 佐々木史郎，国立アイヌ民族博物館でこれまでやってきたこと、これからやるべきこと，道新苫小牧政経文化懇話会5月例会，2023年5月31日，グランドホテルニュー王子，招待講演
- 105) 佐々木史郎，アイヌ文化の復興のために国立アイヌ民族博物館がこれからやるべきこと，中央大学総合政策学部「民族と文化」講演，2023年6月20日，中央大学総合政策学部，招待講演
- 106) 佐々木史郎，アイヌの歴史と文化の正しい理解を促進するために－国立アイヌ民族博物館の役割－，第49回日本臨床整形外科学会研修会，2023年10月8日，札幌グランドホテル，招待講演
- 107) 佐々木史郎，数度にわたるシベリアでのシカ猟経験から，NPO法人エゾシカネット「みんなのお茶の間講座」，2023年11月16日，札幌市北区民センター，招待講演
- 108) 佐々木史郎，博物館におけるアイヌ民族の自文化表象－国立アイヌ民族博物館の展示から，東アジア「間文化」第18回研究会，2024年3月18日，京都大学文学部，招待講演
- 109) 佐々木史郎，アイヌの建築思想－“チセ”の不思議，ブンカラ協働展示トークイベント，2024年3月23日，国立近現代建築資料館
- 110) 田村将人，アイヌ民族の歴史と文化をどう説明するか，図書館員のためのアイヌ文化教室，2023年11月20日，第5回北海道図書館研究会，招待講演
- 111) 田村将人，国立アイヌ民族博物館とその試み，釧路公立大学 科目「日本史」特別講演会，2023年7月24日，釧路公立大学（オンライン），招待講演
- 112) 田村将人，先住民文化とサイエンス－いま、北海道の科学技術がアイヌから学ぶこと，JST COI-NEXT「アシル・トイタによる心と体に響く新しい食の価値 共創拠点」第2回ワークショップ，2024年3月4日，室蘭工業大学，招待講演
- 113) 霜村紀子，函館のアイヌ絵－日本画家・平福穂庵を中心に，令和5年度函館市北方民族資料館講座 ミュージアム・トーク，2024年2月4日，函館市北方民族資料館，依頼あり
- 114) 矢崎春菜，アイヌの文化と口承文芸，茨城県県北生涯学習センター令和5年度自主事業後期講座「アイヌの口承文芸～アイヌの物語・世界観・言語～」，2023年10月21日，茨城県県北生涯学習センター Zoomによる講義，講師依頼あり
- 115) 矢崎春菜，アイヌの物語 神謡・英雄叙事詩・散文説話，茨城県県北生涯学習センター令和

- 5年度自主事業後期講座「アイヌの口承文芸～アイヌの物語・世界観・言語～」, 2023年11月25日, 茨城県県北生涯学習センター Zoomによる講義, 講師依頼あり
- 116) 矢崎春菜, アイヌ語の発音と中心とした講話, 図書館員のためのアイヌ文化教室, 2023年11月20日, 第5回北海道図書館研究会, 招待講演
- 117) 矢崎春菜, 国立アイヌ民族博物館のアイヌ語に関する取り組み, GSI シンポジウム「先住民族と博物館」, 2023年12月3日, 北海道大学学術交流会館 講堂, 講師依頼あり
- 118) 深澤美香, アイヌ語の記録, 茨城県県北生涯学習センター令和5年度自主事業後期講座「アイヌの口承文芸～アイヌの物語・世界観・言語～」, 2023年11月11日, Zoomによる講義, 講師依頼あり
- 119) マーク・ウィンチェスター, 『アイヌ通史』からアイヌ近現代思想史へ, 名古屋外国語大学世界共生学科・WLAC 共催講演会, 2023年12月20日, 名古屋外国語大学, 講師依頼あり
- 120) マーク・ウィンチェスター, 評者コメント, ウェンディ・マツムラ著『生きた労働への闘い～沖縄共同体の限界を問う』書評会 同志社大学〈奄美・沖縄・琉球〉研究センター, 2023年9月30日, 同志社大学, 講師依頼あり
- 121) 安田千夏, アイヌ語アーカイブを利用した自然案内（6回）, 伝承者育成事業講師, ①2023年4月26日, ②2023年6月22日, ③2023年8月2日, ④2023年10月25日, ⑤2023年12月6日, ⑥2023年3月27日, ①イオル文化交流センター, ②イオル文化交流センター, ③白老町ヨコスト湿原他, ④ウトナイ湖野生鳥獣保護センター他, ⑤千歳市サケのふるさと千歳水族館他, ⑥イオル文化交流センター, 講師依頼あり

5. 寄稿・解説 ※一般誌, 新聞

※著者名（館スタッフにはアンダーライン）, 論文標題, 雑誌新聞名, 巻（号）, 発行年月日, 最初と最後の頁

- 122) 是澤櫻子, 「調査研究最前線⑦ 石田収蔵の野帳等資料を中心とした20世紀初頭の樺太先住民の民族誌に関する文献研究」, 『ANU ANU』, 14, 2023, 7
- 123) 長谷仁美, 〈ウポポイ オルシペ〉62 阿寒湖アイヌコタン 共に歩んだ前田光子氏, 北海道新聞, 2023年4月5日
- 124) 中井貴規, 〈ウポポイ オルシペ〉63 阿寒湖アイヌコタン ことばの意味 その思い, 北海道新聞, 2023年5月10日
- 125) 矢崎春菜, 〈ウポポイ オルシペ〉64 阿寒湖アイヌコタン 物語を舞台に, 北海道新聞, 2023年5月12日
- 126) 田村将人, 〈ウポポイ オルシペ〉68 歌人3人の特別展示 差別 見つめなおす機会に, 北海道新聞, 2023年7月1日
- 127) 立石信一, 〈ウポポイ オルシペ〉69 バチラー八重子が残したもの 同胞のため祈り 詠む, 北海道新聞, 2023年7月20日
- 128) 森岡健治, 竹内隼人, 〈ウポポイ オルシペ〉70 遼星北斗が伝えたかったこと 同化ではなく同等, 北海道新聞, 2023年7月28日
- 129) マーク・ウィンチェスター, 是澤櫻子, 八幡巴絵, 「〈ウポポイ オルシペ〉71 森竹竹市の思い 直筆の詩 読み取れる変化」, 北海道新聞, 2023年8月11日

- 130) 劉高力, 〈ウポポイ オルシペ〉72 バーチャル博物館 新技術に国際的な評価, 北海道新聞, 2023年8月23日
- 131) 田村将人 (山道陽輪), 〈ウポポイ オルシペ〉73 アイヌ文化とサケ 貴重な食料 靴や服にも, 北海道新聞, 2023年9月9日
- 132) 鈴木建治, 〈ウポポイ オルシペ〉74 博物館でアイヌ史を考える 歴史観提案する特別展, 北海道新聞, 2023年9月24日
- 133) 永野正宏, 〈ウポポイ オルシペ〉75 川漁の権利を巡る争い 松前藩が返還して落着, 北海道新聞, 2023年10月12日
- 134) 森岡健治, 〈ウポポイ オルシペ〉76 チャシ跡の調査 年代、地域で異なる用途, 北海道新聞, 2023年10月20日
- 135) 大江克己, 〈ウポポイ オルシペ〉77 宝壇に飾る豊かさの象徴 イコロ（宝刀）の系譜, 北海道新聞, 2023年11月15日
- 136) 藪中剛司, 〈ウポポイ オルシペ〉78 絵図から見たアイヌ史 誇張や偏見多い描写も, 北海道新聞, 2023年11月18日
- 137) 市川暢子, 〈ウポポイ オルシペ〉80 博物館の教員向け研修 アイヌ民族の視点で講話, 北海道新聞, 2023年12月14日
- 138) 内田祐一, 〈ウポポイ オルシペ〉81 音声、映像アート体感 ウポポイナイトミュージアム, 北海道新聞, 2024年1月24日
- 139) 安田千夏, 〈ウポポイ オルシペ〉83 亡き語り手の声伝える アイヌ語、文化を後世へ, 北海道新聞, 2024年2月22日
- 140) 矢崎春菜, 〈ウポポイ オルシペ〉84 おばけのマールとすてきなことば アイヌ語や文化絵本で紹介, 北海道新聞, 2024年3月9日
- 141) 田村実咲, 「基本展示室のこの展示を見て!」, 『ANUANU』, 15, 2023, 4
- 142) 市川暢子, 令和5年度 教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館, 『ANUANU』, 14, 2023, 6
- 143) 劉高力, [アイヌの文化と歴史を知る] 民族共生象徴空間「ウポポイ」, 季刊『農業と経済』, 89巻4号, 2023
- 144) 劉高力, 文化多様性の尊重と活用による社会イノベーション——白老町の多文化共生、多様性尊重・活用の事例に学ぶ, 季刊『農業と経済』, 89巻4号, 2023
- 145) Liu Gaoli, A Modern Museum Dedicated to Indigenous Soul, The Best in Heritage, Projects of Influence, online edition, 2023
- 146) 北嶋由紀, 札幌大学での学びと国立アイヌ民族博物館の学芸員業務, Museological Atlas 札幌大学 [学芸員課程年報], No. 21, 2023, 3-7
- 147) 笹木一義, 博物館の教育活動: 着物のぬりえワークシート, 『ANUANU』, 12, 2023
- 148) 小林美紀, ルウォプ エゾシマリス (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023年6月8日
- 149) 小林美紀, サキベ マス (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023年9月28日
- 150) 小林美紀, ピパ 穂摘具 (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023年11月23日
- 151) 小林美紀, イヌイエ 彫刻 (する) (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」),

- 毎日小学生新聞, 2024 年 3 月 28 日
- 152) 古田嶋智子, 研究室紹介 国立アイヌ民族博物館 研究学芸部 資料情報室, 室内環境, 26 巻 2 号, 2023
- 153) 中井貴規, マキリ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 7 月 13 日
- 154) 中井貴規, マレク (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 10 月 26 日
- 155) 中井貴規, クアレ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2024 年 1 月 25 日
- 156) 大江克己, 特別講話 作品保存と科学的調査について, 北海道美術館学芸員研究協議会会報「NORTHERN OWLS」, 第 32 号, 2024 年 2 月, 2-8
- 157) 大江克己, 国立アイヌ民族博物館の空調運用等による温湿度制御について, 月刊文化財, 12 号, 2023 年 12 月, 25-26
- 158) 佐々木史郎, 3 周年を迎えるウポポイ アイヌ文化の復興、継承, 公明新聞, 2023 年 6 月 9 日
- 159) 田村将人, アイヌ民族の歴史と文化をどう説明するか, むすびめ 2000: 図書館と日本在住外国人をむすぶ人・ことば・生活・本・情報の通信, 125, 2024, 12-14
- 160) 竹内隼人, 博物館 Pickup: ヌサ (祭壇), 『ANUANU』, 12, 2023, 5
- 161) 深澤美香, スブリ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 5 月 25 日
- 162) 深澤美香, ペッ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 9 月 14 日
- 163) 深澤美香, プ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 12 月 28 日
- 164) 深澤美香, イセボ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2024 年 2 月 8 日
- 165) 霜村紀子, 「調査研究最前線⑦ アイヌ文化を画題とした絵画史料についてー揺籃と終焉ー」, 『ANUANU』, 14 号, 2023, 7
- 166) 立石信一, 「感覚をひらくー新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 研究会『ひらくラボ』に参加して」, 京都国立近代美術館 教育普及室 松山沙樹企画・編集「研究会 ひらくラボ実施報告書」, 2023, 78
- 167) 奥山英登, 探究展示でたのしもう! いってみよう! 基本展示と探究展示のつながり, 『ANUANU』, 15, 2023, 6
- 168) 矢崎春菜, キナ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 4 月 13 日
- 169) 矢崎春菜, アトゥイ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 7 月 27 日
- 170) 矢崎春菜, チライ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2023 年 10 月 12 日
- 171) 矢崎春菜, イカラカラ (「アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語知ってる」), 毎日小学生新聞, 2024 年 3 月 14 日

- 172) 宮地鼓, 「視覚障害者の鑑賞支援・体験型プログラムの開発と実践」, 『ANUANU』, 12, 2023, 7

6. 図書

※著者名, 論文名, 編者名, 書名, 出版社, 発行年, 総ページ数

- 173) 劉高力 (編訳・写真提供), 「译者的話」「鈴木解詩及译文」, 「西苏门答腊纪行」, 鈴木正夫 (著), 『苏门答腊的郁達夫』, 上海交通大学出版社, 2023, 331 (原著: 鈴木正夫, 『スマトラの郁達夫 太平洋戦争と中国作家』, 東方書店, 1995)
- 174) 押野朱美, 谷地田末緒 (編), 『創る、伝える、つながる 私たちの芸能 (国立アイヌ民族博物館研究プロジェクト「芸能の持続的な継承と発展に関する研究」活動報告書)』, 国立アイヌ民族博物館, 2024, 48
- 175) 市川暢子, 「カケスの鳴く様子が不思議に思う」白老 楽しく・やさしいアイヌ語教室 (編) 『金成マツ筆録〔豊年ヤイコレカ ニサシテク フツチャンル〕口述ウエペケレ5話の研究』 ※アイヌ政策推進交付金を活用して制作, クルーズ, 2024, 40
- 176) 国立アイヌ民族博物館 (立石信一, 佐々木史郎, 田村将人) 編, 『ウアイヌコロ コタン アカラ ウポポイのことばと歴史』, 国書刊行会, 2023, 216
- 177) 田村将人, 森岡健治, 関口由彦, 立石信一, 小林美紀, 八幡巴絵, 竹内隼人, 是澤櫻子, マーク・ウィンチェスター, 永石理恵, 内田祐一 (編), 『アウトリオピッタ: アイヌ文学の近代: パチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市: 国立アイヌ民族博物館第6回特別展示』, 国立アイヌ民族博物館, 2023, 22
- 178) Chitsuko Fukushima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki, Mitsuaki Endo (eds.), *Linguistic Atlas of Asia and Africa (vol. 3)*, Geolinguistic Society of Japan, 2023, 323
- 179) 立石信一 (分担執筆), 国松希根太 (著), 『地景を刻む』, Iceberg, 2023
- 180) 立石信一 (分担執筆), 広瀬浩二郎 (著), 『ユニバーサル・ミュージアムへのいざない 思考と実践のフィールドから』, 三元社, 2023, 184
- 181) 藪中剛司, 「三沢市教育委員会所蔵の蛸唐草文様の漆椀について」, 『漆器からみるアイヌの社会と文化』, 北海道出版企画センター, 2024, 13
- 182) 赤田昌倫, 「アイヌ文化に用いられる樹皮繊維の研究」, 『2023 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 札幌 II』, 東アジア文化遺産保存学会, 2023, 562
- 183) 安田千夏, 「アイヌ語アーカイブ (川上まつ子資料 176 件、111 時間)」, 国立アイヌ民族博物館, 2023, WEB 公開
- 184) 藪中剛司, 鈴木建治, 森岡健治, 八幡巴絵, 古田嶋智子, 大江克己, シン・ウォンジ, 両角佑子, 永野正宏, 『考古学と歴史学からみるアイヌ史展: 19世紀までの軌跡: 国立アイヌ民族博物館第7回特別展示 = Ainu history from the perspective of archaeology and historical studies: the path to the 19th century: National Ainu Museum 7th special exhibition』, 国立アイヌ民族博物館, 2023, 22

2) 外部資金の獲得状況

当館は 2023 年度現在まだ科学研究費助成事業 (科研費) への応募資格を有していないが、研究員・学

芸員が所属（兼務）する他の機関から申請することで、科研のプロジェクトに研究代表者、研究分担者になったり、あるいは研究協力者として参画したりすることはできる。

2023年度の科研費を含む外部資金獲得状況は以下の通りである。

- 185) 古田嶋智子，日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究，2019-2024，木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案，研究代表者
- 186) 古田嶋智子，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，2022-2025，博物館で用いるためのサンプリングバッグによる放散試験方法の開発，研究代表者
- 187) 谷地田未緒，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，2022-2025，アイヌ民族の〈舞踊〉に関する文化政策の研究：民俗文化財から民族文化遺産へ，研究代表者
- 188) 佐々木史郎，科学研究費助成事業 基盤研究 (A)，2021-2024，先住性と集団帰属意識の歴史的形成過程の検討，研究分担者
- 189) 田村将人，科学研究費助成事業 基盤研究 (B)，2020-2023，サハリンアイヌの交易と文化変容、その学際的研究，研究分担者
- 190) 大江克己，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)，2023-2027，文化遺産アセットの効率的利活用を目指したミュージアム DX 技術の開発，研究協力者
- 191) 是澤櫻子，北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) 社会文化課題 サブ課題3「食とアイデンティティをめぐる先住民社会」，R3～R7，温暖化する北極域から見るエネルギー資源と食に関わる人間の安全保障，研究協力者
- 192) 笹木一義，国立研究開発法人 科学技術振興機構 JST-RISTEX [SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム：シナリオ創出フェーズ]，2022-2024 年度，市民の SDGs 取組に向けた行動変容のためのミュージアム活用シナリオの創出，研究協力者
- 193) 笹木一義，日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，2021-2023 年度，アイヌ文化の何をどう学ぶか—多文化共生のための博物館活用文化学習のデザインと評価，研究協力者
- 194) 立石信一，科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽)，2020-2023，国公立博物館における先住民族の権利実現の可能性と課題—アイヌとマオリの比較研究，研究協力者
- 195) 森岡健治，北海道大学，2023，北海道大学アイヌ・先住民研究センター研究協力，客員研究員
- 196) 小林美紀，東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題，2021-2023 年度，アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究 (2)，共同研究員
- 197) 深澤美香，東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題，2021-2023 年度，アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究 (2)，共同研究員
- 198) Mio Yachita and Yuka Haneji，Mekong Cultural Hub Grant for Local Gatherings，2023，Ikuko Maeda: Shiraori From the Perspective of Soil and Sea: Ceramic workshop and table talk，協働申請者

3) 表彰・受賞

2023 年度に当館の研究員・学芸員が学会等から授与された表彰は以下の通りである。

- 199) 奥山英登，令和5年度 年会発表賞，日本の科学教育における Indigenous knowledge とアイヌ文化，第46回年会論文集，2022，一般社団法人日本科学教育学会，2023年9月19日

- 200) 谷地田未緒, The International Visitor Leadership Program (IVLP), 米国国務省が主催するインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム (IVLP) のフェローシップへの推薦と採択。日本からは 2 名。トピックは「周縁化されたコミュニティのための人権・市民権アドボカシー」, 米国 国務省, 2023 年 6 月 10 日 -7 月 2 日

IV -04-05 レファレンス

- ・利用者からの問合せ（以下、レファレンス）展示室約 150 件分、ライブラリ 32 件分を対応した（2023 年 4 月から 2024 年 3 月）。
- ・当館の使命であるアイヌ民族の歴史と文化の正しい知識の提供と理解の促進を目指し、現在ウェブサイトにて公開している「よくある質問」の更新について検討した。

IV -04-06 外部資金獲得のための体制整備

当財団における公的研究費の管理・監査および研究活動における不正行為への対応等に関する規程・要領について周知し、日本学術振興会による研究倫理 e ラーニングコースを受講した。また、査読付きの学術論文執筆および学会誌等への投稿等を促進するための支援制度を整備した。

IV -04-07 国内外の博物館等が所蔵するアイヌ資料の調査の実施

2023 年度は石巻市博物館所蔵のアイヌ資料 195 点について調査を行い、調書の作成と写真撮影を行った。

IV -04-08 刊行物

1) ニュースレター「アヌアヌ」

2023 年度は 12 号から 15 号まで刊行した。部数は各 10,000 部で、関係各所に送付した。



12 号から 15 号までの表紙

IV -04-09 国際交流

国際オフィスの活動

国際オフィスは博物館開館とともに専門グループとして設立された。国際オフィスは、博物館、国立民族共生公園、札幌の財団本部の3部署の担当者からなる「国際タスクフォース」（2020年立上げ）のメンバーとして、互いに情報共有をしながら国際交流案件を担当した。そのため以下には、国際タスクフォース分として、国立民族共生公園等の実績や、博物館が関わる財団全体の動きが含まれている。

1) 国際対応の環境整備等

- ・組織改編に従い、組織・部署名、肩書等の正式な英語名称をアップデートした。
- ・海外要人の対応や協定に向けての取り組みを、2020年に策定された基本方針に従い国際タスクフォースと連携して行った。

2) 協定の締結

- ・2023年12月13日、民族共生象徴空間ウポポイ（当館を含む）の運営を担う「公益財団法人アイヌ民族文化財団」と台湾の「原住民族委員会原住民族文化発展中心」との間で、「先住民族の文化の振興及び普及」のための連携協力協定を締結した。これは白老町で長年アイヌ民族と台湾原住民との国際交流を行ってきた旧アイヌ民族博物館（ポロトコタン）が結んでいた協定をもとに、新たに締結しなおしたものである。
- ・この協定をもとに、2024年3月16日から17日にかけて、「台湾原住民族文化園区特別公演 in ウポポイ」を開催し、「ナルワン音楽舞踊団」による特別公演や工芸体験などが実施された。

3) 海外要人受け入れ（大使等）

以下8件の海外要人を受け入れた。

2023年4月14日 カナダ 環境・気候変動省 スティーブン・ギルボー (Steven Guilbeault) 大臣

米国 環境保護庁 ジャネット・マッケイブ (Janet McCabe) 副長官

2023年4月17日 G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合参加者

2023年5月25日 カナダ ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島北部クワクワカワク (Kwakwaka'wakw) チーフ・ウェドリディ・スペック (Chief Wedlidi Speck) 世襲首長

2023年6月30日 駐日欧州連合 (EU) 代表部 ジャン＝エリック・パケ (Jean-Eric Paquet) 大使

2023年11月15日 カナダ スタン・クッチャー上院議員 (Senator Stan Kutcher)、テリー・シーアン下院議員 (Terry Sheehan, MP) (両者とも：カナダ日本国会議員連盟共同議長)

2023年12月14日 カナダ ブリティッシュ・コロンビア州政府 Ulkatcho ファースト・ネーション チーフ・リンダ・プライス (Chief Lynda Price) 首長

2024年1月31日 英国 駐日英国大使館 ウェールズ政府 リチャード小泉 (Richard Koizumi) 日本代表

4) 国際交流・国際支援

(a) 先住民族の国際交流

2023年5月18日 カナダ ビショップス大学先住民学生交流

ケベック州にある同大学で、社会学、法学、美術、教育学、医学、先住民学などを学ぶ先住民の学生たちが大学の国際交流プログラムとして来日。ウポボイでは、展示やプログラムへ参加したほか、博物館では先住民の資料保存に関するレクチャーを実施し、伝統的コタンで行われた交流会ではウポボや輪踊りを一緒に体験した。Annick Corbeil 国際・先住民・文化共生担当マネージャー、先住民学生サポートセンター（ISSC）の Vicky Boldo アソシエイト・ディレクター、Shawna Chatterton Jerome サービスコーディネーター、及び学生たち7名が来訪した。



伝統的コタンでの交流会



博物館レクチャー後の集合写真

2023年5月30日 米国 先住民族ナバホの踊り手による芸能の交流

米国から、先住民族ナバホの若手文化継承者であるエリン・タパヘ（Erin Tapahe）氏とディオーン・タパヘ（Dion Tapahe）氏のふたりがウポボイを訪れ、疫病からの癒しを発端とする踊り「ジングルドレス・ダンス」の上演と芸能による交流を行った。このプロジェクトはナバホの写真家ユージー・タパヘ氏が2020年に開始したもので、ジングルドレスの癒しの力を伝えるために旅をしながら各地を訪れ、写真作品や映像として発表しているもの。両氏が「ジングルドレス・ダンス」を捧げたあと、手をつないで大勢で踊る「フレンドシップ・ダンス」にはウポボイの舞踊チームやたくさんの来場者も参加して、大きな踊りの輪ができた。



フレンドシップ・ダンス



舞踊チームとの合同公演後の集合写真

2023年9月7日 オーストラリア アボリジナルのルーツを持つ振付家・舞踊家のワークショップ

フツクレイ・コミュニティ・アーツ（オーストラリア）とセゾン文化財団（日本）の事業で来日中であった、アボリジナルのルーツを持つ先住民アーティスト（振付家・舞踊家）のナヨカ・ブンダ・ヒース（Ngioka Bunda-Heath）氏を招き、ナヨカさんをアテンドするマユンキキ氏と田村かのこ氏とともにお話とワークショップを実施。博物館や舞踊チーム、伝統的コタンなど多くの部署から参加があった。



ワークショップを進行する3名



動物の動きをまねして踊るワークショップの様子

2023年9月13日 カナダ 先住民観光シンポジウムゲストの来訪

北海道大学観光学高等研究センター、アイヌ民族文化財団、国立民族学博物館、カナダ観光局の4者の共催で開催された国際シンポジウム「先住民観光の挑戦」のために来日したパネリストグループが、シンポジウムに来訪し、ご案内と交流会を実施。来訪したのはキース・ヘンリー（Keith Henry）、ジム・ハート（Jim Hart）、クリスチャン・ホワイト（Christian White）、エイプリル・ホワイト（April White）、ジスガング・ニカ・コリソン（Jisgang Nika Collison）、アンディ・エバーソン（Andy Everson）、エリン・ブリロン（Erin Brillon）他。



交流会の様子



丸木舟の製作にゲストも挑戦

2023年11月19日 カナダ 対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」

若手リーダー招へい

日本政府が推進する人的交流事業「カケハシ・プロジェクト」で来日したカナダのファースト・ネーション、ユダヤ系及びアジア系ルーツを持つ若手リーダー10名が来訪。展示室やプログラムの案内とともに、歳に近い若手職員との意見交換の場が設けられた。



意見交換に先立って、伝統舞踊でお迎え



夕暮れのなか博物館に向かう一行

2023年11月28日 オーストラリア 先住民研究者・博物館専門家の来訪

北海道大学先住民・文化的多様性研究グローバルステーション（GSI）が主催する国際シンポジウムのために、ゲストとして来日した方々をご案内した。来訪したゲストは、鶴沢加那子博士（北大・オスロ大学）、Prof. Neil PRICE（北大・ウブサラ大学）、Dr. Carl-Gosta OJALA（北大・ウブサラ大学）、Dr. Michael PICKERING（北大・オーストラリア国立大学）、Dr. Jilda ANDREWS（北大・オーストラリア国立大学）、Dr. Vanessa RUSS（メルボルン大学）、Ms. Mayatili MARIKA（メルボルン大学）、Mr. Kade MCDONALD（CEO, Agency）、Dr. Kristen SMITH（メルボルン大学）、Mr. Levi MURRAY（メルボルン大学）他。



展示室を見学する様子



伝統的コタンで行われた歓迎交流会の様子

2024年2月20日 サーミの伝承に関する映画上映とトーク

ノルウェーから、サーミの伝承活動を行う Tom Kappfjell 氏と、脚本を担当した Tove Brustad 氏が来日。ドキュメンタリー映画「ビッセガ：サーメの聖なる山々」のテスト上映とアフタートークを、閉館中の職員研修として実施した。



上演後のトークの様子

2024年2月26日～28日 カナダ 国際先住民観光会議（IITC）2024 への参加

オンタリオ州オタワ市で開催された「国際先住民観光会議」に、民族共生象徴空間ウポボイの村木美幸運営本部長と体験教育課・アイヌ語担当の荒田このみ主任が招待を受けて参加。村木本部長は、全体セッションへ登壇し、メキシコや中国からの登壇者と共に、約1,000人の会議参加者へ向けてウポボイを紹介し、荒田主任は分科会でアイヌ語の継承について話した。日本から招待を受けてパネリストとして参加するのは今回が初めて。



全体セッションに登壇した村木本部長



分科会に登壇した荒田主任

(b) 海外の博物館・大学・研究機関との国際交流

上記のほか、博物館・大学との国際交流として、リトアニア国立博物館のルータ・カチクテ（Rūta Kačkutė）館長が来館したほか、オランダ国立世界文化博物館、米国ミシガン大学美術館、国立台湾史前文化博物館、米国（ハワイ）ビショップ博物館、ポーランド ヴロツワフ美術大学・ポーランド芸術大学、ネパール トリブヴァン大学、慶應義塾大学、チュラロンコン大学、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道埋蔵文化財センター等の国際グループを受け入れた。

(c) 上記以外の国際交流事業

上記のほか、ASEAN 次官級交通政策会合視察（7月20日）、ATWS2023（アドベンチャートラベルワールドサミット）参加者視察（9月6日、9月11日）、台湾高雄市視察（10月12日）、米国 国務省日本部政治・経済担当官（10月17日）、エストニア混声合唱団 Vox Populi 公演（10月25日）、JICA プログラム「地域開発計画管理」グループ視察（11月20日）などを国際タスクフォースとして受け入れた。

IV -05 資料の収集、保管、活用

IV -05-01 アイヌ文化関係資料等の受入及び貸出

1) アイヌ文化関係資料等の受入

a) 資料の買取

資料買取の結果は、申出者8名、資料166件184点。概要や関係会議等は下記のとおり。

資料は民具全般と古文書。これからの基本展示や調査等に向けて、イクパスイ、マキリ、イタ、衣服（木綿）、衣服（樹皮）などを中心に購入した。

<関係会議等>

2023（令和5）年度第1回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2023年6月1日
2023（令和5）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2023年7月4日
2023（令和5）年度第1回国立アイヌ民族博物館買取評価	2023年8月17日
2023（令和5）年度第2回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2023年11月9日
2023（令和5）年度第3回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2023年12月7日
2023（令和5）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取協議会	2023年12月15日
2023（令和5）年度第2回国立アイヌ民族博物館買取評価	2024年1月29日

b) 資料の寄贈

寄贈の結果は、申出者4名、資料16件48点。概要や関係会議等は下記のとおり。

資料は民具全般と美術品。これからの基本展示や調査等に向けて、衣服、タペストリー、木杯などを中心に受入した。

<関係会議等>

2023（令和5）年度第1回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2023年6月1日
2023（令和5）年度第3回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2023年12月7日
2023（令和5）年度第4回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2024年1月11日
2023（令和5）年度第1回国立アイヌ民族博物館寄贈評価	2024年1月29日

c) 資料の寄託

寄託の結果は、申出者2名、資料101件110点。概要や関係会議等は下記のとおり。

<関係会議等>

2023（令和5）年度第1回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2023年6月1日
2023（令和5）年度第4回国立アイヌ民族博物館鑑査会議	2024年1月11日

2) 資料の貸出

- ・4件72点 貸出先は以下の通り
 - 1 一宮市三岸節子記念美術館 特別展 アイヌ工芸品展「AINU ARTーモレウのうた」
 - 2 北海道立近代美術館 特別展 アイヌ工芸品展「AINU ARTーモレウのうた」
 - 3 九州国立博物館 九州国立博物館文化交流展「海の道、アジアの路」（平常展）
 - 4 株式会社東京光音 調査研究プロジェクト2021A03によるデジタルデータ化のため

3) 関係要領、収蔵品の定義、収集方針、買取基準等の制定

- ・2021年に定めた「国立アイヌ民族博物館鑑査会議、買取協議会、買取評価員、寄贈評価員の運営等に関する要領」「国立アイヌ民族博物館文化財貸借要領」のもと、各委員会の運営および資料貸与を行った。

4) 資料受入の大まかな流れ

- ・買取：希望申出⇒鑑査会議⇒買取協議会⇒買取評価⇒合意の上、契約へ
- ・寄贈：希望申出⇒鑑査会議⇒寄贈評価⇒合意の上、契約へ
- ・寄託：希望申出⇒鑑査会議⇒合意の上、契約へ

5) 関係会議の概要

- ・鑑査会議：8名で審議。収集方針の策定、文化財の買取、寄託者からの受託、寄贈者からの贈与、列品への編入又は解除、列品の修理、その他博物館において規定する事項を審議する。
- ・買取協議会：5人以上で審議。鑑査会議をうけて、資料等の買収の適否について、外部有識者の公正な意見を求めるために開催。
- ・買取評価：7人以上で行う。買取協議会をうけて、買取予定価格算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。
- ・寄贈評価：5人以上で行う。寄贈資料の評価額算定のため、外部有識者の意見に基づいて客観的に行う。



2023年度買取資料：衣服（木綿）

IV -05-02 博物館における列品等の整理及び整備

1) 2023（令和 5）年度資料クリーニング点数

・作業期間／2023 年 4 月～2024 年 3 月 実施数／5,476 点

2) 資料確認及び移送資料の再梱包

2021（令和 3）年度に、旧社台小学校から当館収蔵庫への移送が完了したため、資料確認及び収蔵庫にて保管するための再梱包作業を行った。

IV -05-03 収蔵品管理システムへのデータ登録、外部公開、保守管理

当館では、アイヌの歴史・文化等に関する調査と研究を行うため、展示や研究対象となる資料を収集している。当館収蔵品について、目的・用途に応じて体系的に分類・整理のうえ、データベースとして一元的に管理し、適切な保存に努める。あわせて、収蔵品情報を一般の利用に供する。一元管理用の管理システムと一般の利用に供する公開システムがある。

- ・収蔵品管理システム：データベースのうち、当館収蔵品及び利用等に関する履歴、教育活動の記録等の情報をデータベース化して一元管理するシステム。
- ・収蔵品公開システム：データベースのうち、収蔵品管理システムで管理する収蔵品等の主な情報を抽出して公開し、一般の利用に供するシステム。

1) 収蔵品管理システム登録状況

旧（一財）アイヌ民族博物館の資料と 2015（平成 27）年度から 2023（令和 5）年度一回目までの文化庁購入資料について登録作業を行った。2024 年 3 月 31 日時点での総登録件数は以下のとおり。

〈資料に関わる登録・修正〉

- ・資料登録件数 12,243 件
- ・資料修正件数 8,493 件（管理資料名、管理資料名カナ、管理資料名ローマ字表記、公開用資料名、原資料名、コレクション名等の修正）
- ・画像登録件数 9,597 件（1,889 件新規登録）
- ・音声登録件数 14 件

〈その他、特別利用・辞書機能に関する登録〉

- ・展示 155 件 基本展示や特別展示等で使用した資料を登録
- ・修理 47 件（6,311 点） 資料クリーニングについて月ごとでの登録
- ・その他利用 127 件 特別観覧の登録
- ・教育 1 件 教育コンテンツとしての登録
- ・和暦辞書 1 件 令和の登録
- ・アイヌ語辞書 85 件 主に、公開用の単語を登録
- ・和名辞書 27 件 主に、公開用の単語を登録
- ・住所録 15 件 美術資料の作者名や資料貸借の担当者名などを登録
- ・コレクション 32 件 年度別の購入資料についても登録
- ・分類 85 件 大中小について登録
- ・テーマ 59 件 公開用のための検索ワードとして登録

2) 公開件数

当館公式ウェブサイトにて公開（<https://archives.nam.go.jp/DB/>）。2024年3月時点で以下のとおり。
アクセス数は59,513（2023年4月～2024年3月）。

- ・資料公開件数：155件
- ・画像公開件数：398件

3) 保守管理

システムの定期メンテナンスを2回実施。2023年10月6日、2024年3月7日ともに異常なし。

IV-05-04 資料の熟覧・画像利用

博物館が所蔵する資料の利用に係る規定、要領、要項は以下の通り。

- ・国立アイヌ民族博物館列品管理規定
- ・国立アイヌ民族博物館資料利用要項
- ・国立アイヌ民族博物館職員資料利用要領
- ・国立アイヌ民族博物館特別観覧要領

1) 列品等の特別観覧

- ・23件206点の申請のうち22件205点の対応を行った（職員特別観覧30件301点）

2) 資料等の画像利用

- ・32件43点の申請のうち23件28点の許可の対応を行った（職員画像利用13件17点）

3) 特別観覧等の計画

共同研究における列品等の特別観覧申請0件。

4) 列品等の出品調整

当館事業の基本展示・特別展示等に係る列品等の出品の調整について、職員列品陳列申請を作成し、館内周知を行い、整備した。またそれを基に収蔵品管理システムを使い、各展示にて使用した履歴やこれから使用するという情報を登録し、同時期に使用できないことに気づかせる仕組みにした。また、展示後に収蔵庫へ保管してから365日間は休息日とし、その期間に当てはまる列品の使用は極力控えるように促した。

IV-05-05 分析機器運用

CTなど調査分析機器等を適切に運用するとともに、良好な状態で使用できるよう保守管理を行った。

1) 科学分析装置の運用

当館設置の科学分析装置について運用した。運用実績（件数／使用数）は下記の通りである。

- a) 蛍光X線分析装置 ：金属製資料、絵画資料等の調査（26件／165回使用）
- b) 携帯型蛍光X線分析装置 ：金属製資料、絵画資料等の調査（9件／120回使用）

- c) X線回折装置 : 顔料の結晶構造調査（2件 /21回使用）
- d) 走査電子顕微鏡 : 染色繊維試料等の拡大観察（1件 /5回使用）
- e) X線CT装置 : 収蔵品、借用品等の構造診断、形状解析（42件 /210回使用）
- f) レントゲン撮影装置 : 考古資料等の内部観察（1件 /10回使用）
- g) デジタルマイクロスコープ : 繊維試料、刺繍試料等の拡大観察（1件 /21回使用）
- h) 三次元蛍光分光分析装置 : 顔料試料等の彩色分析（15件 /180回使用）
- i) ハイパースペクトルカメラ : 絵画資料等の彩色調査（2件 /6回使用）
- j) キセノン型耐候試験機器 : 染色資料片の劣化試験（0件 /0回使用）
- k) 恒温恒湿装置、恒温装置 : 調湿剤の調湿、試験等に伴う利用（1件 /1回使用）
- l) 真空凍結乾燥機 : 水損書籍の乾燥処理（1件 /1回使用）
- m) 三次元スキャナ : 大型形状資料等のデータ取得、解析（7件 /34回使用）
- n) 三次元プリンタ : 資料整備、展覧会、研究プロジェクト等での利用（6件 /50回使用）

2) 科学分析装置の保守管理について

調査研究等で利用できるよう保守管理を実施した。下記に実施内容を記す。

- a) 蛍光X線分析装置 : 機器点検（1回実施）
- b) X線回折装置 : 機器点検（2回実施）
- c) 走査電子顕微鏡 : 機器点検（1回実施）
- d) X線CT装置 : 機器点検（2回実施、制御用ソフトウェアの保守含む）
- e) 三次元蛍光分光分析装置 : 機器点検（1回実施）
- f) 恒温恒湿装置、恒温装置 : 機器点検（1回実施）
- g) 三次元プリンタ : 機器点検（2回実施）

3) 共同研究等に応じた、分析等計画調整

当館設置の科学分析装置を当館研究プロジェクトで利用した。使用した研究プロジェクト名及び利用実績（件数 / 使用数）を下記に記す。

- a) 蛍光X線分析装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（24件 /160回使用）
- b) 携帯型蛍光X線分析装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（9件 /120回使用）
- c) X線回折装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（2件 /7回使用）
- d) 走査電子顕微鏡 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（1件 /5回使用）
- e) X線CT装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（36件 /180回使用）
- f) デジタルマイクロスコープ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（1件 /21回使用）
- g) 三次元蛍光分光分析装置 : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（15件 /180回使用）
- h) ハイパースペクトルカメラ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（2件 /6回使用）
- i) 三次元スキャナ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究、2021A07 チャンの形成に関する考古学的研究（7件 /34回使用）
- j) 三次元プリンタ : 2021A05 アイヌ民族資料の科学的保存に関する基礎研究（5件 /13回使用）

4) 苫小牧市教育委員会より寄託の勇払弁天海岸出土丸木舟について

苫小牧市教育委員会より寄託を受けた勇払弁天海岸出土丸木舟について、協定に基づき関連調査及び修理の実施について対応した。関連調査として、取得した三次元データのデータ作成を行い、厚岸町出

土板綴舟との形状解析を行った（7件/34回実施）。

5) 観光再始動事業に伴う模型作成

観光再始動事業にて用いる当館収蔵品の模型作成を実施した。X線CT、3Dスキャナで三次元データを作成し、3Dプリンタによる出力、形状補正、着色を施し事業利用できるよう対応した（模型製作数2件41点）。2024年2月4日から2月11日に行われた「すすきのアイスワールド」にて、タマサイ（3Dプリントモデル）、イコロ（3Dプリントモデル）、タペストリー（印刷出力）を提供した。

IV-05-06 資料収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）

博物館における文化財資料の収蔵環境整備（IPM、燻蒸を含む）に関する計画を作成し、適宜実施した。

1) 収蔵庫内の空気汚染物質濃度について

収蔵庫内の空気汚染物質濃度の測定を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、問題ない状態を確認した（収蔵庫：3地点測定）。

2) 収蔵庫内の温湿度制御について

空調制御による一般収蔵庫、特別収蔵庫内の温湿度制御を実施した。空調負荷を減らすため昨年の設定値を見直し、温度22℃（±2℃）、相対湿度55%（±4%）での制御とした。安定した推移を確認し庫内環境が維持できるよう対応した（測定箇所：17箇所、温湿度データ回収：12回実施）。

3) 展示室及び展示ケース内の温湿度制御

空調制御による基本展示室、特別展示室の温湿度測定を実施した。温度22℃（±2℃）、相対湿度55%（±4%）を目標値に制御し、安定した推移が維持できるよう対応した（測定箇所：77箇所、温湿度データ回収：12回実施）。安定した推移での制御を達成したが、昨年と同様に夏季（7～8月）と冬季（12～2月）は、基本展示室、特別展示室共に、外気の影響による相対湿度の乱れが確認された。空調制御値等の調整（設定温度や露点温度の調整 計15回程実施）し、各室内の温湿度制御を施して問題のない値へ是正した。また、展示ケース内設置の調湿剤について交換作業を実施した。交換数は約300点である。

4) 展示ケース内の空気汚染物質濃度の低減

基本展示室、特別展示室の展示ケース内の空気汚染物質濃度の調査、ガス吸着剤の設置を実施した。有機酸濃度、アンモニア濃度共に東京文化財研究所の指針値以下の値を確認し、問題ない状態の維持を確認した（計測地点：21地点測定）。なお、展示内容によっては資料や支持具類からのガスの放散が予想される場合がある。こうした懸念が発生した際にはガス吸着剤の設置交換を行い、資料の安全な展示ができるよう対応した（作業：25回実施）。

5) 害虫トラップの設置による虫害の監視

館内各所に害虫トラップを設置し1ヶ月毎に回収して捕獲された害虫を調査した。昨年度に続き、館内の害虫の侵入は少ない状態を維持できた（設置箇所：105箇所）。

6) 列品や借用品等の生物処理について

列品や借用品等について、必要に応じて下記の生物処理を実施し対応した。

・薬剤燻蒸（酸化エチレン・フルオロカーボン製剤による殺虫及び殺菌処理）

1 回目：実施日 / 2023 年 6 月 処理点数 / 約 200 点（民具資料、紙資料等）

2 回目：実施日 / 2023 年 8 月 処理点数 / 約 100 点（特別展示借用資料、民具資料等）

3 回目：実施日 / 2023 年 8 月 処理点数 / 約 150 点（民具資料、絵画資料、図書類等）

・凍結処理（-20℃環境下での殺虫処置）

1 回目：実施日 / 2023 年 4 月 処理点数 / 2 点（民具資料 / 中型形状）

2 回目：実施日 / 2023 年 4 月 処理点数 / 1 点（骨製資料 / 中型形状）

3 回目：実施日 / 2023 年 6 月 処理点数 / 50 点（特別展示借用資料、文書類、図書類）

4 回目：実施日 / 2023 年 8 月 処理点数 / 1 点（民具資料 / 中型形状）

5 回目：実施日 / 2023 年 8 月 処理点数 / 1 点（民具資料 / 中型形状）

6 回目：実施日 / 2023 年 10 月 処理点数 / 1 点（民具資料 / 中型形状）

7 回目：実施日 / 2023 年 12 月 処理点数 / 4 点（テーマ展示資料、民具資料）

7) 特別展示に関する重要文化財の借用に伴う環境整備

秋の特別展示（第7回特別展示「考古学と歴史学からみるアイヌ史展」）では、国指定品（重要文化財）を出品した。継続的な国指定品の展示ができるよう、国宝・重要文化財の環境水準の維持制御を視座に継続的な環境整備を実施した。今年度も国指定文化財の借用に問題ない状態の評価を得ており、翌年度に計画される国指定品の借用にも支障のないよう、対応を継続する予定である。なお、第7回特別展示での国指定品の借用・返却を含め、全ての対応を問題なく終えた。

8) 当館収蔵庫における IPM メンテナンスの実施

当館収蔵庫内の IPM メンテナンスを実施し、収蔵庫内の清浄度の向上を図った（実施日 2024 年 3 月 5 日～3 月 7 日）。対象は、一般収蔵庫、特別収蔵庫、前室の 3 室である。微細な塵埃や細部の汚れ等の除去を行った。床面を対象にダスト解析を行うと、作業エリアや頻繁に展示替えを行う資料付近の汚れが顕著であった（採集箇所 / 8 箇所、拭き取り調査箇所 / 7 箇所、塵埃調査 / 12 箇所）。日常的に清掃を実施しているが、微細な汚れは除去しきれないことが確認された。年 1 回の IPM メンテナンスを行うことで細かなケアを施す必要がある。

9) シアターで発生したカビの殺菌及び除去対応

2023 年度の夏の外気温湿度の影響を受けて、シアター壁面等へカビの発生が確認された。要因としては、光熱費高騰の影響を受けて空調使用時間を短縮した際、室内の空気循環効率が低下したためにカビの発生を招いたと推測される。殺菌処置としてエタノール噴霧、ドライクリーニングによる処置を施しカビの殺菌、除去対応を施した（実施日 2023 年 12 月 18 日）。また、空調稼働時間を短縮前に戻すことに加え、空調内に組み込まれる温水、冷水の動作を調節した除湿の機能を付加し、翌年度の対応の備えを行った。

10) 特別展示に伴う輸送環境調査について

2023 年度の夏は湿度の高い気候が続いていたことから、安全な資料輸送を行うためには梱包時の調湿対応が必要であった。第7回特別展示では国指定品や金属製品など、湿度変化に過敏な資料の借用が

多いため、これらの資料を中心に梱包時の調湿剤封入や輸送箱の密閉を施した。加えて、輸送車両内と輸送箱内の温湿度推移を計測し、返却時の密閉対応や翌年度の資料輸送等に反映できるよう下記の状況調査も並行した。

- ・輸送計測 /2 回実施 経路 / 東京⇄白老 測定数 / 計 2 箇所
- ・輸送計測 /2 回実施 経路 / 秋田、岩手、青森⇄白老 測定数 / 計 2 箇所
- ・輸送計測 /2 回実施 経路 / 九州⇄白老 測定数 / 計 2 箇所。

IV -05-07 博物館ライブラリの運営

- ・図書の閲覧（11,964 人、うち子どもは 1,668 名）、複写（66 件）、レファレンス（32 件）に対応した。
- ・特別展示等とタイアップしてライブラリ内において小展示を 3 回実施した。
- ・図書館システムへの図書の登録作業を約 4,200 冊分行った（登録数総計約 32,200 冊）。

IV -06 教育普及

IV -06-01 博物館における教育事業の企画立案及び実施

1) 遠隔授業

オンライン会議システムを利用し、2 校に対し、1 回の遠隔授業を合同実施した。2023 年 4 月 21 日、幌延町立幌延中学校および幌延町立間寒別中学校 3 年生に対して、施設説明やアイヌの歴史・文化の解説等を行った。

2) 出前授業

出前授業は、依頼がないことから実施しなかった。

3) ホリデーイベント

ホリデーイベントとして、特別展示・テーマ展示に関連するイベントを中心に、通算 40 回実施した（工作型 3 件、講演型 10 件、対話型 10 件、ガイド型 17 件、延べ参加者数 3,290 名）。

昨年度に引き続き、記録及びプログラムの評価・検証のためアンケートを各イベントにて実施した。ArCS II 沿岸環境課題・北海道立北方民族博物館との共催イベント「動物の毛皮に触ってみよう」を、昨年度と同様の 5 月の実施に加え、「ウポポイ（民族共生象徴空間）冬のイベント」の関連イベントとして 2 月にも開催した。

開催日	イベントタイトル	外部講師・協力等 (所属は開催時のもの)	計参加人数／名 (内部スタッフ含む)	備考
2023 年 4 月 1 日（土）	第 4 回テーマ展示 「阿寒湖アイヌコタンの“今”と“昔”を語る」	山本栄子氏 (ベウレ・ウタリの会 会員) 廣野洋氏 (阿寒アイヌコンサルン 理事長)	47	
4 月 2 日（日）	第 4 回テーマ展示 「アイヌ語のおはなしを聴いてみよう！」	平良智子氏、山本栄子氏 (阿寒湖アイヌコタン在住・アイヌ文化伝承者)	56	
4 月 29 日（土）	展示を見る前のアイヌ博ガイド「イコロ トゥンプをまわろう！」		17	

2024 年	5 月 3 日（水祝）	第 4 回テーマ展示 ギャラリートーク 第 5 章「ことば」		15	
	5 月 7 日（日）	第 4 回テーマ展示 ギャラリートーク 第 6 章「観光」		14	
	5 月 13 日（土）	第 4 回テーマ展示 スペシャルトークイベント	阿寒口琴の会	70	
	5 月 14 日（日）	第 4 回テーマ展示 スペシャルトークイベント	阿寒口琴の会	64	
	5 月 27 日（土）	動物の毛皮に触ってみよう ― アイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触る―	主催：ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、当館	472	
	5 月 27 日（土）	国立アイヌ民族博物館 館長のお話を聞こう！『毛皮とお金にまつわるお話』		56	*
	5 月 28 日（日）	動物の毛皮に触ってみよう ― アイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触る―	主催：ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館、当館	547	
	5 月 28 日（日）	国立アイヌ民族博物館 館長のお話を聞こう！『毛皮とお金にまつわるお話』		34	*
	6 月 17 日（土）	展示体験「テンバテンパしてみよう！」		204	
	6 月 24 日（土）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 1 回		25	
	7 月 1 日（土）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 2 回		30	
	7 月 15 日（土）	第 6 回特別展示 講演会『『コタン』を編む人―遼星北斗 27 年の生涯』	山科清春氏（遼星北斗研究会）	45	
	7 月 16 日（日）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 3 回		21	
	7 月 29 日（土）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 4 回		22	
	8 月 5 日（土）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 5 回		21	
	8 月 12 日（土）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 6 回		22	
	8 月 20 日（日）	第 6 回特別展示 ギャラリートーク 第 7 回		23	
	9 月 9 日（土）	展示体験「テンバテンパしてみよう！」		363	
	9 月 16 日（土）	第 7 回特別展示 開会記念講演会「『アイヌ史の時代』をどう捉えるか：その広がりや連なりから考える」		54	
	9 月 23 日（土）	第 7 回特別展示 ギャラリートーク 第 1 回		29	
	9 月 23 日（土）	カムイチェブー受け継がれたサケ漁―特別講演「サケ― 謎に満ちた生命の旅」	菊池基弘氏（サケのふるさと千歳水族館館長）	96	
	10 月 7 日（土）	第 7 回特別展示 トークイベント「アイヌ史にみる動物の話」		55	
	10 月 14 日（土）	第 7 回特別展示 ギャラリートーク 第 2 回		22	
	10 月 29 日（日）	ワークショップ「ウポボイのアイヌ語表示を探してみよう！」		9	
	11 月 3 日（金祝）	第 7 回特別展示 ギャラリートーク 第 3 回		18	
	11 月 3 日（金祝）	第 7 回特別展示 ギャラリートーク 第 4 回		20	
	11 月 4 日（土）	第 7 回特別展示 ギャラリートーク 第 5 回		21	
	11 月 18 日（土）	第 7 回特別展示 ギャラリートーク 第 6 回		17	
	12 月 16 日（土）	展示体験「テンバテンパしてみよう！」		126	
	12 月 23 日（土）	第 5 回テーマ展示 絵本『おばけのマールとすてきなことば』読み聞かせ		17	
	1 月 6 日（土）	第 5 回テーマ展示 絵本『おばけのマールとすてきなことば』読み聞かせ		20	
	1 月 27 日（土）	バックヤードツアー		10	
	2 月 3 日（土）	動物の毛皮に触ってみよう ― アイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触る―	協力：ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館	204	
	2 月 4 日（日）	動物の毛皮に触ってみよう ― アイヌ民族と北方先住民族の毛皮利用を知る・触る―	協力：ArCS II 沿岸環境課題、北海道立北方民族博物館	422	
	2 月 10 日（土）	第 5 回テーマ展示 絵本『おばけのマールとすてきなことば』読み聞かせ		50	

3月16日（土）	第6回テーマ展示 すてきなことばアルバム		9	
3月23日（土）	第6回テーマ展示 すてきなことばアルバム		13	
			3,290	

*の人数は「動物の毛皮に触ってみよう ― アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る―」と重複するため除く。



第4回 テーマ展示関連イベント ギャラリートーク 第5章「ことば」（5月3日開催）



ホリデーイベント「動物の毛皮に触ってみよう ― アイヌ民族と北方民族の毛皮利用を知る・触る―」（5月27、28日開催）



第7回特別展示関連イベント トークイベント「アイヌ史にみる動物の話」（10月7日開催）



ホリデーイベント ワークショップ「ウポボイのアイヌ語表示を探してみよう！」（10月29日開催）



ホリデーイベント「バックヤードツアー」（1月27日開催）



第5回 テーマ展示関連イベント 絵本『おばけのマ〜ルとすてきなことば』読み聞かせ（2月10日開催）

4) ギャラリートーク

新型コロナウイルス感染症の状況と日博協のガイドラインの変更に応じて、探究展示の「かわりにテンパテンパ」ならびに「探究展示試行運用」を展示室内で実施し、通算 5,286 組 12,341 名の来館者に対応した。前年度まで行っていた「Touch itak」は 2022 年 9 月にことばのタッチモニターの無人運用開始に伴い自由運用となった。なお、2023 年 12 月からは、探究展示の無人運用を開始した。



ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」



ギャラリートーク「かわりにテンパテンパ」

5) 館外での教育普及事業の実施

2023年8月2日と3日、文科省旧庁舎6階第二講堂にて「こども霞が関見学デー」に参加した。ウコニアシやアイヌ文様を描こうなどを実施し、アイヌ文化の発信と当館のPRを行った。

6) 社会人向け研修の実施

来館した22団体（社会人、大学、教育委員会、官公庁他）805名に対して、アイヌ民族の歴史・文化や博物館の概要などについての研修を実施した。

7) 教材教具等の開発

ホリデーイベントや教育活動など、展示室以外で使える教材教具の検討を行った。その結果、イベント等で使用する「マレク漁と鮭」を学ぶ教材教具を開発した。

基本展示室で展示中の教育普及室が管理する教材教具（探究展示テンパテンバの展示備品）について、管理室が展示企画室へと変更となるため、備品台帳を整理し展示企画室へ引き渡しを行った。

基本展示室前のパノラミックロビーにて、基本展示室内のワークシートと新規ワークシート「チカプウタラ フナラ」（3月より運用）を配架した。この他にも公園との連携事業を通して、ウポボイのワークシートを検討中。また、基本展示室内のワークシートは、当館のホームページからダウンロードを可能とした。

IV -06-02 アイヌの文化伝承に資する研修の企画立案及び実施

当館と協定を結んでいる（公社）北海道アイヌ協会のアイヌ工芸者技術研修事業については、2名の参加者が当館にて資料熟覧などの研修を実施した。

当館主催のアイヌの人たちに対する研修については、4月から「展示資料（アイヌ衣服）複製事業」（2か年計画）を講師1名、技術者2名にて実施した。1年目は、素材を学ぶ研修会や資料の熟覧、原寸図の作成等を行った。

来年度の新規事業として「家庭でできる保存科学（仮）」などを検討中。

IV -06-03 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の検討

博物館実習の実施内容について、全国の博物館より、国立館、都道府県立の博物館、北海道内の博物館、アイヌ文化関連の博物館など約200の博物館での実施状況と実施内容の調査を行った。その中から、ヒアリング対象館13館（実習実施有／無の両者を含む）を抽出した。

当館で現実的に10日間の博物館実習を繁忙期に行うことが可能かどうか、その内容はどのようなものがありうるかについて検討を行い、その検討をもとに次年度計画を作成した。

IV -06-04 教育旅行等で来館する学校に対する教育プログラム

教育旅行で来館する学校教育団体向けに、学習プログラム「はじめてのアイヌ博」を実施した。具体的には、より有意義な展示見学のため、来館した小・中・高等学校等に対して、前提となる知識・見学の要点について解説を行った。2023年度は、123校、129件、引率含め9,303名に実施した。

実施にあたっては、事前連絡を行い、児童・生徒の実態に即した内容を提供した。同年11月より、事前連絡時に、「当館webサイト上のワークシートへの誘導」「動画教材に関する周知」を実施した。

更に「はじめてのアイヌ博」プログラムの更なる改善について検討するため、副担当やエドゥケーターに意見聴取を行った。実施内訳等は下記の通り（小数点第1位以下は切り上げ）。

■校種内訳

校種	件数	割合
小学校	49	38%
中学校	35	27%
中学校（特別支援学級）	0	0%
高等学校	38	29%
特別支援学級	0	0%
特別支援学校中学部	2	2%
特別支援学校高等部	3	2%
その他	2	2%
合計	129	

■地域内訳

地域	件数	割合
オホーツク	3	2%
札幌	9	7%
空知	5	4%
釧路	0	0%
後志	7	5%
根室	2	2%
宗谷	1	1%
十勝	3	2%
上川	1	1%
石狩	10	8%
胆振	39	30%
渡島	3	2%
日高	0	0%
留萌	0	0%
檜山	2	2%
道外	44	34%
合計	129	

■学年内訳

学年種別	学年	件数	割合
小学校	1	0	0%
	2	2	2%
	3	1	1%
	4	21	17%
	5	3	2%
	6	23	18%
中学校	1	15	12%
	2	9	7%
	3	10	8%
高等学校	1	4	3%
	2	31	24%
	3	3	2%
特別支援学級	1	0	0%
	2	0	0%
	3	0	0%
	4	0	0%
	5	0	0%
	6	0	0%
特別支援学校 中学部	1	0	0%
	2	1	1%
	3	1	1%
特別支援学校 高等部	1	0	0%
	2	2	2%
	3	1	1%
その他		2	2%
合計		129	

■利用教科内訳

利用教科科目	件数	割合
社会科	2	2%
地理	0	0%
歴史	0	0%
公民	0	0%
道徳	0	0%
総合的な学習／探求	54	44%
特別活動	67	54%
その他の教科	1	1%
教科不明	5	4%
合計	129	

■選択プログラム内訳

プログラム種別	件数	割合
はじめてのアイヌ博	102	79%
はじめてのアイヌ博 (クイズ)	26	20%
遠隔授業	1	1%
教材開発協力	0	0%
連携学習	0	0%
合計	129	

■受講者内訳

受講者区分	人数	割合
児童生徒	8,521	92%
引率	782	8%
合計	9,303	

■平均滞在時間

平均滞在時間	176 分	2h56m
--------	-------	-------

IV -06-05 学校教育と連携した取り組みの企画立案

- ・アイヌ民族の歴史や文化に対する理解を深める教員向けの研修会として、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を7月31日（月）に開催した。高等学校の学習指導要領改訂を考慮し、受講対象を、全国の小・中・高等学校の教務主任、研究部長、道德教育推進教諭等、アイヌ民族に関する教育の推進を担う教員、またはその推進に意欲的な教員および教育委員会等の教育に関する機関の職員とした。現地参加43名、リモート参加16名、計59名の教職員らが参加した。次年度も継続して実施し、アイヌ民族の歴史や文化に対する教員の理解や指導力の向上を図る。

・学校授業用の動画教材開発「アイヌ民族に関する指導教材」

動画教材、活用ガイド、授業に係る学習指導案とワークシートについて、教員等に配信できる「アイヌ民族に関する指導教材」webサイト (<https://kyozai.nam.go.jp/>) を公開した（2023年4月）。2023年度は207件のパスワード請求があった。

【小学校社会科及び中学校社会科（歴史）用】

2021年度、北海道教育委員会等と協力し、教科書に沿って授業を進めるにあたり、アイヌの歴史や文化への理解がより深まるよう授業で利用できる動画教材と指導案を作成した。中学校向けの授業事例の執筆を協力中学校教諭に依頼し、配信用ウェブサイト (<https://kyozai.nam.go.jp/>) に授業事例の追加掲載を行った（2024年3月）。

【高等学校用】

2022年度、北海道教育委員会及び道立高等学校の校長、教員で構成する制作委員会を設置し、高等学校地理歴史・公民等の授業で利用できる動画教材の制作を行った。その配信用ウェブサイト (<https://kyozai.nam.go.jp/>) に学習指導案及びワークシートの掲載を行った（2023年5月）。

- ・白老町立白老中学校の生徒2名に対して、職場体験学習（9月5日、6日）の対応を行った。
- ・北海道登別青嶺高等学校の生徒1名に対して、インターンシップ（11月8日、9日）の対応を行った。

国や教育委員会が行う教員や公務員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する研修への協力

- ・北海道開発局職員85名を対象に研修を行った（9月13日）。

※人数および団体数はIV -06-01 6 社会人向け研修の実施の報告に含まれる。

IV -07 一般運営業務

IV -07-01 利用サービス

1) 感染症対策全般

新型コロナウイルスの「5類感染症」移行（2023年5月8日）に代表されるように、行動制限の緩和が進んだ一年であったが、当館では引き続き、重症化する恐れのある感染症への対策として、次の取り組みを行った。

a) 博物館入館制限廃止後（2022年9月24日以降）

・マスク

ウポポイへの入園に当たってはマスクの着用を必須とし、やむを得ない事情により着用していただけない来園者には、指針等に沿って適切に対応することで、差別等が生じないように十分に配慮した。

・検温

入場ゲート前において検温を実施し、37.5℃以上の発熱があるお客様については入場をお断りした。なお、町内の病院と連携し、発熱のあった来園者の受け入れを要請した。

・消毒

館内7か所に消毒液を設置し、徹底的な消毒を促した。車いすやベビーカーなどの貸出備品については、返却の都度消毒を実施したほか、一部貸し出しを休止した。各施設のドアノブ、手すり、机・椅子など、不特定多数の方が触れやすい場所について、定期的に消毒を実施した。トイレについては清掃・消毒を徹底し、ペーパータオルを設置した。

・ソーシャルディスタンス

館内放送により注意喚起を行った。また、飲食可能なスペースについては、テーブルの間隔をあけて密が発生しないようにした。

・業務遂行にあたって

当館職員の取り組みとして、北海道知事の要請に準じ、マスク着用の徹底、検温およびアルコール消毒等を実施した。ホリデーイベント等の際には、換気、マスク着用、手指消毒、使用する物品の消毒、参加グループ間の間隔を十分確保するなどの対策を実施した。

b) 新型コロナウイルス5類感染症移行後（2023年5月8日以降）

・マスク

来客、関係者及びウポポイ来場者にはマスクの着用を原則求めないが、イベント等の必要に応じて着用を要請するものとした。

・検温

事務室内及びウポポイ入場ゲートに設置している検温器については廃止した。

・消毒

アルコール消毒器については当面設置を継続するものとし、イベント等に当たっても、必要に応じて手指消毒を要請するものとした。ドアノブ、手すり、机・椅子などの消毒については、通常の清掃作業に変更した。

・ソーシャルディスタンス

アクリルパーテーションについては、原則廃止としたが、受付窓口など多くの人と対面する箇所につい

ては、設置を継続した。

・業務の遂行にあたって

職員においては、マスクの着用を個人の判断に委ねる一方、手指衛生、換気等の基本的な感染対策に取り組むこととした。重症化リスクの高い職員にあっては、流行期には感染リスクの高い状況を避けるよう努めた。

2) 観覧者の利便性向上のための対策

a) 館内での利用案内

来館者が快適に博物館を利用できるように、館内では1階、2階と案内スタッフをポジションごとに配置し、展示室への案内、障がい者、高齢者等の利用サポート、外国人への多言語案内等、常に来館者のニーズに合った対応ができるように努めた。

b) 受付

来館者の要望に応えられるように、各施設でプログラムの案内、チラシやパンフレットの配布、また来訪者への連絡対応、外国人来館者への多言語対応等の各種サービスの提供を行った。

c) 電話対応

博物館に関する電話問合せの対応を行った。また、2023年3月1日より当財団白老事務所のコールセンター運營業務の委託を行った。

d) 館内放送

来館者からの要望で、迷子等の搜索や拾得物の問合せがあった場合は、無線機等でスタッフ間での情報共有を行い対応した。

e) 障がい者・高齢者等の利用サポート

車椅子、杖の利用者、またご高齢の来館者については、積極的に声掛けを行い、要望への対応、各展示室への案内等、ニーズに合ったサポートを行った。

また、視覚障がい者を含めた来館者の利用をサポートするため、点字を表示した触知案内板を3台設置した。

f) ガイドアプリの利用案内

公式ウェブサイトダウンロード方法等について掲載し利用案内を行った。

g) 音声ガイド機・シアター多言語ガイドの貸出及びガイドアプリの利用案内

新型コロナウイルス拡大防止のため貸出を見合わせていた音声ガイド機について、2023年5月より貸出を開始した。シアター多言語ガイドの貸出を実施した。ガイドアプリはウポボイ及び当館ホームページや看板、声掛けにより利用案内を実施した。

h) 多言語対応数

最大8言語（アイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、ロシア語、タイ語）。

このうちメインとなる言語はアイヌ語、日本語、英語、中国語簡体字、韓国語の5言語。

i) 来館者等からの苦情・要望等への対応

当館に関する質問等については、展示室対応をはじめ、メール、電話、FAX等にて広く受け付けた。大きなトラブルはなかったが、苦情、要望があった場合は、来館者の心情に寄り添い、誠心誠意お詫びし、要望等すぐに改善できる内容については迅速な対応に努めた。

j) 施設利用アンケートによる来館者の満足度やニーズの把握

ウポボイ来場者アンケートの内容をエクセルデータで蓄積し、随時当館職員へ共有することで、来館者への対応の向上に努めた。

k) 日常点検

研究員、学芸員、アソシエイトフェロー、エデュケーター全 29 名が、チェックシートの項目に沿って、交代で基本展示室及び特別展示室の点検、確認を行った。また、年 4 回に分けて基本展示室と特別展示室の展示ケースについて定期点検を実施した。このように周期を定めた点検作業を実施することで異常の兆候をできる限り早く見つけ、すぐに適切な処置をすることにより、突発的な故障、不具合などによる業務への支障を未然に防いだ。

IV -07-02 広報企画

1) 特別展示・テーマ展示のポスター・チラシの作成と配布及びメディア取材関係

a) 第 6 回特別展示（アウトリオピッタ）

・第 6 回特別展示ポスター



・広報物製作部数・配付先

チラシ 60,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,644 件

パンフレット 20,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,489 件

・内覧会の取材

メディア数 5 社

苫小牧民報社、白老町広報編集室、室蘭民報社、毎日新聞、北海道新聞社

b) 第7回特別展示（考古学と歴史学からみるアイヌ史展）

・第7回特別展示ポスター



・広報物製作部数・配付先

チラシ 50,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 3,630 件

パンフレット 7,000 部

全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 1,505 件

・内覧会の取材

メディア数 5 社

室蘭民報社、白老町広報編集室、北海道新聞社、毎日新聞、苫小牧民報社

c) 第5回テーマ展示（ウポポイナイトミュージアム）

・第5回テーマ展示ポスター



・広報物製作部数・配付先

チラシ 20,000 部

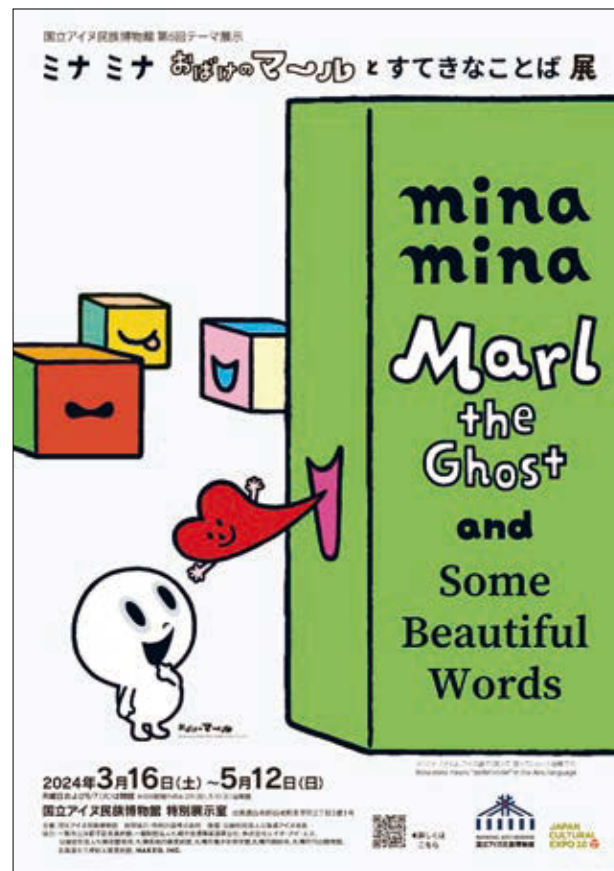
全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 217 件

・内覧会の取材

メディア数 6 社

苫小牧民報社、室蘭民報社、読売新聞苫小牧支局、NHK 室蘭放送局、白老町広報編集室、北海道新聞社

- d) 第6回テーマ展示（ミナ ミナ おばけのマールとすてきなことば展）
・第6回テーマ展示ポスター



- ・広報物製作部数・配付先
 - チラシ 60,000 部
 - 全国の博物館、北海道アイヌ協会や各地域のアイヌ協会など計 4,172 件
 - ゲームブック 20,000 部
- ・内覧会の取材
 - メディア数 3 社
 - 室蘭民報社、苫小牧民報社、北海道新聞社

2) 博物館を含むウポポイの情報発信及び各種広報

a) ホームページの管理・更新

当館ホームページ（<https://nam.go.jp/>）では、常に最新の情報を閲覧者に提供できるよう、展示情報、お知らせイベント等の博物館情報について更新を行うとともに、ホームページに異常が発生しないよう管理を行った。

b) SNS

2 つの SNS を運用し、各種広報を行った。

Facebook：<https://www.facebook.com/upopoy/>

Instagram：https://www.instagram.com/ainumuseumpark/

c) 園内マップ・パンフレット

来園者に各施設やプログラムについて情報を提供するため、園内マップ及びプログラムのパンフレットを製作し配布した。プログラムに変更があった場合は随時内容の修正を行ったほか、臨時の変更があった場合や、特別イベントの実施時には、ウポポイウェブサイト及び園内のデジタルサイネージへの掲載や、ポスター等を設置することで、常に最新の情報を来園者へ提供した。

d) そのほかの広報

施設やプログラム等の営業情報、イベント等の企画情報等を各種報道機関、雑誌や Web 等に発信した。また、取材対応し、施設の認知、利用促進への広報活動を図った。

3) ロゴマーク並びに PR キャラクターを利用した広報活動

公共団体や報道メディアほか、一般事業者や団体などからのロゴマーク並びに PR キャラクター「トゥレツポん」の利用依頼について対応を行った。

利用の周知のために公式ウェブサイトに専用ページを作成し、専用のアドレスにて利用申請を受付し管理運営を図った。

<https://ainu-upopoy.jp/download>

また、博物館のロゴマークを使用したノベルティ（紙クリップ）を作成し、プンカラ協働展示のイベント（会場：文化庁国立近現代建築資料館）で配布した。

4) 教育旅行誘致に関する事業

「北海道教育旅行説明会・相談会」

＜山形・福岡・香川・名古屋・大阪・神奈川・東京・埼玉・兵庫＞の参加

各エリアの教育旅行事業者、学校の関係者に向けて博物館を含むウポポイ PR 説明、体験プログラムなどについて個別説明を行った。（JR 事業を含む）

山形 2023 年 07 月 05 日（水）：山形市生涯学習センター「遊学館」

福岡 2023 年 09 月 15 日（金）：第五博多偕成ビル

香川 2023 年 09 月 28 日（木）：高松センタービル

名古屋 2023 年 12 月 04 日（月）：名駅 I M A I ビル

大阪 2023 年 12 月 05 日（火）：A B C - M A R T 梅田ビル

神奈川 2023 年 12 月 06 日（水）：O N E S T 横浜西口ビル

東京 2023 年 12 月 07 日（木）：芝パークビル

埼玉 2023 年 12 月 08 日（金）：T K P 大宮駅西口カンファレンスセンター（JR 主催）

兵庫 2024 年 02 月 16 日（金）：三宮コンベンションセンター

5) 地方自治体等が行うウポポイ PR 活動等との連携

白老町の実施事業「北海道・白老町×ウポポイフェア」に参加した。同事業において、白老町、（一社）白老観光協会、（一社）白老アイヌ協会と連携してウポポイ PR 活動を行った。

仙台 2023 年 10 月 21 日～22 日：藤崎百貨店（仙台市青葉区一番町）

東京 2023 年 11 月 04 日～05 日：新宿高島屋（東京都渋谷区千駄ヶ谷）

IV -07-03 事業予算

当館は文化庁直営だが、その運営は公益財団法人アイヌ民族文化財団に委託されている。その事業費は文化庁から財団に送られる委託費と入場料やテナント料などの事業収入とでまかなわれる。

収入		支出	
内 訳	予算額（千円）	費 目	予算額（千円）
入場料・テナント料等	436,181	設備備品費	100,440
委託費	1,389,707	人件費	398,196
		事業費	679,262
		再委託費	482,000
		一般管理費	165,990
計	1,825,888	計	1,825,888

本誌は当館公式ウェブサイト上で電子版を公開しています。
This annual report is available online on our museum website below.
<https://nam.go.jp/>

国立アイヌ民族博物館

年報 2023（令和5）年度

National Ainu Museum Annual Report 2023

発行日 2025年9月6日

編集・発行 国立アイヌ民族博物館
北海道白老町若草町2丁目3番1号
<https://nam.go.jp/>

ISSN 2758-5131

非売品

© 2025 国立アイヌ民族博物館

Edited and Published by National Ainu Museum
2-3-1, Wakakusa cho, Shiraoi, Hokkaido, JAPAN
<https://nam.go.jp/>
Not for Sale

an=ukokor aynu ikor oma kenru

National Ainu Museum

Annual Report

2023



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間